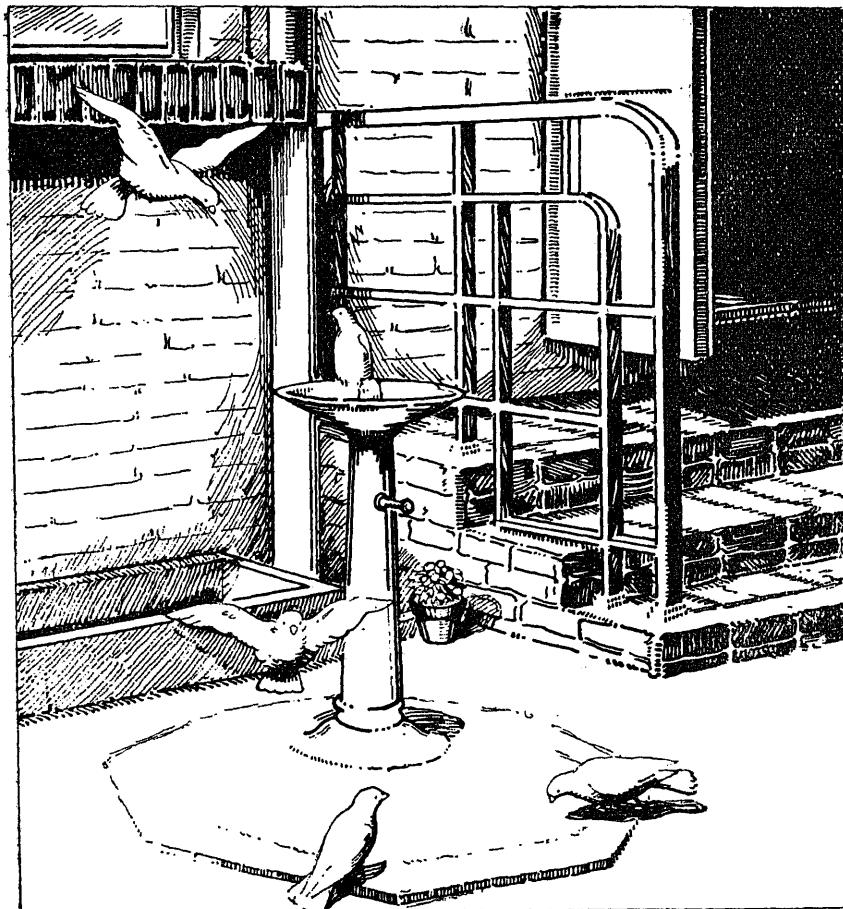


幼兒の教育

號九・八第 號月九 卷五十三第



東京女子高等師範學校内会
日本幼稚園協会

文部省學校衛生官體育研究所技師

醫學博士 吉田草信先生著

菊制一圓二十錢送料廿二錢

刊 新

十八

學校衛生評價

学校に於ける衛生の施設は児童の保健上最も留意せらるべき重大問題である。本書は學校衛生施設の評價を研究したもので、全般的に學校衛生の向上を計り、其一部の施設に於て得たる効果を他の一部に於て失はざる様終始連絡を取り、更に在學中に得たる効果を生涯を通じて保有せしめ、以て眞に強健なる國民を養成すべきを力説する。而して學校長の自己の衛生施設に対する態度と各擔任の定めかた、學校に關する關係官廳に於ける施設、師範教育に於ける衛生評價に關する實習の必要等にも言及し、一、健康保持、二、疾病異常矯正と缺陷者の保健、三、健康増進の三大綱目に別ちて當局者の採るべき道を巨細に亘りて評説し、斯界最高の指針とする。乞必讀。

助東京帝國大學
教授 文學士 青木誠四郎著

醫學博士 三田谷啓著

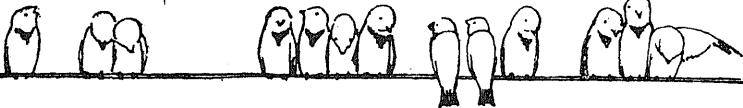
學 堂 保 健

菊定送
判價料金一金三十三册四三洋圓錢綏

本書は學童の健康増進に其一生を費さざるとして、挿げつゝある篤學の博士が凡ての薦薦を傾倒して著せられたる業績である。従つて其内容に於ては苟しくも學童の保健に關する限り、之れを學的、統計的、施設的等各方面より陥なく詳説し、猶ほ其の實際問題、現狀に基立して懇切に指導してあるから學校教育家は勿論各家庭に於ても本書に依つて學童健康の萬全を期し得る良書である。

菊定送判價料等しく人類と生れ乍らも天賦程其の恵みに不公平の物はない。今假に兒童の天分を學的に分類して天才・最上智・上智・平均智・下智・愚鈍等精神薄弱・低能・白痴に分類するとは極端な低能兒は全兒童の約2%を占め猶之れに下智・愚鈍等の統ての偏異者を合すれば三十五%に及ぶと言ふ。著者は只管に之等世に憐むべき人達の幸福を少しでも増す爲に、より完全な教育を懇惲する爲に本書を世に問ふたのである。

番七二四八三京東替振込牛話電 番五二三三込牛市京東區 行發所書館中文



號九・八第 育 教 の 兒 幼 卷五十三第

—(次) 目—

口 繪

卷 頭(雜草)	倉 橋 懿 三 (一)
こどもが自分を見出す時	齋藤善太郎 (二)
秋の幼年章謡の中より(上)	葛原しげる (九)
幼稚園令公布十周年記念講演	(三)
フランスに於ける幼兒保育に就いて(上)	白 根 孝 之 (空)
兒童心理學文獻抄	牛 島 義 友 (歎)
或日のトミ	赤 頭 布 (充)
本會主催夏期講習會	
今年の講習會	新 庄 よ し こ (一)
講習出席の所感	大 塚 喜 一 (全)
感 想	徳 久 孝 (空)
おみやげ話問答	S K (空)
幼兒の性情の涵養	倉 橋 懿 三 (100)
雜 錄	(一四)

上澤謙二先生編著

四六判美装
函入四二〇頁

「秋の巻」新刊 定價一圓二十錢

送料十四錢

新幼兒ばなし

三百六十五日

附明説方取扱日毎

全四冊

春の

重版

夏の

近刊

秋の

新刊

冬の

近刊

春の

新刊

夏の

近刊

秋の

新刊

冬の

近刊

春の

新刊

夏の

近刊

秋の

新刊

冬の

近刊

日日の話の目的と取扱

方を附した懇切な本だ
其儘読み聽せても萬點
幼稚園に家庭に！極め
て良心的な豊かな本だ

何時もインサップやグリムでは物足らぬ人達に！

本書は主に現代歐米作家から話材を探りこれに著者の創意を加ふ。實際口演者の爲にも至便だ

「春の巻」—内容の一部—太鼓の中の兵隊さん・五ヒキノブタ
新しい一年生おめでたう・櫻ンボの冒險・腰まがりおばあさんの家・うねりくねり路・「君ヶ代」のおはなし・犬よりも強いお母さん猫の話・散歩にいつた三匹の豚さん・小さい羊飼等。

・幼い者に話をする人——親や
媒婿や教師や童活家は何時も恐
らく此二つの岐路に立つであら
う。何故なら幼ない者はその話
によつて或は不健全になり、或
は一生明るい指標の下を辿るで
あらうからだ。

・世に有難いことは多い。然し
しの話もオバケの話も、的に立
つ矢の様にビンビン根深く彼等を射
を射るからだ。

實物提示
による 幼兒に聽かせる話

久連松弘先生著

價二・三〇 送二

幼稚園 お ゆ う ぎ

長尾 豊先生著

價一・八〇 送一

愛兒讀本

カタカナノ巻
ひらかなの巻

小野政方先生著

價各〇九〇 送各〇八

幼稚園や 低學年の 生活圖畫指導

三森連象先生著

價二・六〇 送一

石井 小浪先生著

價〇・八〇 送〇八

幼稚園 の 舞踊

小林 道子先生著

價一・四〇 送一

幼稚園
低學年

お は な し

長尾 豊先生著

著一〇

幼稚園教育の實際

永澤義憲先生著

價一・八〇 送一

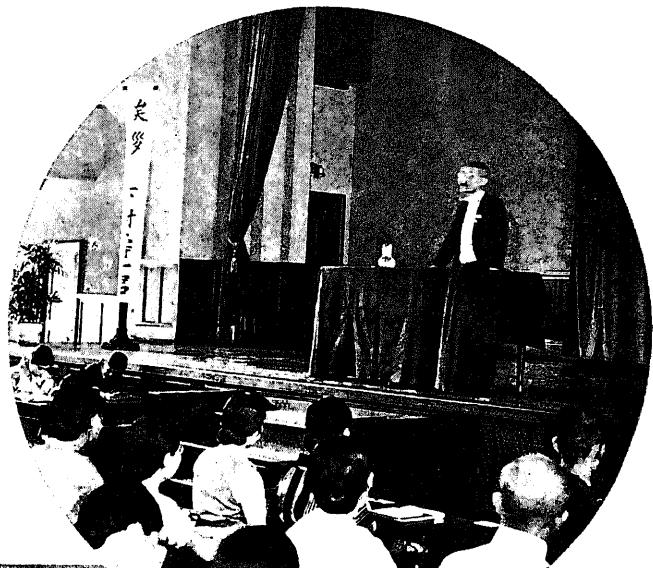
著一四

町番六下・町麿・京東

厚生閣

番八一二三三段九話電
番〇〇六九五京東替振

下村開會辭長



長會村下 師講樹山 師講森岡 師講屋關 長前會吉

幼稚園令公布十周年
記念講演會

育教の児幼

昭和十九年月

雜草

休暇あけの幼稚園の庭が、また雑草園になつてゐる。子さもを迎へるに何も格別の準備のない中で、こればかりは大した準備だ。

子さもを迎へる第一の用意は、さうして、子さもたちの心を、らくにさせ得るかにある。準備々々心を入れ過ぎて、餘りに隅々事毎にキチンとしてるるご、子さもは一種の窮屈を免れないであらう。と言つて、餘りの亂雜不秩序は、子さものやわらかい心を面くらはせ、らくを通り越して混沌たらしめるであらう。むつかしいのは其の中間であり、中庸のよろしきを得ることである。

建築内は、入口も廊下も室も、床も窓も天井も、掃き清められ、拭ひ清められてゐなければならぬ。庭も、刈るべき芝も整ふべき枝もには充分手が入れてなければならぬ。植ゑた花壇も鉢もちゃんと掃除されてゐなければならぬ。そうした上で、伸びるがまゝに伸びさせられ、茂るがまゝに茂らされてゐる雑草園こそ、教養の間に漏れてゐる天真の素朴さのやうなものである。以て、子さもの心に、何より自然な、くを與へずにはゐないであらう。

(倉橋生)

こぞもが自分を見出す時

——「神」への教育につきフレーベルに聞く——

齋 藤 善 太 郎

まへの稿を…それなりには「此のころもちを分りあひたい」といふ心でさはあつたにしても—其れを書きつづけてゐながらも、「僭越なこゝである」、「よし古典の心を温めるつもりにしても、自分でなし、してはゐぬこゝ、その意味で知りもせぬこゝをこやかくさげつらうて」と思はれ〜して、あひすまない氣をよく感じさせられてゐました。そして殊に、私事ながら、活ける宗教々育を、「言」には出でぬながら寂かにしかし烈々かなしつゝある方の眼にふれるこゝをも知つてゐたので、「僭越である。うちきらう」と思はせられてゐたのでした。こはいふものゝしめくゝりもせずに消えたのではこれもすまぬしこあるくになつてましたが、たま〜見つゝあるフレーベルの「人間の教育」のながい、いくら読みかへしてもいゝ節、いな、ほんとうな意味で「古きを温め」ねばならぬ箇所がありましたから、そこを互ひに読みあふころで數節抜いて、原意はかうもあらうかご察しあつてみるこゝにします、そしてさうするこゝによつて、不束なりし稿を了らせてもらふこゝにします。

原書レクラム版の五一頁の下になりますが、そここ。

「」がもの最初のはうえみこいふものは極めて意味深い時期であつて、こぞもの生活にうつて一つの劃期的な發達階段で

ある、それはこどもが初めて自分こいふものを見出したしるしである、そして此のこころに、その根をたがつてゆく、
こどもの自分こ、こどもをこりまく社會、しかも大きく高い意味での其れこの係はりにほりさげて行くことになる當の其の
ものが、あらはれてゐるのである。」

「此の「一つである」といふところも、お母さんもお父さんもそして兄弟達もみんな自分こ「一つなんだ」といふ感じ、こども
のかういふ共同感情、これが宗教心の芽である。」

ほゞかういふことを述べながら「よく」に説明してゐます。そのときより注意すべきは、「眞の宗教心」もしくは「眞に
宗教的にある」といふことからそれを

『永遠なるもの、神じん、はゞあるへこなき合一に達せん』する眞の努力』

この言ひ換へてゐることであります。譯出しますと逆になりますが、原文の順序では、『すべての眞の宗教心、すべての眞の
努力……』といふ言葉の並びになつてゐまして、しばく眞のではないむしろ僕の若しくは末の末なる、いはゆる宗教に
私達の迷ひ入り乃至は反撥を感じやすくなることから私達を救つて、行くべき所へ私達を眞直ぐに連れていつてくれます。
此の續稿の最初のあたりに引いて、宗教とは宇宙こ一つにならうとするここであるといふ意味のシュライエルマッヘルの
言葉をおしらせしたのも、かういふところであつたのであります。フレーベルのいふ意味の宗教こは如何なるものか、そ
れと生活この關係は如何になつてゐるかを此の言ひ換への一句はよく示して下くれるのでありますが、さらにさきの「共
同感情」の説明のこことも、そのここを更に深く解せしめてくれるものがあります。すなはち、

「一つである」といふ此の最初の共同感情、これはまづはじめにこどもを父母兄弟姉妹こ一つにならしむるものであり、そ

の根柢にはより高き精神的合一がよこたはつてゐるものである。」

「みんな一つである、一體である、より大いなるより深くより高き一全體の中に在つて互に一つである、共同共通である。」*云々*を説明してから、

「此の合一に結びついて、それのうへに、やがて確乎たる認知ができる、父も母も兄弟姉妹も人々もみんな、もつゝ高いあのもの、人の人たる所以のもの、神、*云々*共通共同であり、一體であることを感じるやうになり認識するやうになるのである。」

*云々*云つてゐます。此の本・すなはち「人間の教育」の有名な開卷第一のあたり*云々*照應して、宗教乃至宗教々育に關して私達を真直ぐにしかも足元深くつれていつてくれます。

「へへいらでも、少し立ち入りすぎるかもしませんが、父、母、兄弟姉妹、人々、みな神*云々*共同一體である*云々*を*云はう*として、その「神」*云々*言葉を出すまでに、ひつつの「より高きもの」、すなはちあの「人の人たる所以のもの」、すなはち「神」、

さうふ風にして、しだいへに高く深く、いはゞ足を宙には浮かさずにむしろ現實に十分即せしめながらしかも高まるべきところまで高め、深まるべきところまで深めさしててくれる此の用意—宗教々育に關してあまりにも迷路の多すぎる今よりすれば殊に其の用意の實に用意たる所以を感じしめるゝもの—も、感謝しつゝ味はつておきたいと思ひます。

二

まへの所は宗教のこゝを述べるための所*云々*よりか、こゝもが自分自身をしたがつて社會をいはゞ見出すこゝについて述べながら、いつのまにか*云はう*か必然に*云はう*か、はなしは當然宗教々育のこゝにふれてきたのでしたが、それ

であるからして、さきの「」を述べてゐた節はなほ次のやうにしてすゝめられてゐます。すなはちこのやうにして

「」がものかゝる共同感情は眞の宗教心の芽、尖端であるから。」

眞の宗教、生きてゐる宗教、危險にさらされ鬪争のなかをぬけ、重壓のもとに困苦のなかにも、快樂のうちにあれ歎喜のうちにあれ、如何なる時如何なる所に處しても凜然自ら立ち得るが如き宗教、かゝる宗教は、なほ乳呑み子たるごきより人間に來るべきものである。

さういつて、宗教々育は、それはまゝの教育そのものにほかならないから、人間への、人間としての、人の教育のそもくの初めから在らねばならぬことを強調してゐます。そして附け加へて

「いふのは、有限のうちに人間としてかく實存するにいたれる此の現はれ出でたる神的なるもの、すなはち、人は、神的なるもの即ち神よりして現はれ出でたるものなることを、ほのかなる豫感としてではあるが、はやくより氣ついてゐるものである。そしてこのほのかなる豫感は、それはなほきはめてぼんやりしたものではあるが、はやくより養ひ育て、強めやがて意識として高め、明らかなるものとしなければならぬからである。」

こ云つてゐます。

そしてつづけて、締をあらたにして、

「母がまぎろむ、いざもをかきいだきながら、こゝろしづかに、此の子のそしてまた自分の父であるいたかきものに、したしげなるまなざしをむけ、其のあたゝかき御守り慈しみふかき御計らひを仰ぎ求めながら、柔かく安らかなる寝床へこゝぎもをよこしたへるさまは、おもふに、眼には見えぬながら靜かに見守りたまふものにこゝて悦はしくも心うたるゝさまなるはもごより、」がもそのものにこつても、そは永遠なる救ひと祝福をきたらしむるものである。」

云ひ、さらにつづけてしかし節をあらたにして、

「静かに歡ばしげにほゝえみながらめざめたる子を、かくも安らかにしかもいやましに強くしてまためざめしめたまへる大いなる父に静かなる悦びの感謝を仰ぎおくりながら、いはゞ今新たに大いなる御手より賜はりしものゝごとに、おのづからもるゝ感謝のこころに動く脣もて、寝床より母がこりあぐるならば、こは、まさに心うたるゝげにも悦ばしかるゝこなるはもごより、こだもにこつて今も將來もその生活のため極めて意味深く、祝福に充てるこことある。いな、子の母のあひだの今後の深き生ける係はりにこつて、最も喜ばしき影響をあたふるものである。

云つてゐます。大意をこゝ自由にこりながらぬき／＼してゐるのであります。原筆者はさだめし高鳴る心をもつて書きすゝんでゐたであらう。原文の文脈の進みかた、言葉つかひのあひだから來るものに、感じさせられます。

三

自分自身をいたもが見出す、したがつて社會、大いなる社會のうちににおいてあることをいたもは感じる。さういふことはフレーベルはふれながら宗教々育のこころにはなしがはいつてゐたのであるが、五四頁の方にきて、『自己發見』、『共同感情』、『宗教』、こすゝんできたのをひきまとめに結ぶやうにして、

「父たり母たるもの、親たるもののが其の子に、かゝる不動の據り所、かゝる搖ぐ／＼なき中心點を、こよなき贈物として身につけさせやうと欲するならば、親の子は、内的にも外的にも親しく一になれるものとして常にあらはれてあらねばならぬ。静かなる室内にあるにせよ、自由なる自然のなかにあるにせよ、おのが神にして父なるものと祈りのうちにあつて一なるものとして感じもし識つてもるねばならぬ。」

云つてゐます。そして、今もしばらく誤解におちいる如く、フレーベルの讀者たちも、かういふやうな言ひ方に對し

て、フレーベルの云はんこするこころを、むしろこらへそゝねる傾きがあつたものか、こんな風に附け加へてゐます。すなはち、

「なんぴきいへども、「そんなことはこだまに分りはしない」なきへ云ふべきではない。(もしそんなこを云ふたらそれはこだもの持つてゐる最高のものを奪ひうるこになるのだ)」。こだもの親いふものは、もしひざく荒ませられてしまつてゐるか、自分いふものをひざくよそ／＼しく遠ざけはてゝしまつてゐないがぎりは、親のかくすることが分るのであり、分るやうになるのである。こだものが分るのは概念でではなく、自分の内なるものによつてある。」

こ云つてゐます。フレーベルのものは、こゝのみでなく他の所でも、宗教乃至宗教々育に關するかぎりで云つても、決して單なる形而上學、一派の神學をかまへて其れを述べたてやうこいふやうなものではなく——むろん彼の世界觀人生觀したがつて教育觀から來た思想背景、いな、これこそ事の眞實であり、したがつて其の眞實をまことに眞實たらしめてゐる法であるとして、彼のあくまでもこつて動かざるもの、信念があつて、其れがおのづから形而上學的理論の結構となつて彼の論述の骨骼をなしてゐるが——むしろ生。生の發展を静かにしかも敬虔に直觀して、そこから事の眞實、其の眞實を導く法の必然的發展を語るのであるから、おそらく、理論を離れて、こだもならこだも。己を空しくして直接に觀てゐるには、直ちに、まさに恒に新たなる眞理として迫つてくるものだと云へるかと思ひます。しかし、こは云ひながらも、殊に誤解の多き、ここによれば理解に困難な宗教々育については、このフレーベルの附加が、いつも必要であらうとは思はれます。

四

宗教々育に關して、ぬくだけでもぬき／＼しゃう／＼すれば、數多くの箇處を此の書は含んでゐます。いな含みすぎてる

るほど含んでゐます。いなそれどころか、「人間」の「人間らしさ」への教育をしか説かうしない此の書は一つの見方からすれば、全部が、「人の人たる所以のもの」「神」への教育、宗教々育にはかならないことを云へます。したがつて、宗教々育をフレーベルに聽かうとすれば——そして私達は、巷にかまびすしき種々なる論議を聞くまへに、このフレーベルによづくべきであり。いなフレーベルにさへ聽けばそれでいいさへ云へるこ思ひますが——さうしても、心しづかに己を空しくして「師」フレーベルのまへに参じながら、この「人間の教育」全巻を通して彼の語らうとするところに、耳傾ければならぬこ思ひます。さうするならば、用語用例などの一派性にこらはるゝこなく——もつともフレーベルその人は敬度なる基督者的雰圍氣のなかにて語り述べてゐたところから、にほほしい宗教性はいつも基督教と結びついて現はれてはゐますが——私達はそこから宗教々育への活ける指示をゆたかにあたへらるゝこ思ひます。

これで不束なる稿を了へやうこ思ひますが、いろいろ僭越なこことでした。ここに、續稿の最初のあたりにシユライエルマッヘルにきゝながら強調したやうに、教育一般においてもさうであるが殊に宗教々育においては、「言」ではなくて「行」が眼目であり、「行」がなかつたならば他の一切の營爲も全然無意義に終つてしまふことをます／＼強く感ぜしめられますので、如何に「古典を互ひに読みあふゝゝろで」こは云ひながら、實に不束すぎる續稿でした。筆をおかうとして想ひ出さるるは、生涯も終りに近づいた老翁としてのペスタロッチが、冬の日に、寝るにも床なき人々に、せめて石ころなりこ下に敷いて寝ねよと教へて、しかし、もしか「言」において教へた故に、「行」においてもしか指導せざるべからずと、自ら石ころを拾ひ集めてゐたといふ話。そしてまた、ソクラテスが己を殺すアテナイの人々と語りながら、私達は私達のなしうるだけを今なさう。これはげに不束でもあらう、しかし眞理は我々を善きに導くだらうこいつた話。(昭和十年八月八日)

秋の幼年童謡の中より（上）

葛原しげる



「秋が來た」には、はつきり見えないけれど、早くも風の音に、秋の感じがする古人はいひました。それもさる事ながら、やはり、秋のもののみ思つてゐた蟲の音、それが、實は、意外にも、東京では八月の末頃から、しきりに、聞えて來ます。八月も末とは謂ひながら、九月につゞいて、まだ殘暑の折柄、はやくも蟲が、しきりに鳴き出します。

『あら、もう、秋ですね』

それこそ、秋は、蟲の音に乗せられて、訪れるのでした。そして、蟲は、秋の最中には、もう少くなるのでした。

昔から、秋らしいへば、まづ、蟲、そして次には、落葉、これも、銀杏葉も紅葉も散るのみ思つてゐましたが、それは所謂、座上の空論でして、落葉は、秋も末のことでした。そのむかし、蟲が、ちろ～～と鳴けば、銀杏葉が、ひら～～と散るといふので、「ちろ～～」と、「ひら～～」とを交互に出した童謡を作つて悦んでゐます。その非を、小學一二三年の児童に追究されて、眞赤になつた事があります。花は春咲き、夏は暑くて、秋が淋しく、冬は寒いと定つたものではないのと同じく、概念的に、型にはまつた考へ方をする事の非である事は、特に、コドモの世界の凡てに於て、然りでした。私共コドモに接する大人が、常に心しなくてはならぬ點だと考へます。

さて、蟲の聲の擬聲は種々あります、日本國中、どこにでもゐて、代表的なものは、松蟲と、鈴蟲です。どちらも、

涼しい聲です。澄んだ聲です。やさしい聲です。濁つてゐません。暑苦しくありません。太いのでもありません。
「かうして、あんなに、いゝ聲が出るんでせう」

人間は、よい聲を出すためには、昔から、聲をつかふ人達なぎは、食物に苦心を拂つたといひます。私の祖父に筆、三味線を専門にした盲人がありましたが、なめくじに、砂糖をつけて、飲み込んだ時代さへあるとかいました。松蟲や鈴蟲は、何に、何をつけて、飲みこんでゐるから、あんなに善い聲が出るのでせう。

「あれいな、自然の、露……お庭に生えて、青々としてゐる草の草に、おのづから、ついてゐる美しい露を吸つてゐるからですよ。露のおかげで、あんなに善い聲が出るんですよ」。

こ想像してみますこ、如何にも、左様でした。砂糖の何のこ、わざとらしい物をつけたり、變つた特殊のものを食べるのではありません。自然の露を吸ふのです。その自然力のおかげで、あんなに、涼しい聲、善い聲が、いつまでく出るのです。それを表現したくて、擬聲も、「涼しい聲で」も反復しました。

蟲のこゑ 小松耕輔氏曲

リン リン

チリリン

蟲がなく

松蟲、鈴蟲、すずしいこゑで

お庭の草の露すつて

すずしいこと

リン チリリン

(「大正幼年唱歌」第三集)



「夕日」は、秋のものさきまつてはをりません。しかし、秋の夕日こそは、如何にも夕日らしい夕日ではありますか。

殊に、夕焼の美しさは、四季の中、秋が、一番だ信じます。秋の夕焼さき、空の明りは、そこにも反映して、地上の何でもを、赤く見せます。地上ばかりではありません。空中の何物をも赤く見せます。夕日の没せんする夕焼時の暫らくは、天にも地にも、赤の一色が、漲るこもひませうか。實に美しい事です。そこで、その美しさは、唯に、

まつかな夕雲

なぞ、いつたのは、不十分を感じます。それと同じく、沈む夕日の輝くのも、

ぎら ぎら

まだけでは、不十分を感じます。それで、思ひきつて、こんな日本語の有無を考へる餘裕もなく、私は、二十餘年昔に

ぎん ぎん ぎら ぎら

さいひ。

まつかつかつか

さきへ謂ひました。當時、自ら、あんまりださも案じましたし、氣がさして困つたのですが、名曲を得て歌つてみます
さ、やはり、これでなくてはならないのでした。

かくて、その夕日の赤いのを、黒い鳥に、追つかけて、鳥も、染まつて赤くなつて、舞つて來い、さは、ずる分です。

する分ですが、夕日を見送つてゐる子供皆の顔が、眞赤になつてゐますから、鳥も、子供の仲間入をして眞赤になつて來い——悦んで、美しく、舞つて來り、といふのです。

これには、三宅延齡氏も作曲されてゐる様ですが、どちらも、軽快な曲になつてゐます。

唯、標準語では、「お日様」の事を「お日」とは申しません。これは、殘念ながら、私の郷里地方で、平氣でいふ子供語が、流れ出たもので、この他にも、「ニコ～～ピン～～の歌」や「白兔」に出来ます。曲まで聞いて歌はれてゐますから、今更直す事はしないでゐますが、お笑ひ下さい。

夕日 室崎琴月氏曲

ぎんぎん あらわから

夕日がしづむ

ぎんぎん あらわから

日がしづむ

まつかつかつか 空の雲

みんなのお顔も まつかつか

ぎんぎん あらわから

日がしづむ

ぎんぎん あらわから

夕日がしづむ

きんぎん きんぎん

日がしづむ

鳥よ お日を追つかけて

まつかに そまつて舞つて來い

きんぎん きんぎん

日がしづむ

○

小春日和のお砂場遊び、幼稚園でなくとも、東京では、市の道路課の砂置場でも、附近の幼児が、好んで、砂を掘つて遊んでゐます。幼児には、やかましい道路工夫も、やさしくて、別に叱りもしない風景。それは、近年の交番では、幼児が、悪いものに考へてるたお母さんや、お父さん達をも、悦ばせて、おまはりさんと仲よしになつてゐるのと、好一対です。それほど、都會の幼児は、自然に接するチャンスが少なくて、氣の毒です。水遊び、木登り、みな、都會の幼児にも樂しませたい自然遊戯です。それと同じく、砂を掘り、砂を盛つての遊びは、幼児に、飽く事を知らしめません。

砂も美しい銀砂です。それを盛り上げて、山をこしらへました。高い、高いと悦んだ後では、すぐ、トンネルをくり抜いて、汽車の弄具を通すのでした。「ピーゴーゴー」は、うれしい反復を伴ふのでした。

砂のトンネル

弘田龍太郎氏曲

銀砂 ぎんざら

もりあげて

お山が出來た

高い 高い

お山にトンネル

くりぬいて

おもちゃの汽車を

ピイ ゴー ゴー

(「月に浮れて」より)

お砂場遊び

小松耕輔氏曲

みんなのすきな お砂場あそび

おしゃもじ もつて

バケツをもつて

皆で砂場へ出かけませうよ

お砂場さして、一、二、三

こんなに高いお山が出來た

草木をうみて

谷川つけて

お山の下には トンネル掘つて

おもちゃの汽車を、ボツ、ボツ、ボツ

(「大正幼年唱歌」第七集)

色刷で好評の最近の「小學國語讀本」卷一の「ハコニハアソビ」の中に、

ニイサンハ、ツチヂ、タカイ トコロヲ ツクリマシタ。

「ソレハ 山デス ネ」。

「サウ デス」。

ヒクイ トコロ ニハ、川ヲ ツクリマシタ。

山ニ、小サイ木ヲ、五ホン ウエマシタ。コケ モ ツケマシタ。

ごあります、トンネルまではありませんでした。



秋のはじめ、夏の休みも終りに近づきます。夜の空は、愈々澄んで来て、あの、星の美しさ、たゞへる物もありません。この時、天空の神祕を感じて、星のいろいろを、つないで、いろいろの形を考へても、興はつきません。また、星がピカ、ピカ、また、チカ、チカ、ご光るのは、何うしるてご考へてみてのも自然です。何だか、空の燈が、風に吹かれて、チカ、チカ、また、く様にも感ぜられます。氣をつけて見ます。星ごいふ星は、一つ残らず、空一ぱいに、光つてゐるのです。小さな星、大きな星、すべて。

その不思議は、いつまで見てゐても、やむ時は來ません。後には、星ご同化してしまつて、もつご光れ、もつご光れ、ごいひたくなります。

お星さま

梁田貞氏曲

ピカ～～ 光れ

御空の星よ

きれいな色で 残らず光れ

小さな星も 大きな星も

空一面に ピカ～～～～～光れ

ソヨ～～ 風が

御空で吹けば

きれいな星が 残らず光る

小さな星も 大きな星も

涼しい風に ピカ～～～～～光る

(「大正幼年唱歌」第七集)

次のは、同じ教科書にも出ており、昔からの國語讀本にも出てるたものを、少し、延ばしただけです。

一バンボシ ミツケタ。

アレ、アノ モリノ

スギ ノ 木ノ ウヘ ニ

あるのです。これを、「上ぞ」ミシテ、「ピカピカ光つてゐる」をつづけ、「一番星見つけた」を反復したて止ります。一番星

も、三番星も、同じ手法に依つたものですが、これは、實は、もう、福岡縣の地方童謡から、出たものです。

一つ星 見つけた

あれ／＼ あそ＼＼

お宮の森の楠の木の上に

二つ星 見つけた

あれ／＼ あそ＼＼

向の山の 松の木の上に

三つ星 見つけた

あれ／＼ あそ＼＼

お寺の庭の 柿の木の上に

面白い表現形式です。子供たちが、夕空に、誰よりも早く、星を見つけることする純な氣持、空を見上げては、探し廻す眼の何れかゞ、はやく、まだ弱い光の星を見付け出した時の、悦び。

星

小松耕輔氏曲

一ばん星 見つけた

あれ あの森の杉の木の上で

ピカピカ 光つてる

一番星 見つけた

二ばん星 見つけた

あれ あの土手の柳の上で

ピカピカ 光つてゐる

二番星 見つけた

三ばん星 見つけた

あれ あの山の松の木の上で

ピカピカ 光つてゐる

三番星 見つけた

(「大正少年唱歌」第二集)



「秋ニ月」、これは、「秋ニ蟲」、「秋ニ落葉」それとも「秋ニ風」など何よりも、最も、よいコンビです、

お月様！

この一語は、「お星様」よりも「お日様」よりも、如何にも、「おま」(い)ふ親しみに、ふさはしくて、ほん(い)て、澄んでゐます。板についてゐます。まるで、「お母様」(い)ふ様な感じです。

お月様

小松耕輔氏曲

お月様

お月様

丸いお顔を ニコ／＼させて
どうして 今夜は そのやうに
あかるく お見せに なりますか

子供たち

子供たち

今夜は 雲さへ 風さへなくて

日本國中 たゞ一目

みんなの 焼がほも 見えるから

(「大正幼年唱歌」第三集)

昔から、「月夜」と母親は、いつでもよいといひます。全く、月は、四季の中、いつでもよいのですが、就中、月らしい月は、秋のです。お月見は、いつでも出来るのですが、只月見といへば、秋のものになつてゐるほどです。秋の月は、最も、床しかも、なつかしく、嬉しいものです。そこで、次のは、月に話しかけてみます。何といつてゞすか。

圓い明るいお月様

弘田龍太郎氏作曲

まんまるまるい お月様

明るい 明るい お月様

私は

あなた を 見てます

お話をしたくて

たまりませんの

お月様

お月様

あなたが もしも 人ならば
お家の 誰かで あるならば

あなたは

私の お母様

それとも

やさしい姉様ねえさまでせうか

お月様

お月様

此の終りに、「お月様」を反覆しましたのは、稍々甘えつゝ氣持です。

「よう、
お月様」

ねえ、
お月様」

さいつた形です。はなしかけた自然の形です、それが歌にもなつてゐるのです。

次には、甘えいで、お月さんと遊ぶ歌です。天界と地上で遊べる筈はありません。しかし、子供は、空間なきは超越します。あらゆる存在物を、自分の対照の凡てを、自分と同じものと思惟します。それで、人形に着物を着せ、描いた絵の蝶を追はうとします。月も遊びたくなるのです。それほどの月は、やさしく、床しく、なつかしいのです。

これは、第二節が、主眼です。雲にかくれてる月を、「ほら～見つけましたよ」と指さして見上げてゐる。雲は、おのづから動いて、月が出て来て、ピカリ～と光るのでした。それを、笑ふと見るのは、自然でせう。

お月さんと遊ばう

小松耕輔氏作曲

お月さんつき あそぼう

かくれん坊ぼう あそぼう

ジャンケンボンよ

お月さんつき 見つけた

雲くも にかくれたお月つき さま

出てで きて ニッコニコ

(「お月さんと遊ばう」より)

おひこに、めでたくも楽しい月下の子供たちではありますか。

新刊

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價金一圓
送料金四錢

一、保育案の實際は幼稚園必須の資料

一、東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の参考

一、待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勧む

東京市小石川區大塚町三十五番地

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

發行所　日本幼稚園協會

○七月二十日發行。

日本幼稚園協會主催

幼稚園令公布十周年記念講演

昭和十年七月二十一日 於 東京女子高等師範學校講堂

司 會

倉 橋 惣 三 君

開會の辭

下 村 壽 一 君

講 演

森 岡 常 藏 君

講 演

關 屋 龍 吉 君

挨 拶

山 樹 儀 重 君

望 月 く に 君

挨 拶
司會者 倉 橋 惣 三

大變長く御待たせ致しました。これから日本幼稚園協會主催の夏期講習會を開きます。

其の第一日のこの午前を幼稚園令公布十周年記念講演會と致しまして、諸先生の御話を伺ふ事に致します。
一寸私から申上げておきますが、この午前にお話を頂きます諸先生は、皆様幼稚園令の出ました時に特に文部省内に於て、或は外部に於きました御盡力をおこなわれました。特別御關係の深い方々のみに御願ひ致したのであります。皆様も

其の意味に於て御快諾下さいまして、御忙しい處を御出で下さいました。

では、日本幼稚園協會會長、本校校長、下村氏の御挨拶があります。

開會の辭

本會會長 下 村 壽 一

今回日本幼稚園協會が主催を致しまして、保育の講習會を開く事に相成りました。丁度本年は幼稚園令が制定されましてから十年目になるものでありますから、其講習會の最初の日に當りまして十年記念の講演會を開く事に致した次第であります。而して幼稚園令制定當時に文部當局として又は省外に於かれまして非常に御盡力を頂きました諸先生に御願ひを致しまして御講演をして頂く事に致しました處が諸先生には、非常に御多忙の御身體にも拘らず、快く御承諾を頂きました。これから其御講演を伺ふを得ます事になりましたのはお互に誠に有難い事と存ずるのであります。厚く諸先生に對して御禮を申上げます。

今回の講習會は例年の講習會に比べまして非常に盛であります。五百數十人の會員が御參加になりました。遠い所は天津、滿洲、朝鮮、臺灣、其他各地からこの様に多數御參集に相成りました事は之は如何に幼稚園事業と云ふものが時代の要求に合致して、必要なものであるかと云ふ事を示す一つの事實でありますし、又幼稚園に關係して居らるゝ方々が非常にその改善發達と云ふ事に就て熱意を持つていらつしやるかと云ふ證據であります。私共矢張、この幼稚園の仕事に關係をもつて居る者と致しまして、誠に快心の事に存ずるのであります。

今から丁度二十年程前になりますが、私が始めて文部省に這入りました頃から、何うか幼稚園令を制定して貰ひ度い、御承知の通りその頃は小學校令の一部に規定があつたのであります。それでは幼稚園の發達振興を促すに適しないから獨立の幼稚園令を制定して貰ひ度いと云ふ熱心な運動があつたのであります。處が一つの教育令を制定する云ふ様な

事は中々容易ならぬ仕事でありまして、幼稚園關係者の熱心なる運動、請願、陳情等に拘らず、延び々々になつて居りました。でありますたが遂に幼稚園關係者の方々の熱意が、至誠が、貫徹を致しまして、大正十五年に今日御列席の諸先生の方々の御盡力ご御配慮によりまして、獨立の幼稚園令が制定されるに至つたのであります。

爾來幼稚園の進歩發達は頗る目覺しいものがある様に考へます。其量に於ても又其質に於ても著しい進歩の跡を見るのであります。併し乍ら現狀をもつて満足すべきものは考へて居りませぬ。尙今後の研究、今後の改善、發達を要する處が多々ある様に思ふのであります。この講習會は幼稚園令制定第十周年を記念致しまして、之を一つの足掛りとして幼稚園將來の發達の爲に備へる、云ふ意味を持ちまして開催を致した次第であります。皆さんは御暑い折柄、人は或は海に或は山に暑を避ける時にも拘らず、非常な熱心をもつてこの講習に參加して下さつたのであります。何うかこの講習會の趣旨をよく御諒得下されまして、折角短期の講習會ではありまするが、その間充分なる御研鑽を遂げて頂く事を熱望する次第であります。

甚だ簡単でござりますが、之を以て一言開會の御挨拶に換へる次第であります。

(司會者)

次に文理科大學學長森岡先生に御話願ひます。

森岡先生は幼稚園令公布の時には文部省の督學官として特に御配慮を頂いたのであります。

講 演

森 常 藏

本年は幼稚園令が出來ましてから十年目に當りますので、今日はその幼稚園令制定十年の記念の會としてこの時間をお使ひになる様で御座います。私は今お話を通り、其の當時少しくこの事に參與致して居つた關係であります、私にも來

て何か挨拶せよ云ふ事で参りました次第で御座いますが、私の考は、今日はその幼稚園令制定の記念に就きまして、皆様と一緒に喜びの意を表し、序でゞすから少しく昔の思ひ出話をして見ようかと思ふのであります。僅かの時間だけ失禮致します。

今もお話をありました通り、幼稚園に關する規則は小學校令の中にありますて、明治三十三年の小學校の規定の中に織込まれて居つたのが、三十年ばかり経ちまして大正十五年にその獨立の勅令並にその施行規則等が出来た譯であります。これは全く當初より幼稚園の事に非常に熱心に御盡力されたお方のその誠意が茲に至つたものと思ひます。此處に見えて居りますか何うか知りませぬが神戸の望月さん始め非常に熱心な方々が、この幼稚園の事に就て渾身の努力をなさつて、茲に獨立の勅令が出る云ふ事になつた譯であります。然し其の當時の文部大臣岡田良平先生——私は敢て先生と申します。色々な關係に於きまして教を受けました事が多かつたのでありますから私は先生と申します。——その極めて賢明で、教育の事に精勵された、誠に教育の事には熱心に常に考へになつて居りました岡田良平先生が文部大臣でいらっしゃつたのであります。而してこれを助くるに——此處に見えて居りますが——關屋さんが普通學務局長で、これ亦教育の事には非常に御熱心に御計畫になつて居り、教育全般の上から幼稚園の發達を必要とする云ふ熱意のある局長さんがいらっしゃつたのであります。それで幼稚園關係の諸君の熱意と當局の賢明なお方のお力の結果がその勅令制定になつた譯であらうと私は確信致します。一方其の間に於て私が少しく此の事に干與した云ふ譯でありますて實は大臣、局長の御盡力の方が遙に大きかつたのであります。私は僅かにそのお助けをしたに過ぎないと思ふのであります。只今も、幼稚園令制定に非常に盡力した様に言はれますけれども、實は局長さんの下で其の仕事のお助けをした云ふ事に過ぎぬのであります。尤も私はすつゝ昔……今から四十年も前に外國に行つた事がある。其の時に、自分は教育を専門とする立場

でありますので教育の凡ての方面に就きまして視察研究を致しましたが、其の時に幼稚園の事に就て非常に興味を持つ様になつたのであります。殊に私の心を動かしたのは、フランスの幼稚園を視察した時であります。或はフランスのは幼稚園と言はない方がいいかも知れませぬ。母親學校と言つて宜しいであります。皆様御承知の通りレコル・マテルネル……。フランスと言ひましてもパリの町の今の母親學校……即ち幼稚園を十ばかりも彼方見たのであります。其の時に非常に私の心を動かしたものがある。夏であります。午前七時頃幼稚園に行つて見ます。労働者の母親らしく見える人が陸續として幼稚園にやつて参ります。一方の手には四、五歳の子供を連れ、腕にはまだ漸く乳離れをした位の小さい子供を抱いて、さう云ふ労働者らしい母親が次々と参りまして、それを幼稚園に預けて行くのであります。何の幼稚園に行つても、朝行くとさう云ふ光景に接したのであります。幼稚園に這入つて見る、四、五歳の大きい子供は別の室で砂いじり等をして遊ばせて居る。小さい子供は一人々々搖籃に入れます。さうして泣出する搖籃を動かす。時々は牛乳を與へるのであります。如何にも其の光景を見て私は感に打たれたのであります。それから夕方は何うするかしらんと思つて……六時頃でせうか行つて見る、朝連れて來た母親が又ぞろりと幼稚園に來ます。さうして御禮を言つて、歩く子供は手を引き歩かない子供は腕に抱き取つて我家に歸つて行くと云ふ有様です。其の光景に接した時の私の感動は非常に強いものがあつたのであります。段々調べて見る、母親と云ふのは皆家の外で働いて居る人達です。さうして父親は無論戸外に於て労働します。母親も戸外の労働に從事して居る。放つて置けば家に残つて居る大きい方の子供達は道路にでも出て、危険なものに曝され乍ら不規律な遊びをする。そこでそれを皆幼稚園に連れて来て預けるのである。而も朝から晩迄……その親達は子供の心配はありませぬから熱心に仕事が出來ます。安心して仕事が出來ます。子供も、幼稚園に預けられて、身體の保護は申すに及ばず精神の上からも教育的の世話を受けると云ふ事になりますから

成程これは必要である。段々世の中の生活が困難になつて来る、この施設こそ必要である、斯う云ふ風に感じて、私は我國に於ても幼稚園を云ふものは斯くなればならぬだらう、嫌だ、言つても斯うしなければ國民の仕事の能率の上にも關係するし、子供の將來の發達の上にも大關係を持つ重大な問題であらう、考へたのであります。

それから今度は色々幼稚園に關して、教育效果に就て研究致して見たのであります。さう致しますと丁度ドイツに參りましてライプチヒに私居りましたが、ライプチヒに其の當時シルラー、云ふ教育學者が居りました。ライプチヒ大學に於きまして其の人の歴史の講義を暫く聞いた事がありますが、其の人が何時であつたか一論文を書いたのであります。それは「國民幼稚園に就て」、云ふ問題……甚だ失禮ですけれども獨逸語で申しますと「フォルクスキンダーガルテン」、云ふ名で書いて居る。其の論文を読んで見て非常に私は其の説に共鳴したのであります。フォルクスキンダーガルテン云ふ意味は要するに小學校のフォルクスシュレーと申します語で、國民學校、即ち小學校に當るもののが同地に義務的に設けられる様な工合に幼稚園も各地に設けられて、さうして其處で保育を受ける云ふ事が國家の凡ての問題……難しい問題を解決する上の根本なるものだ、云ふ風に論じて居たのであります。其の議論の中に斯う言つて居ります。「金持の子供が幼稚園に來て保育を受ける云ふ事に對しては何等異議はない。それを非難する積りはない、けれども殊に幼稚園の保育を必要とするのは農民及び労働者の子供である。其の農民及び労働者が自分達の仕事の忙しいが爲に子供を打やりにして置く云ふ事に、多くはなつて居る。それが甚だ大なる缺陷である。その労働者なり農民の子供の健康の上から、又精神の發達の上からこれを助けてやる云ふ様な事が、ドイツの産業を進め且つ國民の能率を進める上に大變必要なものだ。故に小學校と同じ様な工合に幼稚園を設けて、努めて農民の子供、労働者の子供を幼稚園に入れて保育する事にしなければならぬ。」云ふ熱心なる主張であつたのであります。

それから又、これは一時ヘルバルト派の教育が盛であつた頃に聞えた人であるから或は皆さんも御承知あります。ライシン云ふ人がある。其の人が矢張り同じ様な意見を發表して居る。その意見は先づシリラーリーと同じ意見で、もつて小學校に來てから一つの修養を受ける云ふけれども、實は満六歳に達する迄の間に云ふものは、子供に取つては色々の経験をするものであつて、其の時に世話の行届いた子供、全く打やりにして居る子供の有様云ふものが非常に違つて来る。でその發達の違つた子供を同じく小學校に入れて教育する言つても、過去六年間に於て發達の非常に違つて居る一方の子供は、本當の言葉さへ言ふ事が出來ない。正しい文法を理解しない。話をする術すべも知らない。想像力、記憶力も發達して居らぬ。さう云ふ者、又その反対に世話の行届いた、心身の發達を順當に進めた子供を一緒にして小學校で教育する事が既に困難である。それでは小學教育——言ひ換へればドイツで言ふ國民教育——國民學校の效果を擧げる事は出来ないのである。故に國民學校即ち小學校の教育の效果を一層よくしようと思ふならば、國民幼稚園云ふものは非常に必要であるのだからこれは將來國家の制度として小學校に於ける同様に義務的に入れる迄にやる可きものである。

これは教育の效果から論じて居る。もう一つは社會問題の上から、「今日貧富の争が非常に強い云ふのは、小さいながら貧者富者の交り云ふものが全くなき。社會に出てから交はるから感情の疏通もなく、話をしても考が違ふ云ふ事になつて貧富の間の意志の疏通を缺き社會問題が激しくなるのである。假令財産に違があつても、それが小さい時から同じく机を並べて交りをして居る云ふその感情云ふものは一生續くものである。後になつてからは、金持の子供は高い教育を受ける、金持でない方の子供は小學校位で終るかも知れぬけれども、其の後は兎に角、小さい時から一緒に學び一緒に遊んだ時代からある感情云ふものは決して抜けるものじやない。これをやれば今日八景しい社會問題の如きは根

本的にこれを緩和し、融和することが出来やう」。斯う云ふ風に論じて居るのであります。尤もシルラーも、社會問題の方に多少觸れて論じて居りました。同じ様な事でありますけれども、ラインの方が一層突込んで論じて居つた様で、尙ほ申しますに、「さうする」と小學校に行つて貧乏人の子供と金持の子供が机を並べて一緒に學ぶ事になる。金持の子供の上品な行儀作法は、貧乏人の不作法な子供の爲に素されるゝ憂ふる者があるけれども、金持の子供が自ら貧乏人の子供を感化する力の方が強い。さう見て宜しい。假令貧乏人の子供の方から幾分悪い影響を受けたにしても金持の社會の者はそれを忍んで、出来るだけ貧窮階級の人をよくしてやる、多少害は受けても其の人の爲を圖る様にするのが道ではないか。其所で根本問題は、小さい時から共に机を並べて一緒に學び一緒に遊ぶ事云ふ感情の融和をつける事が根本問題である。それで平等的にやる事は必要である。私の居つた當時は小學校でも、普通の中流以下の子供の學ぶの中流以上の子供の學ぶの學級を別にして居つたのであります。中流社會以下の子供は先に申しました「オルクス・シュレー」で設けて居ります小學校に這入る。金持の子供は中學校に設けてある豫備校の方に初から這入つて了ふ。さうして中學校を出て大學へ進んで行く。それをライン氏は、「小學教育は同一學校にしなければならぬ。小さい子供に對する教育を一道にすると云ふ事は不合理である。詰り書ひ換へれば、國民の凡てが小學校で學ぶ様にしなければならぬ。」と云ふ事を唱へて居る。これをドイツ語で「インハルト・シュレー」。これはヨーロッパ戦争以後に於て大體解決したさうであります。今日ドイツでは、大工の子供でも四年間は必ず小學校に這入る事云ふので、基礎學校を設けて憲法で規定して居るのであります。であります私が居つた頃は……四十年前、貧富兩階級の子供を小學校で一緒に教育しなければならぬ。その意味から言つても國民幼稚園の必要がある事云ふ風に論じて居たのであります。さう云ふ事が私の頭に強く這入つて居りましたから、幼稚園令を制定して幼稚園の事業を進めて行く事は必要である事常に考へて居つたのであります。

それで——甚だ私の事許り言つて相濟みませぬが——西洋から歸りました明治三十六年「幼稚園を論ず」云ふ論文を書いたのであります。これは私の昔書きました「教育學政治」の後に附錄としてつけて置きました。幼稚園の必要を其の當時から考へたのであります。成可く年寄らしくしたくない、將來の理想を語るならばしたいと思つて居るが、今日は負惜しみを貫く事は出來ぬから昔話をする事になりましたが、これは實は私の不本意とする所であります。

そこで先程申しました様に、幼稚園御關係の方々の熱意が段々高くなつて、……そこで恐らく關屋局長が當時のその熱心な關係者のお話をよく聞かれたのであります。此所に、幼稚園に關する勅令を獨立に作る必要ありと考へられた。

それを岡田文部大臣に話された事云ふ思ひます。恐らく後に關屋さんから直接お話をあらう云ふ思ひます。私が間違つて居るかも知れませぬが、初は岡田先生も極く熱心ではなかつたかも知れぬ。云ふのはまだ小學教育、國民教育に不充分な點があつて、此方に大いに力を入れなければならぬじやないか。幼稚園も必要であるが先に爲す可き事があるじやないか云ふ思召があつた云ふ思ひます。其のお考に就きまして關屋局長からお話をあつたでせうが、私も關屋局長と二回ばかりお目にかゝつて、私共の、教育上重要問題である云ふ理由を申上げたのであります。私の感する所でも、初め申上げた時は、もつと重要な問題から先にやらなければならぬじやないかと仰言つた様に思ひますが、段々話ををして参ります云ふ。そこは賢明な岡田大臣だけに、よく私の話を聞き取り下さいまして、「成程教育政策的の見地から見て、幼稚園云ふものは大切なものである。何か獨立の法令を設ける必要がある」と後には決意をされたのであります。さうして先程のお話がありました通り、勅令を作る云ふ事は或は其の事に御關係のない方からは何でもない様に思召すかも知れませぬが勅令制定云ふ事は却々手續も重大でありますし、事は困難であります。けれども、岡田大臣は進んで、それでは幼稚園令を作らう云ふ事で種々の困難を打破つて、……色々の故障もあつたでせう、それ等の點を適當に説明もされ、計畫もさ

れまして、こゝに愈々幼稚園令といふものを制定するこ云ふ事を非常に熱心に御盡力になつたのであります。過去に於て色々の故障も多少あつたこ想像出来ますけれども、それを押破つて重大なる勅令制定の問題に奮闘されたのであります。その岡田さんの熱心から結局幼稚園令こ云ふものが出来た譯だらうこ思ふのであります。今日十年を記念するに當りまして、若し岡田良平先生が御存命であるならば是非此の席上にお臨みを願つて、其の岡田先生から當時のお話を聞いたならば、皆さんにも非常にお感じの深いものがあつたらうこ思ひます。如何せむ、今日は故人になられました。私は皆さんと一緒に岡田先生の在天の英靈に向つて感謝の意を表し度いこ思ひます。

そこで、岡田さんがお考へになつたのは、教育問題と同時に社會政策の見地からの考へ方であつたのであります。故に大正十五年の幼稚園の規則こ云ふものは、從來の規則と趣が多少違つて、社會政策的の方面の事が多く加つて居るこ信じます。これは内輪を申す様ですけれども、初め岡田さんは、勞働に從事する者の多く住んで居る町等へは府縣知事から幼稚園を強制的に設立せしめて宣しいこ云ふお考であつたのであります。けれどもこれは色々の事で止めましたけれどもその意味は當時の文部大臣訓令の中に出で居ります。「戸外に働く人(夫婦共)の住んで居る所では幼稚園を設けその子弟を保育する様に府縣知事は盡力せよ」こ云ふ意味の事があります。何うも多くの人はその條文だけ見て、その精神を表して居る訓令等を少しもよく讀んでくれない嫌ひがあつて遺憾に思ふのであります。條文を理解する事はもごより必要ですけれども、其の當時の事情、當局の希望なり理想なりは多くの場合訓令に示してあるのであります。當時の訓令を御覽になりますこ、その事情がよく分るのであります。

それから保育の時間の如きも、從來は何時間とか、午前中に限定して居りましたが、あの條文の中には明瞭にありませぬけれども、訓令の中を御覽になるこ、幼稚園は事情に依ては朝から夕方に及ぶ迄開いて置いて宜しいこ云ふ事が書いて

ある。詰り勞働に從事する父母、殊に母親の爲等を考へられて、幼稚園を開いて居る時間は朝から晩迄で宜しい、斯う云ふ注意迄してあるので、それ等を御覽になりましても如何に教育政策的の見地からあの勅令を出されたか云ふ事が明かになるこ思ふのであります。

それから、幼稚園云々言へば大抵二、三歳頃、我國の幼稚園は三歳からこなつて居ります。然しフランス等は一歳からこなつて居る。けれども他の……例へばイギリス等も……或は三歳であつたかも知れませぬが、ナーセリースクールがイギリスに其の後出来ました。彼の國の法令を見るこ、三歳二歳もあります。まあ一、三歳頃から幼稚園に子供を收容して保育致しますが大正十五年の改正に於ては、その必要ある場合には三歳未満の幼児をも入園せしめる事が出来るこ書いてある。これ等も先に私が申しましたフランスの母親學校等の事情云々照し合して見るこ、教育政策的の見地が多く這入つて居るこ云ふ事もお分りにならうこ思ひます。子供で親の手足繩ひになるのは、大きい子供もですが小さい子供であるこ思ふ。吾々が旅行致しましても農家の方は田畠に行つて働いて居ります。さうするこ赤ん坊等が道端に坐つたり何かして居る。母親は時々其の子供の爲に心が牽かれる様である。時々は乳も飲ませなければならぬ。こ云ふので始終心が惹かれて居る。場合によるこ大きい……もう小學校に這入つてもいゝじやないかこ思ふ子供に、赤ん坊のお守りをさせて居るのを見受ける。若し大正十五年の改正の趣意がよく徹底致しまして、三歳未満の幼児をも幼稚園で保育する事が出来るなら、農家の母親もさう云ふ子供に心が惹かれて仕事に多少悪き影響……充分仕事が出来ないこ云ふ様な事がなくなる譯ではなからうかこ思ふ。さうして見るこ先に申しましたシルラーコカライン等の唱へました國民幼稚園の主張云ふものは誠に意義の深いものであるこ思ふのであります。

まあさう云ふ事もあり得る様に今の幼稚園令云ふものは出来て居るこ云ふ事は御承知の通りであります。それで何う

か……経費もかかるでせうけれども、國民の仕事の能率の上に關係する問題でもあり、國力の増進にも關係する問題であり、同時に教育上重要性を持つて居るものとすれば法律が許したならばこの國民幼稚園主義に今の幼稚園令の意味を活用、する事を私は希望して止まざるものであります。

尙ほ色々私考へる點があるのであります、この幼稚園と云ふのは、初め公に出来たのは本校であつたと思ふ。明治九年。所が段々古い記録を調べて見るに、此處の幼稚園が出来たのは餘り樂々に出来たのじやない。明治八年の七月七日に當時の文部大夫田中不二麿氏の名を以て太政大臣三條實美公に對して幼稚園開設の議の伺が出て居る。所がそれに對しまして太政官は八月一日附で「伺ノ趣聞ト、ケ難ク候事」と云ふのが出て居る。そこで文部省に於きましては更に八月二十五日に再應伺を太政官に出して居るのであります。さうしてその二番目の伺に依りまして明治八年八月二十五日の伺に對して、九月十三日に至つて三條太政大臣から「伺ノ趣聞ト、ケ候事」と云ふので成立つたのであります。却々樂には出來ぬ。今それを言ふのじやない。再應伺の中で斯う云ふ事があります。今日は略して讀みますが「右幼稚園ノ議ハ兒輩ノ爲良教師ヲシテモット扶育誘導セシメ遊戯中知ラズ識ラズ就學ノ階梯ニ就カシムモノニシテ教育ノ基礎全クココニ立ツ可ク」：」と書いてあります。教育の基礎は幼稚園に立つて云ふ意味で伺の趣旨が出來て居る。詰り小學教育を起すと云ふ事に致しましても、その教育の基礎を立てゝ置かなければならぬ。その教育の基礎は幼稚園で立てるのだ。斯う云ふ風に私は解釋致します。でその意味を推して考へますとこの議論は自ら、先に申しましたシルラー・ラインの唱へて居る小學校入學前の教育が實は教育の基礎をなして居るのであるから、小學校教育と云ふものを眞に任務を果さしめる爲には矢張り保育を行ふ必要ありと云ふ所の意味が自らそれとなくこの中に暗示されて居るのじやなからうかと思ふ。さうじやありますまい。幼稚園を設けると云ふ一つの趣旨は、教育の基礎を此所に立てようとして云ふのであります。でありますか

ら、小學教育でやればいいじゃないかと云ふがさうでない。基礎を早くからやる必要がある。それで、さうやつて行けば小學教育も發達すると言ふ意味に後は書かれたのであります。さうするに家庭教育を補ふと言ふ事は無論の話であります。が、そればかりではない。教育の基礎を設けると言ふ議論も新たなる見地から立てられる譯ではありますまい。丁度ライシやシリラ一が言つた様に。子供が生れて後の三年間の期間と言ふものは大學で學ぶより大きいものであると言ふ事は考へられる。さうするに、幼稚園は家庭教育を補ふと言ふのは、無論意味は其の通りでありますが、同時に教育の眞の基礎を造るものになる。斯う云ふ事にもなるのじやないか。然もこの明治八年の八月二十五日の文部省の再應答の内にさう云ふ意味が書かれて居ると言ふ事は、私は教育的の見地から見て興味の深いものがあると思ふのであります。

尙ほ私の四十年許り前、外國を見まして、初め豫期したのは、フレーベルと言ふ人はドイツの人であるからドイツの幼稚園は非常に發達して居るだらうと思つて行つて見た所が案外であります。フランスの幼稚園には非常に感服致しまして深き感に打たれたのであります。ドイツに至つては失望したのであります。其の當時私の調べが間違つて居なければ、ドイツに於ては公立幼稚園と言ふものが一つもなかつた。僅かに私立の幼稚園があつたと言ふ状態であると思ひます。勿論私立幼稚園と言ひましても却々考の深い施設をして居りました。例へばベルリンのコメニースキンダーガルテン……其處に行つて保母の方と言々話して居るに、斯う云ふ事を言ひました。「何うも小學校へ行くに、餘り今迄の生活の變動が激しい。家庭生活なり幼児の生活はもつて自由であるのを、小學校にはいるこ一足飛びに時間割を立てゝ規律一方の教育をする。結局教育はさうでなければならぬが、餘り家庭から學校に移る變化が一足飛びである自分は信する。故に自分の幼稚園ではこれからやらうと思つて居るのであるが、ベルリンの市役所に話して父兄が希望するならば、一五一箇年幼稚園の教育をして行き度いと思ふ。この教育は無論幼稚園ではない、小學教育をやるが、幼稚園

でやつたのを所謂小學教育へ移り變る教育の關係を圓滑にして、滑らかに自然に學校生活に導いて行き度いことを考へるが、市役所に願つて許可を受ける積りである」と云ふ話ををして居りました。これは一寸面白い考へ方じやないかと思ひます。それと似た様な事はフランスにもあります。考へて居る人はあつたと云ふ事は言へるが、幼稚園と云ふものは甚だ振はざる狀態であつて、法律が一つもないことを云ふから隨分酷いと思ふ。これは皆さんも、教育史だけをお調べの時、種々の事情が然らしめたのであります。兎に角私の行つた明治三十三、四年頃は今申した状態であつた。所が時勢が進みますとドイツでも何時迄もさう云ふ状態はありません。千九百三十二年四、五年前十二月九日にドイツでも幼稚園と云ふものの規則を制定したのであります。その規則の目的を見ますと、幼稚園と云ふのは満二歳以上六歳迄の幼兒を、而も十名以上、一日中或は半日間教育的保護の目的を以て收容する所のハルボオッフェン……ハルボオッフェンと云ふのは或時間幼稚園に寄越す、半分開くことを意味です。寄宿させる方は、シユロッセン——閉じる、と云ふ言葉を以て居ます。一日の中或時間幼稚園へ來るのをハルボオッフェンと云ふ。その幼兒保育施設なりと説明して居ります。詰り幼稚園の中に住込ます意味じやない。或時間來て保育を受けると云ふ施設を説明したのであります。それからドイツには、今迄幼稚園と申すとキンダーガルテン……此の中に色々な名稱のものが出來て居つたのであります。例へば小さい子供の學校……クラインキンダーシューレー、或は保護學校……バルテンシューレー、これは就學前満六歳迄の子供を保護するものを言ふのであります。キンダーガルテンもそれですが。又もう一つある。これは……託兒所と申しませうか。フォルト、或はハイム。これは本來は満六歳以下じやない。學校に這入つて居る子供が家へ歸つても親は勞働に從事して居らぬから道路に出で危険な遊びをするより方法がない。其の爲に託兒所が出來た。本來は六歳以上の子供であつたが、段々變つて幼兒をも世話する様になつて居る。恰も日本の託兒所の如きものであります。その小さい子供の世話をする託兒所……フォルト、

ハイム、それ等を千九百三十年の幼稚園の改正に依て斯う云ふ風になつて居る。「官公的業務の上に統一的に凡て幼稚園の名稱を用ふべし」斯うやつて居るのであります。で、初め申した「三は事實幼稚園」とさう違はず。機關が違ふ。起りが違ふ。が大體フレーベルの起した幼稚園と違はない。所がフォルト、ハイムと云ふ託児所は、これも機關は違ひますけれども、或部分は幼兒の世話ををする事はまあ幼稚園と似た様な點もある。さう云ふ方面に向つては千九百三十年の規則に於て凡て統一的に幼稚園の名稱を用ひよ申すのであります。願くは我國に於ても然あらしめ度いと私は希望して居ります。たゞ子供の身體の世話をする許りじやない。世話をする以上は身體の擁護の上の事は勿論、教育的に世話をするのがいゝと思ふ。幼稚園的に保護の實を擧げる方が勝つて居ると思ひますから、同じ様な機關を、所管を變へて、或は甲と言ひ乙と言ひ、似た様な事でお互に仕事の支障を來す様な事は實に國家の上から詰らぬと思ひます。故にドイツの千九百三十年の規則改正の如く、凡て名稱を幼稚園と稱し、その實も幼稚園の様にやる事を私は希望して已ませぬ。もつと突込んで申上げますと、日本でも色々さう云ふ考はないではない。皆さんには恐らくあるでせう。文部省の當局者としても大正十五年の當時から其の考無きにしも非ずでありましたけれども、色々の事情の爲に甲は甲と言ひ幼稚園は幼稚園……と云ふ事で出來て居るから、これは國家の教育事業と考へ國民の將來に關する問題とするならば所管争ひは詰らぬと思ふ。ドイツのやり方に多少學ぶのがいゝのではないか。乍然事柄と云ふものは、歴史のあるものは容易に改まらぬものであります。皆さん、歴史と云ふものはさう無造作に變へられるものではないであります。單り此の託児所問題のみではありませぬ。凡ての問題は歴史があつて其所に一種の力がありますから、理想として私は以上の様に申しましたが實行の上からは糾餘曲折を経なければならぬ點もあらうかと想像致します。但し私は教育者の立場として自分の希望を率直に申上げた次第であります。

それに就きましては、幼稚園保育に當られる皆さん、單に形式の保姆にならず、眞に次の時代の國民の心身の發達を來すその基礎的事業をやる云ふ・眞の保育の實を上げる様にして頂き度い。さうでなければ大きい事は申されないのであります。幼稚園事業に當る者が一致協力して從來の缺點を改める。たゞ、行き方に隨て、慣例に隨てやる云ふ様な事でなく、魂をこめて幼兒の教育に從事して下さつたならば恐らく私の希望する様な事も實現する機會は生ずるだらうご考へて居るのであります。

私は以上申した様な色々の關係上、幼稚園の規則制定に關係致しましたので、こゝに十周年を迎へて喜びの餘り御挨拶の積りで出たので、たゞ自分の所感を少し述べて皆様のお聞きを煩はしたのであります。失禮致しました。

(司會者)

次に關屋先生が御話下さいます。

先生は幼稚園令公布の當時は文部省普通學務局長として特に直接この任に當り御盡力下さいましたのであります。

講演 關 龍 吉

只今森岡先生から幼稚園令の制定の當時の思ひ出に就てのお話を織交ぜられまして、内容的に幼稚園の事業に就て色々御抱負ご御意見を承はる事が出來まして、私共も非常に啓發されたのであります。

私は本日此處に出てお話をする様に云ふ御命令を受けましたけれども、唯當時其の局に當つて居つた、云ふ關係だけでありまして、何等自分の學說で教育的の意見を持つて居る次第ではありませぬので、ほんの手短かに、其時分の思ひ出の一端を申述べまして只今お話のありました森岡先生のお話を併せて當時の事情を御諒察願ひ、この十年の記念を機會に更にこれから十年、二十年の後、益々この事業の發展致して参ります様に希望の餘り、唯當時の回想を申上げる事で御

赦しを願ひ度いこ思つて居ります。

今段々お話のありました様に、明治二十三年の小學校令の中に二つの小學校以外の教育の仕事が含まつて居ります。それは申す迄もなく幼稚園の仕事及び盲啞教育の問題であつたのであります。この二つの仕事が獨立を致しまして小學校令から切離される、云ふ事は各々の關係者の多年の要望であります。遂に幼稚園よりも一足先きに盲啞教育の方が大正十二年の八月に切離されて獨立の勅令となつて發布になつたのであります。其處で從來熱心に運動をされて居りました方々の喜びは非常なものであります。之にぎうも刺戟をされた、云ふ譯でもないかと思ひますけれども、幼稚園の關係者が從來に比して更に一段の熱を示して獨立運動を開始されたのであります。私は大正十三年にこの方の職に當る事になつたのであります。其前によく幼稚園の關係者が文部省にお出でになる事は承知して居りました。「又お婆さんが揃つて來られた」、思へば必ず幼稚園關係者であるのであります。人ごとの様に思つて居りました處が、今度は直接その運動を受けなければならぬ事になつて、「又來られる」、思ふ大きいに悩んだ事もありましたけれども、併しこの悩み云ふのは要するに來られる方の御熱心であります。決して彼是申す次第では無論ないのであります。よく覺えて居りますのは、當時一番熱心に御出されましたのは、關西の方面では望月さんそれから膳さん等の御名前は覚えて居ります。東京では三浦さんが御出でになつた事こ思ひますが、未だ外に御出でになつたこ思ひますが、是等の方は特に御名前こ顔こをはつきり呼び起す程の感銘深いものがある。又併し唯御婦人ばかりでなく男にも却て熱心な方がありました。之は自分の身に引較べて言ふ譯ではありませんけれども、人間云ふものは誠にぎうも勝手なもので、自分が子供でももつて幼稚園に行く様になるこ幼稚園の事に關心を持つものであります。が此處に御出でになる、この次に御話になる、山樹參與官——今日の——當時は省外に在つて、未だ御子さんがあつても幼稚園に行かれる程の大きいお子さんではなかつたこ思ひます

けれども、非常に關心を持たれて熱心に運動され、吾々を憐したのは山林參與官であつたのであります。主に東京よりも關西の方が熱心に運動をされました。之は幼稚園が、何う云ふ關係ですか關東よりも關西に數多く、立派な幼稚園の存在致して居りました關係であらうかと思ひます。さもかく關西の方がわざ／＼特に出て來られて東京の方を案内として文部省に屢々押掛けられた、斯う云ふ事であつたのであります。此の運動が吾々に非常に刺戟を與へた事は事實である。

丁度今、森岡先生のフランスへ御出でになつたその思ひ出話がありました。之は私も（自分の事を彼此申しては甚だ恐縮であります、今申上げた様な事で、人間云ふものは誠に身勝手なものである。）自分の子供がそろ／＼幼稚園に御厄介になる云ふ頃に、大正十一年に——森岡さんは大分時代が違ひますが——スキスで大分幼稚園を澤山拜見致しました。之は元、出る前に倉橋さんから幼稚園の事を色々承はりまして、それを實見するのが、却つて日本より外國が先になつた、云ふ様な譯であります。又チューリッヒに参りましてペスタロッチの銅像を見て、小さい子供がペスタロッチの顔を仰ぎ見て居る、慈愛に満ちた顔を子供に與へて居る、あの姿を見て非常な感銘を受けた云ふ事も事實であります。左様にして自分の頭がさうか其方に向いて居る云ふ様な時に運動を受けます、之は餘程運動は有效だと思ふ。さう云ふまあ私の事は暫く別に致しまして、此處に一つ是非皆様に申上げなければならぬ事は大正十三年の十一月二十七日でありますか存じますが、皇后陛下がお茶の水に行啓の事がございました。其時に學校をずつと御覽になりました。午後は幼稚園を御覽になつたのであります。あの時に御覽になつて居ります御部屋へ這入つて居りました人達が誰々誰でありますか、私よく記憶して居ませぬが、兎に角私はすぐ御後に控へて居りまして、色々御下問がありまし折、御覽になります御模様を横から窺つて居つたのでありますが、その組でありますか子供が坐つて手工を致して居りました。其處へ後に立つて御覽になつて居りました、其の中に子供に直接に御言葉があつたのであります。「腰掛が遠くはないか」云

云ふ意味の御言葉がありまして、御自身で子供の載つて居りまする椅子を其儘お持ちになつて机の側そばへ御寄せになりました。私はその御模様を拜して甚だ恐れ入つた事でありますけれども遂に眼頭が熱くなるのを禁じ得なかつたので、此の事を歸りまして本省で自分の局の者に披露を致しました。皆の者は非常に其事に就て感動を致した云ふ事は、今日でも尙時々話に出る事であります。

斯様にして色々と刺戟があり、又關心も深くなり、何うしても幼稚園令の獨立、幼稚園令の制定云ふ事にお互に一つ努力しなければならぬ云ふ様な機運が此處に出來上りまして、この法令の制定に取掛る事になつたのであります。
其所で役所としては何うしても大臣次官の同意を得なければならぬ。當時文部大臣は岡田良平先生、次官は松浦鎮次郎氏であります。幸にして次官は話を聞いて呉れたが大臣はさう容易くはこれの制定の事を取受けては呉れなかつたのであります。段々熱心に皆で説きました結果、それは嫌である云ふのではなくして、岡田さんは色々意見の多い方であるから自分の意見を以てみるとまだ其の時機でなからう云ふ事であつたと思ふが、遂に目的を達して、それならば一つまあやつたら宜らう云ふ事になりました。愈々出來上つて發布になりましたのが大正十五年の四月二十二日の勅令第七十四號云ふのであります。此の時分の事を回顧致しますと、幼稚園令制定當時に於ては、まだ幼稚園の數は全國に九百餘りしかなかつたのであります。それから幼稚園に類似しました託児所が約百七十許りに上つて居つたのであります。何だから幼稚園云ふものが——今日は餘程さう云ふ感じは去つて居ると思ひますけれども——當時に於ては有產階級……所謂ブルジョアの社會施設であつて、中產以下の者は幼稚園の利用は考へる可きでない云ふ一般の考が相當深かつた様に考へられるのであります。其所で一面に於て御承知の通り當時の事情として非常に——デモクラシーを申しますか——庶民階級の階級的意識も段々進んで参りますし、それに伴つて社會政策的施設も追々進んで参る當時でありますから、一方に於

て託児所が殖えて参りましてそれは内務省社会局が所管をして居る云ふ有様。その内容を比べて見ますと、託児所の設備のいゝものは幼稚園の悪いものに勝つて居る。従事して居る人々の顔觸れを見ましても、幼稚園で立派に保母をなさつて居る同様の方が託児所に従事をなさつて居る云ふ事も屢々あつたのであります。大體を通じて見ますれば、無論託児所は幼稚園に比べれば教育的に劣つて居る云ふ事は申す迄もないが、一方託児所に對しては社会局では補助金を出して居りました。僅かではあるが奨励金を出して居つた。幼稚園には其の事がない。斯う云ふ様な事で、寧ろ幼稚園にするよりは託児所にした方がいゝ云ふので、あのまゝでは託児所の方が段々伸びて行つて幼稚園は發達を中止される云ふのが當時の實情であつたと考へて居るのであります。それから此の幼稚園の内容から申しまして、小學校令の中にありました幼稚園の施設に對する規定はまだ充分でなかつた。これは教育の内容に亘る問題でありますから敢て私が申上げる迄もなく皆様がよく御承知の事であります。此の點も何うしても改めなければならぬ。又幼稚園の事業に従事して居る保姆の資格云ふものが、幼稚園なり或は全般の教育云ふものがこんなに進んで居るのに對して低い。何うしても高めなければならぬ。これ等の事が大體改正の眼目と考へられたのであります。

此の時分に、外國の實情は何うであるかと思つて大分調べました。殊に森岡さんから色々材料の御提出があつて調査致して見たのであります。但し其の時分の調査では、まだ外國何れの國に於ても、幼稚園の規定が獨立の法令になつて居る處はない。さう云ふ意味から言へば、實質的には遅れて居つても形式的に幼稚園令を獨立させた云ふ事は、世界に先鞭をついた云ふ事を誇り得ると思ふのであります。

兎に角各國の狀況も調査して制定にかかりました。其の當時主任でありましたのは、只今東京府の府立の高等家政女學校の校長清水福市君でありまして、主として色々法案を書きましたのは只今内務省の事務官を致して居ります赤羽君、が

その下で働きました。學務局長は菊地君がして居りました。森岡先生が督學官として内容的方面を御擔當下さつた。出来ました法案を屢々練りまして、只今の専門學務局長をして居る赤羽君、代議士になつて居る木村君、それから伊藤君等若手の人達が審査委員で色々つき廻された。私共は自分の所管であるから頻りに受身になつて奮闘した。漸く案が出来て文政審議會に懸けた。八釜しい審議會ですから餘程虚められると思つて居つたが割合に無事に通り、更に樞密院の議を経てあれがものになつたのであります。

其の改正の要點は、今申げた様な點に觸れて居るのであります。新たに出来ました幼稚園令の第一條にあります目的、これは前からの事さう大した違はない。今森岡さんのお話の中に、幼稚園云ふものを教育的の意味で重んじなければならぬ云ふお話がありました。其の通りであらうと思ひます。幼稚園令第一條に「幼稚園は幼児を保育して心身を健全に發達せしめ善良なる性情を涵養し家庭教育を補ふを以て目的す」ありますが、これは前から引續いて變らないこ記憶して居るのであります。

第一の點は今これもお話のありました通り、三歳以下の幼児を入園せしめても宜しい、云ふ點であります。これは今森岡さんのお話を承つて、成程さうだつたかと思ひ出しますが、實は或時食堂で大臣の前で食事をして居りました所が「君、幼稚園の方は何うか、あの改正に就ては一つ大事な點がある。それは託児所との關係、即ち三歳以下の幼児の保育の問題である。これは社會政策上重要であるから特に注意して立案する様に」と言はれましたので、早速室に歸つて主任に申した事を覚えて居る。大臣にもさう云ふ事を種々お話になつた結果、大臣の頭がさう云ふ風に段々出來上つて行つたと云ふ事を思ひ併せまして、改めて森岡さんに御禮を申上げなければならないのであります。然し岡田先生は、皆様も御承知あらせられる存じますが、元來農村問題云ふ事に非常に興味を持ち、深い経験を持つて居られた方であ

りましたが故に、農村の事情に應じて其の時も屢々お話がありましたのは、田園の縁に遊んで居る子供であります。あれを何うしても幼稚園と關係をつけなければならぬと云ふ事は其の頃よく話が出た。さう云ふ事を考へて居られて、遂に此所に園児の年齢と云ふものが、三歳以下の者を入れてしめても宜しいと云ふ事に定つたと思ふのであります。これは只今のお話のありました勅令に次いで出ました訓令でありますが、其の訓令の大要は今お話が御座いましたが、文字に就て見ますと云ふところ、「父母共に勞働に從事し、子女に對して家庭教育を行ふ事が困難なる者多數居住せる地域に於ては、幼稚園の必要殊に痛切なるものあり。今後幼稚園は斯くの如き方面に普及發達せざる可からず。」早朝より夕刻に至るも可なり。年齢に就きても從來の規定と同じく三歳より尋常小學入學迄、特別の事情ある場合には三歳未満も入園せしめて可なり。これを外國の事情に徴すれば、特別の事情ある家庭に於て便宜を與ふる事大なるあるが如し」と云ふ事が訓令の中に謳はれてあります。

それから第三には今申上げた保母の資格であります、從來は御承知の如く、小學校準教員であれば宜しいと云ふのが、新たなる幼稚園令に於ては、師範學校卒業の標準にして、一時の例外として、女學校を出て一箇年其の方の實務に從事した者に資格を與へるといふ事がありまして、師範學校卒業に目處を置いて居るのであります。資格を高めるに隨て待遇の改善をして主任の待遇に改つたのであります。

もう一つは保育項目の問題であります、今日、「觀察」と云ふ項目が保育項目の中に這入つて居る。

斯様な點が大體新しい幼稚園令制定の眼目であります。斯くの如くにして新令が實施になりました十年間、段々幼稚園の教育が内容と外形と共に進展をして参りました事は御同慶の至りであります。

一寸數字から分けますと、只今申上げた大正十四年の終りに幼稚園の數が九百五十五、保母の數が二千八百、園児八萬

二千八百名。其の後まだ文部省の正確な統計が見えませぬが、昭和七年の統計に見ますと幼稚園の數が千七百六、保姆五千三百三十六、園児十二萬八千八百九十九。約三割の増加を示して居るのであります。斯様に發達を致して參りました事は、これは全く此の事業に御從事の皆様方の御熱心の賜物と存じますが、此所に當時立案者としてまだ一つ残つて居る何うしても早く改正をしたいと云ふ問題は、保姆の年功加俸の問題であります。これは私は今何等直接其の方に關係しないので位地をかへまして、今日此處に御臨席の山樹參與官特に私がお願ひしますけれども、皆さんからもよく御願ひになりましたて、此の問題が一日も早く解決出来る様に御願ひしたいと思ふのであります。

要するに只今森岡さんのお話にありました如く幼稚園の仕事は至難である。小學校になりますと、同様難しいでせうけれども學校と云ふ一つのカテゴリーが立ちまして教科課程が含まれて居るから、先生は家庭と別な意味に於ての學校の仕事を考へ得るが、幼稚園の仕事になりますと——私も、此處の幼稚園へ子供が三人も相次で御厄介になつて居りまして、洵に普段感謝と同時に先生の御苦勞に對して深く思をいたすのであります。家庭の全く延長である……學校も家庭の延長と申しますけれども、幼稚園程家庭と云ふ事が事實に存在して居る所はないと思ふ。其の家庭は色々御座いまして、良くなき家庭と云つては失言でありますけれども、餘り感心しない家庭もありませうし立派な家庭もあります。これを更に補つて幼稚園で子供の世話をすると云ふ事になる。關係されて居る方々のお仕事の難しいと云ふ事は言葉で盡せない事であると信じますので、吾々直接に關係のないものも即ち今日は父兄として幼稚園と云ふものを考へる者も亦幼稚園に直接間接に關係になつて居る方々も協力しまして、是非、難しい事業を更に内容を充實して只今申上げた様な、或意味に於ける託児所の問題を、此の幼稚園の仕事と併せて解決を致す様な時の一日も早く参る様に切望に堪へないのであります。甚だ詰らない事を申上げて失禮でありましたが御命令でありましたから當時の思ひ出話を簡単に御披露申上げて、私は

今日はこれで失禮致します。

(司會者)

次に山樹先生にお願ひ致します。

只今文部省參與官でいらっしゃいますが、當時は省外にありまして先程から御話の様に大に御盡力下さつたのであります。

講演 山樹重儀

倉橋教授は餘程以前に私の所に御見えになりまして、幼稚園令制定の十年記念の心持を致し度いと思ふから私にも出来る様に云ふ事でありました。其時の倉橋教授のお話は充分はつきり致して居らなかつたのであります。何か私にさう云ふ講演會を開くから講演をせよ、云ふ様でもありましたし、又何か十年の記念會をするからお前は功勞者の一人として招待してやる、云ふ様な意味でもあつたし、其處の點がはつきり致さなかつたのであります。はつきり致さなかつたのでありますけれども倉橋さんの命であり、且つ幼稚園の方が御集りになるならば私、罷出の心算で承諾致したのであります。私は御挨拶を申上げる心算で罷出でたのであります。處が今朝程、倉橋教授から電話がありまして「大變來會者も多い事であり、之々の方が話されるから充分長い時間、話をする様に」この事でありました。之は少々人を段々釣込んで行く術の様にも考へられますが、併し私はさう長い話をするだけの材料を持たないのであります。

一體この男が幼稚園の話をすると云ふ事が少し越權の沙汰ではあるまいかと思ふのであります。之は女に決つて居るのであります、今其處で控室で話がありました。「男の保姆があるだらうか」云ふ話がありました。處が「いやあるま

い。男の人ならばそれは園長で保母はあるまい」斯う云ふ話がありました。處が「それは男の保母がある筈はない。保母の娘は女扁に母を書くから」……(笑聲)此の問題は幼稚園令制定の當時に一應話があつたと記憶致して居るのであります。男の保母は何と云ふのですか。先生と云ふのか。先生と云ふと語弊がありますが……。幼児を預かる仕事をする人になる事が出来る様にしたら宜らう、と云ふ話もありました。さうしたら「教授」、「教諭」、「訓導」、「保母」この人は何う云ふ名前をつけたんだつて、大變話がはんて居つたと思ふのであります。どうも世界各國さうの様であります。私は今から十何年か前に、教育の視察にヨーロッパ、アメリカを歩きました。ヨーロッパを廻つてアメリカに参りましたとしてニューヨークに参りました時、ニューヨークで幼稚園の事を少し見度いと思ひまして幼稚園の視學——無論その幼稚園の視學は婦人であります——その婦人に私は會見を致し度いと云ふ事を書面を以て申込みました。さうするごと、返事が参りました。その返事の上封に「ミス、エム、ヤママス」と書いてあります。で日本のは甚だ便利であります。名前を書いて出すと男だから女だと解りますが、向ふのは頭文字を書くので婦人だと思ひ込むのも無理からぬ事であります。封を開けて見ますと、「ミス、ヤママス」と云ふ書出で手紙が書いてあります。「ゆつくり話をしたいから夜の八時頃自分の家へやつて來い」と云ふのであります。之は私が男子である事が明瞭であります。その方は獨身でありますから話に來いなんて事はない筈であります。それで私も其處は少々すうくしいのであります。それで之は遠慮すべきのが禮であらうと思ひましたが夜の八時に、指定された時間に参りました。初め面會した時に少し意外の面持であります。それで私は少々あります。それで一體之は女の携はるべき關係のものでありますから、私共男が出て来て嘴を入れる云ふ事は之は越權の沙汰であるかも知れませぬ。然るに幼稚園協會は本日男ばかり引張り出して話をさせる。さう云ふ記念講演であります。

するならば、先程からお話をありました通り、關屋君——當時の學務局長の述懐談の中にありました通り其處にいらつしやいます。望月さんださか膳さんださか、さう云ふお方が此處にお出でになつて色々昔物語を——明治何年——云ふ様な頃からの昔物語をなさる事が之が最も適當であるかと思ふのであります。併し男ばかり幼稚園協會の方で御呼出になる云ふのであります。従つて私共、何かこの御爲になる様なお話を申上げる事は出来ないと思ひます。併乍ら側面觀をお話する云ふ事は、之は「時々以て他山の石云なす」べき事も多々あると思ふのであります。専門の問題はつひ其方に没頭して「鹿を逐ふ獵師山を見ず」云ふ事も時々無きにしも非ずでありますから他處の者が勝手氣儘な事を申します事も或は時々馬鹿々々しいもの知らずに勝手な事を言つて居る云言はれる事もありませうけれども、或は「以て他山の石云なす」に足る場合も無きにしも非ずだ考へますから暫くの時間を拜借する心算で立つた譯であります。

今朝参ります三會長であります下村校長は「さうも日曜日のゆつくりの時間をお妨げして」云ふ様な御挨拶がありました。ですが私先刻來此處へ参つて居ります。今日は實にいゝ日曜日であつた。云感じたのであります。可愛らしい幼稚園の子供を御相手になつていらつしやる保母の方々、さうして其處で先程からお話を承つて居りまして、幼稚園令の古い色々な事を回顧致しまして、非常にいゝ心持になりました。私は今日は非常にいゝ日曜日であつた云深く感じて居るのであります。

思ひ起しますが一體私は幼稚園等云ふものに關係すべき筋合ではないのでありますが私が曾て大阪市視學の職にありました際に、云こした事から私が幼稚園の關係並にそれに關聯致して居ります保育會のお世話をする命を受けました。その命を受けた事が因縁になりまして、幼稚園の方のお世話をする様になつた。處が先刻關屋さんのお話になりました通り、關西に於て幼稚園は非常に發達を致して居る。幼稚園が發達した云ふ語弊があります。お叱りを受けますが、公

立の幼稚園が發達を致しました。東京には私立の幼稚園が非常に多いのですが、關西に行きますと、公立の幼稚園が非常に澤山ありますし、その結果であらうと思ひますが、自然に幼稚園關係者の會と云ふものが組織されて居る。單に各都市だけでなく京阪神三市の幼稚園關係の者が保育の會を組織致しまして、永年互に切磋琢磨して、そして雑誌迄も發行して居る。斯う云ふ事情になつて居つた。さう云ふ、形に於ては遙かに關東よりも關西、主に京阪神が非常に發達を致して居つたのであります。何う云ふ理由でありますか存じませぬが、非常に發達をして居つた。其中に私は引出されたのであります。自然幼稚園最負になると云ふ事になる。さうするご其處には先程關屋さんのお話になつた様な色々な幼稚園の大先輩が——婦人の方が——多數にいらっしゃいましてそして私は引廻されたのであります。それが御縁になりまして、全國幼稚園關係者大會と云ふ様なものに關係を致しました處から段々幼稚園に引摺込まれて、幼稚園の關係の方から幼稚園の立場から要求すべき種々なる事を聞かされて居りました。その中の一つは幼稚園令の制定であります。或は幼稚園の保姆の恩給に關する件、及び先程お話をありました年功加俸の件、斯う云ふ事が毎回のさう云ふ會で決議をせられて、建議をせらるゝ事に相成つて居りました。その問題を私は外に在る者として建議し、陳情致して居りました。其處で私が大正十三年に衆議院議員に當選して出ました處から其等の方々は私にその際に運動を徹底する様に託されまして、何か議會に幼稚園に關する請願書を出すと云ふ事で、私に紹介をしろと云ふ事であります。ではさう云ふ事が實は私が幼稚園令に關係のあるする因縁なんですが、決して私はそれだけの因縁以外に何にもないのであります。先刻來お話をあつた通り、文部省の諸君が非常に御熱心に之を計畫して下さいまして幼稚園令が立派に出來上つた。さうして保姆の資格が大變高まつて参りました。之は大變喜ばしい事であります。保姆の資格の點は幼稚園令によつて高まつて參りました。今日は方々に養成所

も出来てよくなつて居りますが、私は往時の幼稚園を思ひました時に、市内の幼稚園の保母を採用する時に園長の諸君から推薦して來ます。之を採用するか否かを決定する。其頃の規定によりますと、女學校を卒業致しますと保母の免許状を無試験検定で貰へる事になつて居つたと思ふのであります。従つてよく免許状を持つていらつしやいますが、私共視學仲間では「又あがやつて來て困るな、あんな者は閉口する。」と、いふ、う話ををして居つたのであります。色々な事を聞いて見ても何も知つて居る譯じやない、どうもあれば困つたものだ、と言つて居りました。それが幼稚園令によつて資格が高まつたのであります。従つてこの問題は解決せられました事と思ひますから、今日保母の方が立派になられた事は喜ばしい事と思ふのであります。それから恩給の問題であります。之はこの高等女學校を卒業したのに直ちに保母の免狀をくれる頃、それは小學校の準教員の免狀を呉れるから同じに扱ひまして、小學校の準教員と幼稚園の保母と同じ形になつて居ります。それで準教員に對しては恩給がつかない、と云ふのが大正十二年の恩給法によつて全國に統一せられたものである。さう云ふ形になつて居ります。但し之は當分の中はやらぬが、或時期が來たらやる、と云ふ事になつて居ります。之は甚だ不當な事であります。先程のお話にありました膳さんは三十年の長きに亘つて幼稚園の保母として働いて居られる、唯單に一保母であるのみならず天下に有數な名保母として、然も全國の保母の方々に幼稚園の保育の仕事を教へられて多大の功績のある方であります。然るにも拘らずこの方々に對して老後を楽しく養はれます恩給を給する事の出来ない法規になつて居りました。甚だ法規の手落である事は申す迄もない事であります。この問題は先年——數年前に——恩給法が改正になりました際に解決を致されて居ります。従つて殘る問題は先程のお話の年功加俸の問題が残つて居りますが、この問題は私は只今關屋さんに「こんな、其時に解決せずに捨てをして行つて後で『養へ』と云ふのは少し蟲が好過ぎる」と申したのであります。之は何とかして適當な時期に解決しなければならぬ事と思はれますが、之も私共は

よく考慮して居りますが、俄には参らぬのであります。

私尙少し御話を致して見度いと思ひますがさう云ふ關係で私が幼稚園に縁を持ちました處から、大正十一年にドイツに参りました際にフレーベル先生の遺蹟をすつと訪ねて廻りました。先程から思ひ起して居つたのであります。丁度七月の初めの頃ではなかつたかと思ひます。フレーベル先生の生れられた所に参りまして、それはチューリンギヤの深い森の中の、山の中でありまして、オーバー、ワイズバッハと言つたと思ひますが、畫頂汽車で着きました。地圖の上だけで見て行つたのでありますから、「此處から近いだらう」と言つたら何里か遠いと云ふので、それから馬車を備はうと思つたが言葉が旨く通じませぬ。それは私の知つて居るドイツ語とその南の方のドイツ語と發音が違ふのですから。で兎に角馬車を備つて何里か、一時間もかゝつたと思ひますが、馬車に搖られて段々山の奥に這入つて行つて一つの小さな村に着きました。その村の牧師の家で生れられたのであります。先に記念塔の建つて居ります高い山の上であります。但し、その山へ上りまして、それから下つてフレーベルの生れられた家に訪ねたのであります。もう薄暮くなつて居りました。門の戸が閉つて居ります。「之はフレーベルの生れた家か」と言ひましたら「さうだ」と言つて下りて來ました。中に這入つて彼を慕つて來たと申しましたら喜んで迎へて呉れました。歸り途は日が三つぶり暮れて來ました。谷川の水の流れに螢が飛んで居りました。其間フレーベル先生の勵かれた所は盡く私は廻つて來ました。お墓にも詣つて來ました。それで私は斯う云ふ事を感ずるのであります。幼稚園の方式を考へついた人はフレーベル先生であります。でフレーベル先生の考へてかれた方式云ふものが幼稚園の根本方式になつて居るのであります。がフレーベル云ふ人は之は初めから教育者でない事は御承知の通りであります。フレーベル先生は建築技師であつたと記憶致して居ります。極く綿密な人であります。フレーベ

ル先生の遺物が綿密極まるものであります。博物館がありますがフレーベル先生が初め幼稚園を開かれた所であるこ思ひますが、有名な「人の教育」の原稿がありましたが、實に丹念な字で書いてあります。實にキチツミした丹念な字ですつゝ書いてあります。この建築技師であつたフレーベル先生の考へられた幼稚園の方式こ云ふものは、無論あの「人の教育」に書いてある哲學思想が流れて來ては居りますけれども、ある匂ひが致して居ります。恩物を御覽になるこ一寸家を組立てたり、之を色々な要素に分析してあつて、それで出來て行く組織になつて居ります。その頃幼稚園の方式に對して異なつた行方を明かにした者はイタリーのモンテッソリー女史であります。このモンテッソリー女史は低能児の教育に携はつてその低能児を教育する方法を色々苦心慘憺してある方式を見出して、其方式に或るヒントを得まして、幼稚園の教育の方式を考へついて來たこ承つて居ります。従つて低能児の教育の立場から言ひますならば、感覺の正確さを教育して行くこ云ふ事が非常に大切な根據であるに相違ないこ思ふのであります。低能児の教育を其處から出發して感覺の調節から進めて行かう、こ云ふ事が當然な事であらうこ思ふ。従つてこのモンテッソリー主義の方式には必ず感覺知識の教育が非常に重きを置かれてある。斯う云ふ風に私は思ふ。さう云ふ關係から私は「人の教育」の思想こか方法こか云ふものは、其人の生活に重大なる關係があるこ思ひます。自分の人格こ自分の生活から離れて教育の方法を案出するこ云ふ事は困難であるこ思ふのであります。過去の教育に対する色々な目的論、方法論、議論をした人を見ますこ、それくそその生活こ密接な關係があります。

先刻森岡學長のお話の中にベルリンにコメニウスハウスこ云ふのがあつたこ云ふ事を御話になりました。コメニウスこ云ふのは教育の論をヨーロッパで組織立てた人として考へられて居りますが、この人は特別な生活をして來た人であります。其人の生活こ學問からあゝ云ふ論が生れ出て來たのではないいかこ思ひます。一言餘談を申上げますが私がヨーロッパ

に太正十一年に参りましてベルリンのコメニウスに行きました。コメニウスの教育思想を基礎にして子供の教育を進めて行つてコメニウスを記念して居るのであります。無論主としてフレーベルの思想によつて保育を進めて居る共にモンテッソリー主義のクラスも設けて其處で教育を致して居ります。其處に私が参りました時の一つの話を致しますが、其處を案内して呉れた一人の保姆がありました。相當年三つた人であります。段々懇意になつて話を致して居ります、「自分等は——一度あのドイツの困つて居ります時でしたが——非常に色々困つて居るのである。自分はこの夏何處かに避暑をして保養を致したいと思ふが費用がない。其處で自分はペスタロッチの書面を持つて居る。それを貴方は買つて呉れまいか。さうすれば私はこの夏避暑保養に行く事が出来る」三申しますから私は「宜しい。買ひませう」三申しました。

「之は大切なものでするから圖書館に保管を願つてあります。一緒に行つて一遍見て呉れ」三申しますから圖書館に行つて寶物を見ました。「宜しい。それでは私の宿に何時に金をおいておくから、もう自分は出發するので御目にかかる事は出来ないがお買ひ申しませう。金を受取つたらその書面を渡して呉れ」三その日を決めておいたのであります。然るに私は金をおいて行つたのであります、行違ひがありましてその後、幾ら経つても手紙を送つて來ませぬので、私はロンドンから手紙を出しました、「お前から金を引換にする事が出来なかつたからこの夏は保養には無理には行くには行つたが、卵も幾つしか食へない——他の人は幾つもか食べるのに——自分は食べなかつた」三云ふ様な非常に憐れな書面が来ました。私は早速「宜しい。一重になつても構はぬから金を送ります。其手紙を送つて下さい」三約束だけの金を送つた。其金の高が凡そ私共の参拾圓程度であつたこ思ひます。それで私は其金を送りました。さうしたら其手紙を送つて来て呉れました。其當時ドイツは實に悲惨な状態にあつたのであります。さうした處が私が金を送りましたが「その前に預けておいた金を受取る事が出来た。一重になりますから」三云ふので其金を私の所へ送り返して呉れましたが其時にはドイツの金

の相場は益々下つて居ります。遂に私の手許へ「一重になつたから」と言つて送り返して呉れた金の値打は約參圓程にて居ります。私は日本金で參拾圓送りましたが、日に々下つて居りますから三月程して居りますと、十分の一に下つて居ります。このドイツは如何に悲惨な生活をして居つたかと云ふ事を思ふのであります。然もそれを私は回顧致します時に吾々が斯様にして悲惨な生活をせずに済みました事を誠に有難い御代であると思ひます。同時に、考へなければならぬ事は、左様にドイツは悲惨な有様に陥つて居りましても、日に々金の値は下る、下るに従つて物價は上つて来る、私共旅人は非常な混雜を致しましたが、其中にあつてドイツ國民は狼狽へもしなければ、騒ぎもしない。落着き拂つて、如何にして之に處するかと云ふ事を沈着に考へて平靜に進んで行つて居る事を深く敬服を致しました事であります。日本人の此處數年來の心理狀態から考察致します。若しも日本が不幸に致しましてこの日本の圓の値打が非常に下つて半分になり、三分の一になり、十分の一になり、二十分の一になる、と云ふ様な大變動が参りますならば日本の人民は恐らくドイツの人民の様に沈著であるか。駄目だ、出來ないのであるまいが、と云ふ事を私は想像致すのであります。それは數年來の日本人が少し不景氣だと云へば癪癥をたてゝ騒ぎ廻つて居る、此狀態から見ますとあのドイツの如き狀態に陥つたならばヨーロッパに比べて二倍、三倍の騒動が起つて居たんぢやないかと想像するのであります。之から見て諸君が餘程日本の國民性の教育に注意して頂かなければならぬかと思ひます。小さい子供を預つて居られる貴方方はこの事に當つて落着いたと云ふか、判断をする、附和雷同しない事であります。或一種の腹を造ると云ふ事を考へて居らなければならぬと思ふのであります。併乍ら私は貴方方に子供に直ちにさう云ふ事をなさる云ふ事は時期によつて弊害があると思ひますが、之は後で申します。

兎に角さう云ふ幼稚園のフレーベル式とかモンテッソリー式とか方式がある。アメリカに行くとコロンビア大學の如く

ヒルの方式が案出されてあります。處が此處に私が日本の教育界を通じて考へ度い事は、日本の教育界ですつゝ前には無論徹底的フレーベル式の幼稚園はあつたであらうと思ひますが、餘程以前から徹底的フレーベル式の幼稚園を云ふものではなくつて居ると思ふ。之が事實であると私申上げる。又モンテッソリー式の幼稚園の保育の方法を云ふものが日本に盛に傳へられましたが、恐らく徹底的にモンテッソリー式幼稚園を云ふものは存在しなかつたと思ふのであります。イギリスに行きますと云ふと、或はドイツに行きますと徹底的にフレーベル主義の幼稚園はフレーベル式の幼稚園をやつて居る。モンテッソリー主義が傳はつて来るといギリスでもイタリーでも、イギリスのロンドンにも澤山徹底的にもモンテッソリー式幼稚園を云ふものがあります。さうしてモンテッソリー主義が出来て居つて徹底的にモンテッソリー式でやつて居ります。此處に日本には徹底的モンテッソリー式を云ふものはない。之は日本の教育界全般を通じての傾向であります。學者が何かヨーロッパから留學して歸つて来る、新教育を主張しなければならぬものと見え、誰も彼も何とか名前を付けて、學者の名前を紹介して新しい教育方式を夏休みに講習して廻ります。それだから何式教育、何式誰の教育説を云ふものが傳はつて居ります。教育者口を開けば誰の説を申しますが一つとして徹底して其の人の主義を施した小學校も中等學校もない。或人が僅かにダルトンプランの教育方式を徹底的にやつてみやうとした人があつたのでありますが、餘り長續きを致しませぬ、然るにダルトンプランを言へばアメリカでもイギリスでもその徹底的その方式の學校があるので小學校でも中等學校でも女學校でも徹底的ダルトンプランの學校が澤山あるのであります。近くバーカスト女史も來月一日から新教育會議に出席する爲に参りますが相變らずダルトン式を徹底的にやつて居る。而して其説に共鳴した人は實行する。其實行する人はアメリカにもイギリスにもヨーロッパにもあると云ふ次第であります。併し日本には何處にもない。之は日本の教育界の一つの弱點であり長所であると私は思ふのであります。今の日本に行はれて居る幼稚園のやり

方々云ふのは之は倉橋式幼稚園かも知れませぬ。或は西の方に行くと森川式幼稚園かも知れませぬ。けれどもさう云ふ人は意識をなさつてしていらっしゃらない。其人は誰々の式に従つて幼稚園を經營して居るゝ仰有る方はありませぬ。私の方は斯うだゞ言つていらつしやる。モンテッソリー式もフレーベル式も倉橋式も皆な折衷してよい處をもつて悪い處を捨ててやつて居ります。ミ斯う云ふ。其處は非常にこのいゝ處であります。日本人が或説に固著しない處が非常に值打のある處であります。併乍ら其處に又短所もあります。皆な園長さんが各自の方式、教育主義を考へて居られます處が、各幼稚園の方も保姆の方も偉い方には相違ないのであります。相違ありませんが、併乍ら自分の短い間の経験、狭い経験をもつてそれを基礎にして「俺の方式」だゞ言つてお威張りになつても、間違ひがありはしないか、疑ひの起る事がありはしないか云ふ事を私は恐れるのであります。日本の今の社會相がさうなんです。其處が今日日本の社會には權威^{を認}めない社會なのです。何の方面にも權威者がないのです。教育學の權威者、誰でありますか？色んな人が勝手な説を吐いて居りますが、教育の事なら彼處に教を乞はう云ふ事になつて居りませぬ。或は社會學に於ても、憲法に於ても、政治に於ても、經濟に於ても、誰かこの權威者があつてさうして大體に於て其權威者の意見に俺は従つて行く。ミ云ふ方針を云ふ事が日本に於て今、困難であります。それは併乍ら權威がないのかあつても馬鹿にして居るのか？大體の人にけちをつけて居る。そんな偉い人にでもけちをつけなければ納らぬ云ふのがそれが今の日本人であります。心から感服するのではなく、詰らぬ奴だゞ悪口をつけて居る。自分が偉くなつた様で人の事を詰らぬ云ふのが今の社會情勢であります。この社會情勢は色々な點に於て日本の爲の癌——病氣であります。其心から日本人はものを澤山知つて、偉くなつたであります。うけれども、日本の社會に種々なる問題が、惱みになつて居つて、その解決が致して居ない、解決が出來ない重大なる原因は其處にあるのであります。更に進んで申しますならば、下剋上を示して居つて、下のものが上を壓する。上に立

つ權威があつて、その權威者について行つてさうして纏つて行く、云ふ事がないのです。之をデモクラシーの弊害と稱して居ります。之はデモクラシーになつたから斯うなつたと申すのであります。併乍ら之は日本のデモクラシー——さう云ふものがありますならば——之は日本のデモクラシーであつて、なんぼデモクラシーの盛であるアメリカに致しましても、各方面にちゃんと權威があつて、デモクラシーの一番表現であると思はれます勞働運動に致しましても、ちゃんと權効運動を率いて行く所の權威者がありまして、其權威者に従つて動いて行く。吾々大將にはならないのです。本當にデモクラシーミ云ふものは決して人々の吾々大將ミ云ふ意味ではないのであります。心から權力に——壓迫せられるに非ずして——心から或偉い人について行く方式がデモクラシーの本當の精神であらうと思ひます。イギリスに於てはさうなつて居ります。すつゝ權威者について行く。吾々大將ではないのであります。此處に日本の社會相にその惱みがあると共に日本の教育界に於てその惱みがあります。幼稚園に於ても矢張それが現はれて居つて各幼稚園に於て俺の幼稚園の方式だと言つて勝手氣體な言へば語弊があるかも知れませぬが、勝手氣儘な方式をミツつておやりになつてゐる。之は日本の社會相かも知れませぬ。色々なものをごつちやにして一つの——例へば此方には日本料理もあれば、彼方には西洋料理の一皿もある。此方には支那料理も載せてある。一つの膳の上には支那料理も西洋料理も日本料理もごつちやに並べてある。それを纏めて胃腑におさめて行く處に日本人の偉さがあるんであります。が其處に難しい面倒な事があるのであります。貴方方幼稚園の教育をお考へになる時は是等の事をよく參照して考へて頂き度いと思ふのであります。さうしないで餘まり我儘勝手になり統一がない事になる。さう云ふ——どうか講習を受けられたら、東京女子高等師範式——此處はお茶の水ではないんですが、前の名前を取るならば、お茶の水式——教育法ミ云ふものに敬服致されましめたならばそれを一つ徹底的にやつて見よう、自己を出さないで徹底的にやつて見よう、云ふ事をお考へになる事がいゝと思ふ。今日斯うなら

ない元は學校の指導者、教育家、殊に指導者となるべき大學教授になります。大學に於て何う云ふ講義をするか云ふ
事、片端からあとの人の説にも誤りがある、缺陷がある。誤りや缺陷のあら探しの講義を朝から晩迄やつて居るのあります。何れのものも信すべからず、云ふ事、何れも皆な缺陷がある云ふ事を、人のあらを探して居ります。人のあらを探すと同時に自分の説を造つて行く云ふ事が趣旨であつて、其爲に人の説を聞くのであつて、根本は自分の説を立てゝ行くのである。大學の學者が自分の説を持つて居なければならない。其處に日本の從來の指導者教育の誤りがある。所謂批評學になつて建設學にならないんだ、云ふ事が社會現象なり教育現象になつて居る云ふのであります。

私は今日、教育學云ふものを眺めて居ります。非常な淋しさを感じます。何であるか云ふ事、最初に申しました様に、從來の説を立てた人を見ます。コメニウス、このコメニウス云ふ人は非常に政治的に複雑な國際關係の中に在つて苦惱を嘗めて來た人であります。或はその影響を受けた云考へられるイギリスの教育家ジョン・ロックに致しましても、此人は實に複雑な生活をして來て居る中に其中から人間味を見出して有名な哲學を作りました。其生活の中から教育の方針を説明したのがジョン・ロックの哲學であります。或はルソーのエミールに致しましても、ルソーはジエネバに生れて——生れた家は解りませぬが——浪々の身に在つて苦惱を嘗めつゝ人生の様々なる生活の表裏を味はつてさうして其處に人間云ふものを見付け出して教育して行く可きものだ云ふ自分の生活と人格の閃きから生れたのがルソーの教育、エミールであります。ペスタロッチ先生に致しましても、さうして私はペスタロッチの遺跡をすつゝ廻つて見ましたが、その色々な生活と悩みの中に其處に教育の方針を發見致した次第で私はこのペスタロッチ先生の本を詳しく読みませぬが、書いてある事は所謂學問的論理的組織は立つて居りませぬ。言つて居る事に前後矛盾があつて何を言つて居るか解らぬ、云ふのがペスタロッチ先生の教育の本の性質でありますが、併乍ら其處に非常に味はひがあり、人を教へる事が

非常にあります。フレーベル先生に致しましても同様であります。其他過去の教育の説を立てた今日の教育上の先輩の悉くが人生の面倒な悩みの中から人生の本質を擱んで来て、其處から動き出すものであります。従つて其人の傳説を讀む事が其人の教育説を讀むこと同じ事であります。其人の教育の本を讀む丈でなく其人の傳記を讀む事は修養になる事が多いのであります。

然るに近來の教育説を見ますと、教育説云ふものは非常に組織立つて論理的に一點の弛みもない様に組織立てられて居ります。併乍ら其中には餘りにも人間の匂ひがないのであります。科學的教育説等と言つて全く人格を離れて、客觀的に妥當なる處の教育説を造り上げやうとして、其處に何等人格の光を見出す事が出來ぬ。自然科學と同じ様に味はない。其人の本を讀んで居ればそれに若干啓發される事もありますが、其人の生活を見るに、何等開發される事がない。其人の傳記を讀んでも何等啓發される事がない。人生の味はひ無き人の教育説云ふものは大して人間を啓發する力は持たぬのであると思ふのであります。近來教育の論を爲す多々ありますがその論たるや、客觀的科學的理窟で、生活的人格の流に逆つて出でたものである事は少ない。教育學者は同時に教育者でなければならない、と同時に偉大な人間でなければならぬ。偉大なる人間が教育者であり而して其人が説を文字の上に表はす事が教育學となる、斯う云ふ事にならなければならぬのではあるまいかと思ふのであります。生活にぴたり結びつけて、生活を根柢にして人間の存在を突きこめて行く事にならなければ、本當の保育法にはなりませぬ。遊戯は斯うする、手技は斯うする、唱歌は斯うだとか、さう云ふ事ばかり教育してもそれは人間を教育する事にはなりませぬ。それは輕業師を教育する事であり、事務的仕事であり、人間に道具の教育をする事であつて人間の保育にはならないのであります。

先刻森岡學長から色々お話をありましたが、私の處へ或雑誌から斯う云ふ質問が來ました。「幼稚園に來べき年齢の子供

を持つ親に對して『幼稚園に入れたがいいでせうか。入れないがいいでせうか』斯う云ふ質問があつた場合に如何に御答へになるか。其御答をなすつて下さり、之を雑誌に載せるのだ、云ふのです。私は斯う云ふ返事を出しておきました。「家庭に同じ様な年頃の子供が何人もあつて、そして自分の家に庭が廣いか、近所に廣場があつて近所の子供と一緒に遊べる、斯う云ふ事情にあるならば、強ひて幼稚園におやりにならないでも宜しいでございませう。子供が一人ぼつちであるか家に遊び場もない、近所の何處にもない。近所の子供も遊ぶ場合もない。斯う云ふ事でありますれば、幼稚園におやりになるのが宜しいでせう」斯う私は書いた。それでこもする、幼稚園は餘りに教へ過ぎる——幼稚園は教へ過ぎる——幼稚園に一體時間割なんか、キチ／＼定めてある云ふ事がありますならば、それ自體、それが口ひを得ざる罪悪であります。同時に餘り一緒に——先程から社會生活云ふ事もありまして、私も申したのでありましたが——或時代の子供に餘まり一緒に社會生活等、キチ／＼した動作を要求する等云ふ事はそれはやれば出來ます、出來ますが、その子供の一生の事を考へて見たら其子供の爲になるか何うか、私は大きな疑を持つて居ります。色々な事を質問して來る者であり、色々な活動をする。先程も三、四歳、四、五歳の頃は大學よりも多くの教育を受けるこ仰有いましたが、私の家に五つになる子供が居りますが、色々なものを摑へて反問する。之は何う？何うして出來るの？何をするの？何々？云盛に質問する。一齊保育を致して居りましたら皆んなその芽をつめて了ひます。其他色々な事がありますが、子供を澤山三十三云ふものを一人で扱はなければならない時はそれは已むを得ざる罪悪であります。而も其處で餘り教へ込むのでないから、夏暑くなつたから晝迄限りになる、なんて事は抑々觀念が間違つてゐる。先程森岡學長がお話になりました様に朝から晝迄おいて置け云ふ位でなければならぬ。無理無體に時間割を並べて造つて、夏暑くなつたから晝迄で晝からは暑くて可愛想だから歸してやらう、云ふのは根本的に間違つて居る。夏は暑いから——保姆の方には御氣の毒であります——家庭に歸つても暑いし、殊に丁度暑い盛りに歸してやらずに涼しくなつてから歸す、幼稚園に居る事が子供に

迷惑ではない——小學校は教室に入れて時間割を決めて本を讀ますのですから半日にして歸してやる。それは小學校に無理のある證據であります。だから幼稚園が夏暑くなつたから晝迄で歸してやらうと云ふ事になりますのは、根本に於て誤つて居る私は思ふのであります。夏暑い時は尙更晝迄置いてやらう、斯う思ふのであります。

どうも大變長い時間こりごめない事を申しましたが、私の感じて居りまする事を一寸申上げました。諸君の爲になるか何うか解りませぬが所感を申上げまして私の責を塞ぎました。（拍手）

（司會者）

之で御願ひをしてありました三先生の御話を終ります。

實はこの十週年記念講演會を催しますに當りましては、色々御招き致したい方が多かつたのであります。先程御話のありました如く當時の岡田文部大臣を始めと致しまして、今日御招きする事の出來ない事情にありまする方々、誠に残念に、遺憾に思ふのであります。御招き申上げました方々の中でも御差支のありまして御出でを頂けませぬ方も少くありません。菊地豊三郎局長、赤羽氏等は御差支で御出で頗へませんでした。清水氏は御さし繰り御出席を頂いて居ります。其他教育界に於て御活動下さいました方々を出來ますだけは御招きは致しました心算でありますが、私の方の手落もあり、全部御出席願はれなかつた事は遺憾に存じて居ります。唯幸ひに先程來屢々お話の出ました、膳まきさん、望月さん、御出席になつて居ります。ゆつくり御話を伺ひますれば誠に心ゆく處があると思ふのであります。がこの時間も時間になつて了ひましたので、皆さんの御贊同を得まして、當時の御婆さん——今十年経ちまして、御若くなつて居りますが、當時のお婆さん達の代表として望月さん、一寸御登壇だけ願ひまして、この會を終る事に致したいと思ふのであります。

挨拶

望月くに

只今倉橋先生からの御命令によりまして、此處に参りまして、私や膳さんの様な、一番感じの悪いものが度々文部省の方に参りまして、一番印象に残りました事は少し恥しい事も思ひまして、今頃、赤面を致して居ります。

この事に就きましては、私共は雑兵でございまして、元々雑兵云ふものは、先陣の先きに立つて討死するのが役目を心得て居ります。立派な倉橋先生の様な旗頭が「進め〜」と仰有るので、私共が弾丸に當り乍ら、矢に當り乍ら前に進んで行きました譯であります。幸ひに文部省は敵ではございませぬで、味方でございましたから、何時でも御晝御飯なんかを、餘り長くがん張つて居りました爲に御晝を頂きましたりして、恐縮して居ります。さう云ふ雑兵が皆さんと一緒に御禮申上げる事は、甚だ済みませぬで、本當は旗頭の倉橋先生に此處に上つて頂いて、其當時に御骨折を頂きました皆様に御禮を云つて頂くのが當然ご思ひますが、兎に角何事も旗頭の方の仰有る事を聞くのが本體でござりますから、一寸此處に上りまして一言御禮を申上げます。大變失禮致しました。

(司會者)

これで午前の記念講演會を終ります。實は私本日を記念致します爲に、幼稚園令が始めて公布されました其日の官報を今朝から抱へて居るのであります。大正十五年四月二十一日の官報でありまして、其の爲に時には二十一日に公布されました様に御思ひになりますが、官報が二十二日でありますと、畏れ多い事であります、御名の下に内閣總理大臣が副署致して居ります日附は四月二十一日であります。爾來十年経ちました。これから又十年目、若し出来ます事ならば御一緒に二十週年の祝ひも三十週年の祝ひも、五十週年の祝ひも百年の祝ひも致し度いと思ふのであります、併し十年毎に記念日が來るのではなくいかと思ひます。

之で閉會致します。

(以上速記による。文責在編輯部)

東京市麹町區

柳
況

期間
自七月二十日
至八月十三日

日曜休み、正味三週間午前八時始、雨曇天は三時、炎天は四時終

七月三日水曜
學校區域各町會長宛

依賴

七月十二日 金曜
七月十八日 木曜
入園希望者身體檢查
(健康診斷) 校醫來園
保護者會、防疫課大

島醫博「夏の小兒病
主に疫痢に就て」お

七月 二十一日	以上準備期 土躍	入園式(午前九時)
二十二日	月曜	身體檢查
二十三日	火曜	於番町
二十四日	水曜	中央會館、金井

卷之三

二十五日 木曜
二十六日 金曜
於番町 上野動物園(省線に

۳

曜	時	月	日	午	前	午	後
土	金	木	水	火	月	火	水
バ タ ド ル ブ キ	甘 辛 ラ メ ト	ビ ス ケ ッ ト	ま ん が せ ん べ い	お 嫗 わ こ し	ジ エ リ ー ム	チ ヨ コ レ ー ト ク	ド ロ ツ ブ
タ か る や づ き	キ ヤ ラ メ ル	ス ケ ッ ト メ ト	ん が せ ん べ い	お 嫗 わ こ し	リ ー ム	ー ウ フ ア	ロ ツ ブ
ド ロ ツ ブ チ ー ラ	甘 辛 ラ メ ト	ビ ス ケ ッ ト	ま ん が せ ん べ い	ド ロ ツ ブ	ジ エ リ ー ム	ヤ ム バ ン	キ ラ メ ル
カ ス テ ー ラ	梅 あ 食	ビ ス ケ ッ ト	ま ん が せ ん べ い	ホ ー ズ イ	ド ロ ツ ブ	ム バ ン	(卵 キ入 り) ラ メ ル

おやつ豫定表

七月二十七日	三十一日	水曜	健康診断(校醫來園)
二十九日	一日	木曜	於番町
三十日	二日	金曜	日比谷公園(黄ばす)
			にて
三日	土曜	井の頭公園へ(省線	
五日	月曜	火曜	
六日	火曜	多摩川林間學校へ	
		身體検査	
		於番町	

每日豫定表

八時十五分まで	洗眼
八時十五分から	ラヂオ體操(屋上で) 御挨拶とお話を(體)
九時から	オヤクソク(操場で)水遊び、組の仕事
十一時四十五分まで	おやつ、組の仕事
十二時から	水あそび又は遊戯等
十二時まで	身體拭き、手顔洗ひ 有益分配等食事仕度
三時から	遊戯、組の仕事、唱歌、
三時まで	手洗ひおやつ準備の
三時半から	後おやつ、顔洗ひ
四時	足を洗て紙芝居又はお話

フランスに於ける幼兒保育に就いて

白根孝之

一、概説

本誌上に於てドイツ、イギリスに於ける就學前教育の歴史並びに現情に關して見て來たから、こゝにフランスに於ける幼兒保育の概況を紹介してみよう。

先づフランスに於ける行政組織並に教育行政組織に就いてその概要を見る必要がある。フランスは行政上の單位としては先づ全國を九十の縣(Département)に區分し、縣は數ヶの郡(arondissement)に、郡は市町村(commune)に分けられる。地方自治團體としての政治機關を有するのは縣と市町村だけであつて、この點は我國の行政組織に相似する。この三者の他に郡の下に區(canton)があるが、これには政治機關がなく、主として裁判所の地方區分で又選舉上の區分である。我國及び諸外國と著しく異なるのは別に教育上の區分として大學區(Académie)なるものがあることである。全國は十七の大學區から成る。従つて數ヶの縣を包含するわけである。これは一八〇八年ナポーレオン一世のフランス統整に基因するもので、その後原則上は變化を見ずに今日にいたつてゐる。フランスに於ける綜合大學とは之等一大學區内の全ての官立高等教育機關(單科大學、研究所、各種高等程度の學校)の總稱であつて、この點も著しく他國と趣を異にするわけである。各大學區には大學區總長があつて、初等、中等、高等教育の長官として教育に關する事項は勿論、人事行政管理その他一切の事項に關する權限を附與されてゐる。大學區總長の監督の下に各縣では縣知事が、市町村では各々市町村長が管

下の初等教育について監督する。

初等教育^リいふのは幼稚園(écoles maternelles)又は幼稚科 (classes enfantines) の小學校 (écoles primaires élémentaires) 及び高等小學校 (écoles primaires supérieures)、補習科 (cours complémentaires) を總稱するものだね。

幼稚園は二歳から六歳までの幼児を收容するもので、一八八一年に基礎を置かれ、今日にいたるまで根本的には變化してゐない。幼稚科^リいふのは人口二千以下の町村に於て幼稚園の代りに設けられたもので、小學校に附設されてゐる。

小學校は六歳から十三歳までの七ヶ年で、六一七歳の準備級、七一九歳の初學級、九一十一歳の中學級、十一一十三歳の高學級に區分されてゐる。この期間が義務教育である。高等小學校は一八三三年文部大臣ギゾーによつて設けられたもので、普通三ヶ年からなり初等教育の上に主として職業教育を施すものである。その實質は中等教育であるが、制度上は初等教育に含まれてゐる。補習學校^リいふのは一ヶ年若しくは二ヶ年の修業課程で小學校に附設された、簡易高等小學校^リいふた風のものである。

中等教育機關には國費によつて支持されたりセー（官立中等學校）^リ地方自治團體の維持にかかる公立中等學校たるコレーデュがある。^リに注意すべきは、フランスに於ける初等教育、中等教育の別は我國のもの^リ著しく趣き異にし、兩者の間には有機的な連絡關係はない。中等學校はいつれも準備級を附設して初等教育を施し、専ら大學への準備教育にあたる。公立小學校が無月謝であるに比して、コレーデュでは月謝を徵收する。初等教育機關が一般人民の子弟のためのものであるに比して、中學校は上流階級のための機關である。兩者は獨立した二つの教育系統に屬してゐるのである。一九一三年のペラルド文相の改革によりてこの區別は著しく緩和され、小學校からリセー又はコレーデュに連絡の道は拓けたが、大體に於ては今日でものの二つの教育系統が並存してゐるのである。

一、幼稚園及幼稚科

現在幼稚園 (Écoles Maternelles) ¹⁾ 曾ばれてゐるものは、紀元一八八一年までは保育所 (Salles d'asile) ²⁾ に附されてゐたもので、その起源からすれば相當に古い傳統を有つものである。即ち「保育所」の方は既に一八五〇年三月十日發布の法令によつて小學校に附設されるに至つてゐたのである。幼稚園及び幼兒級 (classes enfantines) ³⁾ になつたのは一八八一年七月二十八日の法令で、四年後れて一八八六年にはその教授要目が制定され、更に翌一八八七年には管理設備に關する法令が發せられ、これ等はその後一九〇五年、一九二一年、一九二八年等の法令又は訓令によつて改正されて、今日にいたつてゐる。以下現行法令によつてフランス幼稚園の保育内容、その管理設備等に就いて見て行かう。

(1) 制 度

一八八七年に制定され、一九二一年及び一九二八年の訓令で修正された現行法第一條によれば、「幼稚園とは最初の教育施設であつて、男女の幼兒が身體、知識及び道徳上の (Physique, intellectuel et moral) 発展を目的とする種々の配慮を受けべき所である」。

幼兒級といふのは人口二千人以下の町村に就て、獨立した幼稚園に代へるに、小學校に附屬した學級をもつてしたものである。

幼稚園の年限は満一歳から満六歳までである。これを年齢及び智能發達の程度に従つて上、下の二級に分つ。

入園に方つては、現在いかなる傳染性疾病にもかゝり居らざるに至り、及び種痘済みを證明する醫師の證明書を提出せねばならない。又病氣のため休園した時は、全治證明の醫師診斷書がなくては再登園が許されない。

一學級の幼兒限は二十五人以上、五十人を越ゆるを得ざるに至つてゐる。

開園及び閉園の時間は當該縣教育當局の規定に従ふゝあるが、大體に於て夏は午前七時——午後七時、冬は午前八時——午後六時までは園に留まるゝことが出来るやうになつてゐる。但し午前九時以前、及び午後四時以後は、幼稚園正規の課業はなく、唯監視の下に遊戯だけを行ふ。園児は九時——四時の間の休憩時間には歸宅するを許されず、保母の監督の下に園内に留まるべしと規定されてゐる。

木曜日は休園である。

公立幼稚園所在の各地には一つ乃至數ヶの保護者團體を設けるゝことになつてゐる。これは市町村長の管理下に置かれて、園員は視學によつて任命され、園の衛生設備に關する提言、建築物設備の維持、基本資金及び寄附金の用途の監視を行ふ等がその主な權限である。

(2) 保 媽

フランスの制度に於ては特に幼稚園のための保母養成機關はなく、小學校教員養成のための師範學校に於てこれを養成する點が、我國とは著しい相違がある。これは後にも述べる如くフランスの幼稚園は所謂「保育」といふよりも「教育」の場所であり、初等教育の一部分を構成するものといふ風に考へられてゐる一つの結果である。

師範學校は各縣に男女各一校づゝ設けられてゐて、入學資格は十六——十八歳に達した身體健康品性優良にして、縣の行政廳が施行する資格試験に合格した者たることを要する。高等小學普通科又は高等小學校内に設けられた師範豫備科が本來の豫備門교(?)なるべしとする。縣の行ふ資格試験に合格した者には下級免狀(Brevet élémentaire)が與へられ、一九二三年まではそのまゝで見習教員となることが出來たが現在では許されない。修學年限は三ヶ年で卒業試験に合格した者に上級免狀(Brevet Supérieur)が與へられ、數ヶ年實習した後正教員となることが出來るのである。從つて師範教育の程度は大

體に於て我國と同等であるが、保母のための教育は少しく高いと云ふことが出来る。各師範學校には附屬の幼稚園があつて實習することになつてゐる。卒業生に就いて見ても、成績優秀の者は都市の幼稚園に赴任し、稍く劣る者が地方の小學校に就任するのが普通である。

更に主任保母若しくは園長(*directrice d'école maternelle*)たるには、上級免狀を所有し、保育、育児、衛生その他幼稚園に於ける教育の事項に關して十分の知識を持つとの師範學校長の推薦を受け、幼稚園に於て少くも五年以上の實習を積んだ者たるを要する。

一九〇八年三月十六日の訓令に於ては、幼稚園主任保母に就いて次のやうに規定を補つてゐる。

「主任保母の價値は、その精通せる學識の量や實習の期間の長短等によつて定むべきではなく、幼兒の氣質や身體の狀態に關する適當な配慮や注意の程によつて決すべきものである。通風、食事、携帶品に關する注意、清潔整頓、衛生上の豫防等に對する細心の處置の類である。又、幼兒に對して種々のよき感化を與へ、仕事に對する興味を起させる力、規律、禮儀、柔順、善良な氣質、親切、注意力、器用、伶利等の徳を備えてゐることが必要である。」

(3) 保育内容

前記一九〇八年三月十六日の訓令は幼稚園の目的に關して、「幼稚園は普通の意味に於ける學校ではない。不健全な家に一人居らせる危險、街頭の危險等を避けしめる避難所である。従つて幼稚園は街路にて遊ぶ子供、終日家庭の外で働く母親をもつ子供、母親の注意の行き届かない子供を歡迎すべきである。幼稚園は、その名の示す如く、獻身的で聰明な母親の保育手段に出來るだけならつたものであることを要する。飽くまでも自然に、且つ日常的でなくてはならぬ。」と規定してゐるが、然しフランスの幼稚園は他の何れの國よりも「教育」的である。幼稚園で行ふ課目を見るに、右の法令第

三條に次の如く明示されてゐる。

一、體育——呼吸運動、競技、體操(號令及び音樂による)

二、情操教育——手工、圖畫

三、言語、朗讀練習、物語、小話

四、幼兒の生活に親しい物品及動植物の觀察

五、訓練——基本的な道徳、習慣の養成

六、初步の讀方、書方

即ち幼稚園は單に遊戯の場所ではなく、小學校同様、體育、訓育、知育の三つに分れてゐるのである。而してその教育のしかたに就いては「幼兒を疲勞せしめるこゝなく、強制するこゝなく、自然のうちに能力の增加發達を圖り、活動に対する興味を喚起し、知識に對する好奇心、良き感化に敏感なる精神狀態を得しめるべし」と云つてゐる。

次にこれ等教科課程に關する教授要目を譯出しておかう。

身體の發育は保育の根元である。故に身體鍛錬を要目の最初に位せしめたのである。先づ遊戯、體操、唱歌によつて四肢、音聲、感覺を鍛錬する。次に兒童は手工に依り趣味の發達、手先の器用さを習得する。

訓育は友達同志で遊び、友達の傍で食事し、課業を受けつゝ集團生活を經驗することによつて良心が自醒め、基礎的道徳心が發揚せられ、教訓によりて教へらるゝこゝなく、徐々に獨占、横暴、我利、無關心等の非を悟り、即ち父母、保姆を敬愛し、之に柔順となる。後、日數を経るに従ひ、寛大、溫和、精勵、友情、親切に目醒める。之等は讀方、書方に先立ち保育せられねばならぬ事である。但しそれは身體の發育が許す程度に於て爲さるべきである。

次に智育であるが、之は餘り重心を置かない、より簡単な形に縮少せらるべきである。唯機會ある毎に談話の主題を示すに止まる程度のものである。

手工は知的な科目と交互に(最大限度一週二時間)爲さるべきである。時間は二十分を超えてはならない。之等の時間と時間の間には常に唱歌、體操、行進、隊列運動を配置すべきである。

要目の詳細。

遊戲、唱歌

下級(二歳——五歳)

自由遊戯と指導遊戯

A。玩具を必要とする室內遊戯。——人形、飯事道具、立方體、煉瓦、木製動物、砂桶、漏斗、その他。

B。玩具を要せざる室內遊戯。——物真似遊。

C。玩具を要する運動遊戯(屋外遊戯場、雨天遊戯場)——バケツ、砂、一輪車、綱、毯、九柱戲。其他。

D。自由運動遊戯(屋外遊戯場、雨天遊戯場)

玩具なし——例。「猫が止まつた」。

歌附き——例。「猫と鼠」

振附き唱歌——例。アヴィニヨンの橋。種々の輪舞ロンド

保姆及び上級生より歌を聞く事。

甚だ簡単なる齊唱。

上級(五歳)——六歳)

自由遊戯及び指導遊戯。

A。玩具使用(室内遊戯——前記に同じ、その他——小骨遊び、剣球、骨牌、骨牌組合遊戯其の他)。

B。玩具無し遊戯——例。「鳩が飛んだ」

C。運動遊戯(屋内及び屋外遊戯場——獨樂、飛縄、輪廻し、球投げ、其他)。

D。運動遊戯(屋内、屋外、遊戯場——

玩具無し——ちんちんもがく、石蹴、等。

唱歌附き——例、らまるじよれーぬ。

振附き唱歌。

行進及び隊列運動(容易きダンスの足踏ステップにて)又は小道具を用ひての仕草、——例、ダルクローズの芝居)
唱歌の齊唱並びに二部合唱(聽取によつて得せるもの及び樂器(ヴィオロン其他)伴奏附)。

手 工

下級 ビーズ刺し。紙切細工、造花。模型製作、ほぞきもの、ミシン縫、編物。鎖縫(ラフィア)其の他。

上級 前と同じ——紙、キャンバス、ラフィア、の刺繡、簡単な家(ボール紙又は麥藁を用ひて)、編物(釣針又は叉針)各地工業特産物の利用法の横摸練習。

修 身

下級 無爲倦怠を避けしめ、善良な氣質、人に對する好意を促進せしめるに適當なる一般的方法——良習慣に従はせ、

親愛を保たせ、調和を尙ばしめる種々の注意。明かに學科を定められざる折に觸れての衛生の注意。

德育訓練——個人遊戯及び集團的遊戯（相互扶助の習慣）に依り、その目的を達す、例へば飯事遊び（人の世話及び家庭の世話）——針箱（針、絲、ボタン、ブラシ等）の仕末。

上級

前に同じ——相互間の世話をしつゝ（上級生の下級生に對する）日常の有能なる奉仕的業務（學校管理に關して）及び小さき責任を與へる。——下級生の保護監督。

教室庭園の植物の世話——若し校舎の附屬地に若干の動物を飼育し得る場合は、動物の世話（但し無害、比較的の臭氣少く、飼育を苦痛させざる動物類、例、龜、魚類、雉鳩、二十日鼠）

實物示教（觀察）

下級

出來得る限りの窓外の自由觀察（校庭、遊戯場、街路）。豐富な玩具及び日常品に依る自由經驗によつて、見る、触れる、嗅ぐ、真似る、尋ねる、答へる事を指導する。

保姆に依る指導觀察實習、目に觸れ、手に触れる日常事物、之等の物品の實際的利用法を兒童に示し、競爭的に名前、用途等を云はしめてその記憶を助ける。

移動性家畜の生活態度實演（木製動物、切抜繪等）

上級

自由又は指導觀察實習。前と同じく——感覺の洗練（色、影、形、大きさ、重量、音聲、香、味、其他）衣食住の物品に對

し課業(實物、圖解)經驗に依つて基礎的觀念を得さす。

人類の立場から見た效用のみに限られる野生、家畜動物の習性。——家畜の世話——各地方の觀賞用及び食用植物の名稱(庭園、街路の樹木、日常見慣れた草花)

季節の直接觀察(風景、業務、產物)。方位決定法(區に於ける教室及び學校の位置所在)——砂遊びに依る地理的觀念。

國語

下級 繪に依る發音練習及び記憶練習。

上級 前に同じ。

質問應答遊戲——物真似、口答に依る動詞活用の時の變化(昨日、今日、明日)その他、
保姆に依る幼兒讀物の朗讀及び幼兒と共に談話する事。

算術、圖畫、書方、讀方。

下級

計算——種々の同種類の物品の集合に依り一、三、四、五より十までの數を用ひて物品(小石袋、小棒、貝殻、其他)を數へる事。

圖畫——自由鉛筆畫——(影繪、立方體、煉瓦、小棒、板切、小石、數へ札、ボタン其他。その並列法)——石板上に
その組合せの見取り圖を寫す事。

讀方——なし。

上級

計算——物品の集合、二十、三十、四十、五十まで（各自の抱）——一分の一、三分の一、四分の一。

簡単なる暗算法、加法、減法、乗法、除法——より五十までの数の発表。

簡単なる筆算、圖解を伴ふもの——米、^{一トル}法、立、重量（秤、匁、半匁）を用ひての練習及び遊戲。

圖畫——進歩を示す爲に帳面上に一週一回鉛筆自由畫——臨畫——影繪、縁取、前の如き物品の並列及び集合に依る蕃

薇型の裝飾——之等の組合せの黒色又は色彩の上に（紙、石板）見取り圖を寫す。四角の紙に左右相稱の圖案（ミシン縫、兒童圖案に成る刺繡）——簡単な日常品の寫生、あらゆる粗描。

讀方——上級になつて始めて教科書により初步の讀方を教へ、讀本の文を速かに寫記させる。

以上は條文をそのまま譯出したものであるが、これによつて見ても、フランスの幼稚園に於ける保育の内容が、特に

「上級」に於て、著しく小學校の「教育」に近いことが知られる。

お伽噲の王さま

百周年をたゞへる式

お伽噲の王さまアンデルセンが「世に出で百周年」を記念する催しのうち日本童話協會の『童話研究』記念特輯號の贈呈式は八月十三日午後五時半から神田一ツ橋學士會館で舉行された。主賓デンマーク代理公使ヘルゲル氏、在日デンマーク人會主事ヘグーセン氏、日本童話協會理事長蘆谷蘆村氏、日本デンマーク協會佐野伯、外務省柳澤健氏、文部省社會教育官森明麿氏ら多數の名士が出席、植村P.C.L.社長令嬢百合子（九）さんから見事な出来樂えをみせた特輯號をヘルゲル代理公使に贈つて式を了り、ついで別室の懇親會にいり文豪アンデルセンを中心に戯憶の花を咲かせた。なほこの特輯號はデンマーク王室に獻納されるのをはじめ同國の圖書館、學校、各地のデンマーク人會等に寄贈するものである。——讀賣新聞より——

兒童心理學文獻抄 +

牛 島 義 久

幼兒の辨別力と記憶

色の區別、形の差異、重さの相異等を感じ別ける事は外界の世界を正しく知覺するのに必要な條件である。乳兒等に於ては之等の區別が到底精密に出来ない爲に彼等の感ずる世界といふものはピントの合はない印畫紙の様に大體の形は判じられても細部は茫漠としてゐる。段々成長するにつれて之等の細部が明瞭になり特殊の生活條件の下では一層之が發達して來る。例へば音樂家は普通の人では聞き分けられない音の高さの相違を敏感に感じ、調子の高低のみならず強さに對しても非常に感が鋭くなつてゐる。或は細字書きの名人は常人の肉眼では區別出來ない様な細かな形の相違を書き分け世人を驚嘆させて居る。斯る特殊な場

合は別としても感覚の辨別力が發達する事は子供が一人前になる條件であり、而も此機能は他の複雑な精神機能に較べるゝ早く成熟する作用である。智能ならば十五、六歳にならないゝ一人前に達しないが音の辨別ゝか形の區別等は十歳位になるゝ大人ゝ同じ位に辨別する事が出来る様になる。

今幼稚園位の幼兒では如何なる状態であらうか、之に就ては最近東京女高師附屬幼稚園等に於て筆者等の實驗した未發表の研究がある故に此の一部を紹介しやう。

此場合は大きさの比較をさせたのであつて一邊それぐ六輝、六・四輝、六・八輝、七・三輝の四枚の正方々形の板を一列に並べて子供に示し、最も大きいものから順々に指示さ

せた。此の板の位置は毎回異なつてゐる大きさの順に並んでゐる譯ではない。此の位の大きさの差異ならば吾々大人なら容易に區別の出来るものであるが、彼等幼児に之つてはしかく容易ではない。即ち一人に三回宛斯る判別をさせたが三回共完全に正しかつたのは上の表の如く四歳後期邊ではごく僅かで一割の者も出來てゐない。然し年齢のすゝむに應じて増加し五歳後半に於ては三分の二位の者が出來てゐる。尙三回の中二回丈正しかつた者の數及び一回丈正しかつたものゝ數を附記したがそれぞれ年齢によつて成功する者が増加し、五歳後半位になる三回の中一回位なら殆んど誰でも正しく區別出来る様になつてゐる。

次に子供が區別を誤まる過程を見るに右或は左の端から

合 格 者 の %

年 齡	人數	三回合格	二回合格	一回合格
4:6—4:11	40	7.5%	35.0%	77.5%
5:0—5:5	51	31.6	60.8	88.2
5:6—5:11	65	61.5	90.7	96.9
6:0—6:5	20	65.0	85.0	100.0

順々に大きさにお構ひなしに指して行く者があるが之は最も甚しい誤まりである。次には一番大きいもの丈は選びせても他は誤まる者、或は間違つた場合に間直すと正しい答をしたり、第一回目は正しくても第二回、第三回目が間違ふ事がある。之で見るに彼等が視覺的に大きさの區別が出来ない云ふより、かう云ふ様な辨別する仕事が子供には充分出来ない云ふ風に考へられる。此の仕事の意味を理解して、大きいものを拾ひ出したり或は注意を長く持續させて終迄此の仕事を続ける事が彼ら幼児には困難であり面倒くさい事なのである。ビネーの智能検査にも重さの辨別の問題があり、五歳の所では三瓦ミ十瓦の二つの重さ(形は同じ)を區別させて居るが此の場合答が正しいかさうかといふ事よりも區別するといふ仕事が出来るかさうかといふ事が重要になつてゐる。即ち一つ／＼重しを手に之つて重い方を差出さなければならぬが幼少の子供だといきなり一方の方を取上げて渡したり一方の手に兩方共同時に擱んだりして、重さを較べるといふ事は單なる感覺の問のが多い。故に斯る比較の問題といふ事は單なる感覺の問

題でなく一層複雑な精神過程である。従つて斯る仕事を練習させる事は大いに智能の啓發に役立つ。モンテツソリーが幼稚園児教育の方法として感覺の辨別をとり、ビネーが低能児教育の方法として辨别力並びに記憶力の練習を重んじたのは斯る理由からである。

次に子供は記憶力が非常に優れてゐる事によつて大人を驚異させてゐる。樺崎氏は(兒童青年精神力學的研究)小學校三年生でも優秀なるものは既に中學校一年生位の記憶力を有してゐる事を述べられてゐる。併し元より之にも發達がある。即ち普通人の直接記憶の範圍は七個位云はれてゐる。直接記憶とは奥へられた印象の中から直接につかみ得る——記憶し得る——範圍を指すのであつて例へば數字を九・七・二・八・四・七・五等の順々に聞かされる場合七個の數字位迄は普通間違ひなく復唱する事が出来る。併し子供の場合だゝ年齢によつて異なり四歳ならば三個の數字、五歳は四個、八歳で五個、十二歳で六個、十四歳で七個の數字が正しく反唱出来る状態である。(ビネー・シモン智能検査八度による)。

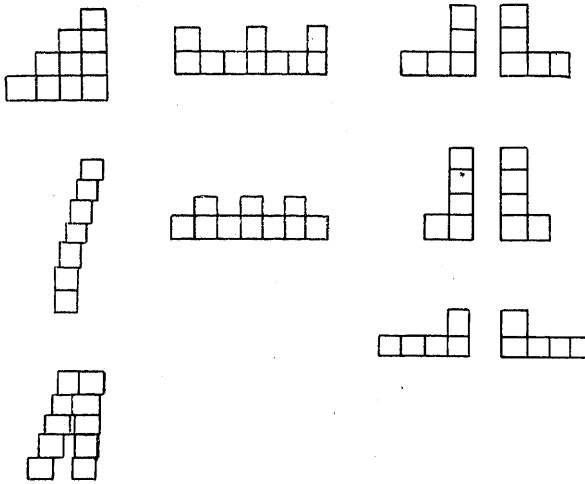
以上によつて幼稚園児の直接記憶の範圍は四個位である事が判る。故に餘りに多くの事を一時に教へても子供はそれを捉へ得る能力がない譯である。

之と同様な問題を前述の女高師幼稚園児に就て實驗した結果をのべやう。今度は十個の立方體積木を用意し、子供が目を閉ぢてゐる間に圖の様な門の形や塀の形や階段の

ピューラー(幼兒検査、前掲)は此子供の記憶を検査するのにもつゞ興味のある方法を講じてゐる。單なる數字を覚える事は子供には興味のない事であるので、澤山の小抽斗のある算笥をこしらへた。即ち五個宛三列の抽斗があり、此の抽斗の面にはそれゝ異つた色が塗つてある。今此の中の一つに鞠、他に人形、瓶、魚の玩具等を入れ、その位置を記憶させ、二十分経つて後再び之等の場所をあてさせる。斯る遣方だき子供は喜んで検査に應じてくれる。其標準は三歳児検査では三つの品物の中二つが見出されれば合格となつて居り、四歳児検査에서는四つの品物の中三つが見出されれば合格、五歳児検査では五つの中四つが見出されれば合格となつてゐる。

形を作つておきそれを十秒間子供に見せる。次に之を取り
毀し前と同じ形を子供に作らせた。即ち子供は始めに見せ
られた形を記憶してそれと同じ物を再構成しなければなら

手本 誤り



合 格 者 の %

	人數	門ノ形	屏	階段
4:6—4:11	40	50.2%	50.0%	37.5%
5:0—5:5	51	68.6	56.8	45.1
5:6—5:11	61	80.3	70.5	73.8
6:0—6:5	20	80	85.0	65.0

ぬ譯である。斯る具體的な形の記憶は勿論手本によつて難
易が生ずるから一々の形に就てのべて見やう。

子供に手本を見せて「同じ形が作れますか」と聞くと
大概の子供は「ウン」と點頭いて自ら手本を毀して作り始め
る。併しその始めの自信あり氣の出だしにも似す此の簡単
な形が中々作れない。門の場合だま圖の如く四つ縦に積ん
で横に一つ置いたり、横に置くのを三個にしてしましてゐ
る者が澤山居る。今一分間以内
で正しく手本と同じ形が作れた
ものゝ數を見るに上表の如く四
歳後半では漸く半數で六歳前半
位になる八割の者が成功して
ゐる。屏の形の場合も同様で上
にのせる積木の數を間違へたり
位位置を間違へる者が多い。四歳
後半では半數、六歳前半で始め
て八割位成功する。

次の階段の形は一層六つかし

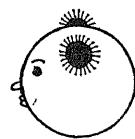
い。吾々大人にこつては斯る簡単な形に於てはいづれも同様で門、堀、階段の間の難易を決定する事は却つて困難であるが、子供にこつてはさうでなく、門より階段の方がずつこ六つかしくなるのである。約半歳分だけ六つかしい。

即ち四歳後半では三十七%位しか成功せず五歳前半ではじめて四十五%位成功する。尙子供の作る間違つた階段の形を見えてゐるこ子供の記憶の状態がよく分る。割合に多く見られる此形は圖の如くピサの斜塔の様に一直線に高く積んだり、二個宛並べて積んで行くものである。前者は階段は

記憶こ大人の記憶こには性質の相違がある事が判る。大人の様な正確な記憶をなす迄には子供は色々の段階を経ねばならないのである。

尚印象を把持してゐる間に記憶が歪曲されるこいふ現象があるが、例へば鈍角の形は記憶してゐる中に一層鋭角になつたり、鋭角の形を再生する場合には一層鋭角が鋭さくなる等刺戟の有する性質が一層誇張されて記憶される。斯る現象は大人にも無論見られるが子供には一層甚しい譯である。

その他の記憶の仕方に於ても大人こ子供こは非常に異なる。子供は機械的記憶に優れ、大人は論理的記憶に優れる。子供は論理的記憶によるこ短時間に澤山のものを記憶する事が出来るが、機械的記憶による時は一つの事を覚えるのに何回も繰返す必要がある。併し一度記憶に定著するこ中々消失せない。子供が始めて言葉を覺えるのは主としてかういふプロセスをこるものである。此の様に記憶状態にも色々の段階が見られるが、子供の積木の數をわざ／＼數へたりしてゐる。



或る日のこと

赤づきん

「東郷大將は偉い僕大將になるんだ」肩革をつけ剣を着けて力み返つて居る甲太郎さん、先生が嬉しさうにそれを眺めて居る、側で次郎君、「僕は大臣になるんだ」、先生が何大臣と聞ふと、次郎君一等偉い大臣になるよとこれまたそり返つて見せる。

先生考へた、あゝ子供の様に今直ぐなりたいものになれたら、さん々嬉しいだらうと、私だつたら文部大臣様になつて思ふやうに幼稚園の制度を作つて見たい、先づ次のやうに

満三歳から満四歳を一つに考へて家庭寮へ

これは義務教育として、子供時代を十分に遊ばせながら基礎教育がして見たい。野を走らせ山を昇らす間に人間教育は充分に出来る學習的取り扱ひも母の懷で楽しく遊びなが

ら出来る、七、八迄は母の手で育てたい。ふうそばで同僚の聲、何を考へていらつしやるの恩給のこと、まあさうぢやないのよ、一寸今大臣様になつたとしたらばと思つたの、まあさう貴女が大臣様になつたら一番に願ひ出ることがあるわ、何に、年功加俸、それは考へてませんの、私だつたら幼稚園は今の處大金持が奉仕的に出資して幼稚園をござしきし建てゝ國家のお助をすべきだと思ひますわ、そして公立幼稚園は、一部は義務教育へ一部は社會事業へ乗り出して幼稚園に入れられない親達の足手まといをござしきし入園させるので、そしたら、道ばたで土まみれになつて鼻汁たらした子供は一人も見ることが出来なくなりほんとに結構な事ですね。貴女の考への方がよろしいわ、富豪は富豪で自足自給ですね、そして大臣がブルジョアとして私立を認可するのですね、分りました。國家はつまり自足自立

給の出来ない無産者を助けるのですね、まあ早く云へばさうですがそれは門戸開放です。決して表面そんなにはつきりこないのです。

又お話ですか、子供さん達は、あそこでお友達同志で仲よく保育されて居ますよ、こうやつて母の眼がこゝにあると思つたら安心して居ますよ。この母に入る事が出来たらなんとか云つて来るでせう。それと、今年の夏の、倉橋先生の御講習中力説された藝術教育、これは子供にもでせうが私はつづく保母私達にこの藝術教育がこの眞の心持が必要であることを思ひました、昔の先生方に御會してみると、つたりとした處があつてお話が實に趣味性に富んで無邪氣ですね。私達も來たら眼をきよろつかせて死神にでもつかれて居るやうですね、これも時勢でせう、経費節減で幼稚園費はみじめな程へらされて年齢制限は出來、後からおつかれられて居るやうな形ですもの。恩給を計算し、生活不安を話し合ふのでは藝術心もあつたものではありませんよ。

あゝ話が又私事になりましたね、然しきまでも幼兒教

育は藝術教育であり眞祕教育であり心と心の暗示教育であるのですね、私達の心の不安定は即ち子供に反影しますね。安らかなこの世の天國に嵐は吹かぬものと思つて居ましたが、時の流れは恐ろしいものですね、然しつまでもそんなことを云つて居ないで互に天職と思つてその使命に有難く雄々しく進んで懸命な努力をして認めて頂きませう。倉橋先生の今年の新語、「しみじみとした明朗さ」これをせめてもこの幼兒時代にこの世の樂園花園で小鳥のやうしみじみとした明朗さで過させませう、それは私達までも救はれる一步です。あゝ甲太郎の大將君と次郎の大臣君がこちらへやつて来ます、あのはち切れさうな嬉しさを御覽下さい。こんなに話した私達は子供に對して相濟まぬ事ですね。「一人ともごめんなさいよ先生が悪いんだ」。
「うゝん、先生は悪くない僕等のよい先生だ」。
うしろで太陽はニコニコ悠々とした静けさ烈々としたしかも細い愛の手を擴げて居る限りないあの温い光の手。
でも私達は幸福だ。

今年の講習會

—主催 日本幼稚園協會—

夏期保育講習會は、七月二十一日から二十六日迄の六日

記念講演(二十一日前)

(講演順)

間、本校の講堂で開かれた。大正十五年四月に幼稚園令が公布されてから今年でもう十年になるといふ、それで今年はこの講習會の第一日を幼稚園令公布十周年記念講演の日にあてられることになつたのである。

この日天氣快晴、今日土用入りの暑さは格別ながら、この季節には暑きこそよけれ。集まれる會員六百餘人、特に講演者諸氏は定刻前すでに來會されて、この日特にお招きした吉岡前會長や倉橋主幹、校長室で談を交はされてゐるのは、公布當時の思ひ出でもあつたらうか、折々洩るゝ笑聲に和やかさの満ちみちてゐる有様が、廊下を歩きながらも心懶しく偲ばれるのであつた。

記念講演は下村會長の挨拶に始つた。この會長は常々幼稚園のこゝに深い關心を持ち、わが國幼稚園界の意氣をそいへて見るのであつた。

八一

大勢については廣い知識を持つて居られる。その點日頃我我保母が何か宗教へられてゐる共に力づよくお縋りしてゐる方で、名實共に得がたき會長であることを喜ばずには居られない。

講演の始めはまづ森岡常藏氏から。今は文理科大學長であるから直接幼稚園の事に當られる折も少ないのであらうが、事一たび保育に觸れる時は、今なほいきいきした抱負を常に心に深く持つて居られるのである。わが國の幼稚園が、まだほんとうに微々たる存在として世の注目を惹かなかつた明治三十年代に、すでに特にこの價値を認めて一つの意見を持つて居られたと聞く。人々の未だ顧みようともしなかつたこれに關する諸記録なども、手許に書き寫して居られて、それが今尊い文獻になつたなぎの事から思つて見ても、直接に事に當られたといふよりも、三十餘年も前から促し促し先鞭をつけて來られた恩人であると思はずに居られない。全國から集つた多勢の會員を前にして今日この盛會を見られるここは、氏も亦その功の空しからざりしを歎ばれたこゝゝ思ふ。

ついで關屋龍吉氏。當時普通學務局長として運動員の激しき挑戦に矢面に立たれた最も直接の人である。別項記事にもある通り、幼稚園令が如何にして公布されるに至つたかの経過を今更のやうにはつきりと知つたのである。岡田文部大臣が幼兒教育の必要も尊さも知り過ぎる程諒解されてゐても、大臣としての急務はそればかりではない、されば猛烈な運動員、容易に動かし難き大臣との間に挟まれた關屋氏の、いさゝか迷惑を感じ正直に云はれてゐるのも無理もないこと。さればこそ氏の大きな力の與つて成つた事を感謝せずには居られない。運動員の撓まさる懇願もさることながら、關屋さんを動かした因はもう一つあつたのではないか、といふのは丁度その頃からお子さんが幼稚園に來られるようになつた。布袋さんの幼年時代を思はせるような坊ちゃんや、まことに淡淡として而も世を樂しむと云つたお嬢さんである。運動員に對しては餘儀なき強面も知らず／＼意外なところで切り崩しが行はれたのではなかつたか、なぞゝも思はれて微笑ましくもこの講演を伺つたこゝである。

次は當時省外にあつて文部省を憲まされた側の山樹儀重氏の講演。今日の日曜を誠に有意義に過ごし得て嬉しいござつ述べられて、氏の幼稚園に對する強い熱き深い愛を示されたここは會員一同の喜びであつた。殊に歐洲を旅されて親しくフレーベルの生家や墓を詣でられたご聞く、かりそめの訪れで出来るこではない、朗々と響く氏の言葉

は、そのまゝ鼓舞の聲として力づよくわれくの胸を打つものがあり、わが國幼稚園界にこの人を得た幸福を今更のように思はずには居られなかつた。

さて豫定の時はすでに過ぎたのであつたが、今日來賓として神戸よりはるべく來會された望月クニ氏は一同の懇望により建議者を代表して登壇された。倦まず屈せず年毎にこの運動の手を強めて行かれた女史は、われ等の永久に感謝を捧ぐる中の一人であらう。壇上から心をこめて講演者に床しく挨拶された女史に一同は盛んな拍手を送つたのであつた。

この十周年記念について溢るゝ思ひを持つて居られる倉橋主幹のお話が伺ひたかつた、がこの時すでに遠く時を過

ぎてゐた事は返す
ぐも惜しいこ
であつた。かくて
今日の記念講演は
大盛會裡に終つた
のである。

なほこの新令公
布について關係の
濃かつた清水福市
氏を始め膳真規子
女史なき講演者を
中心に相集つてご
く輕い晝餐を共に
したのであるが、

その間にも當時の
追憶を新たにして
保育の物語りは盡
きようともせず興



深いものであつた。

當時大いに活躍され、今日なほ九州地方の保育界に重きをされる天門成章氏始め大分縣保育界その他より祝電あり、この日遙なる彼方にての喜びを分たれたのである。

保育講習(二十二日より)

第一部

一 幼児の性情の涵養(一時間)

東京女子高等師範學校教授
附 屬 幼稚園主事 倉 橋 憲 三君

一 幼稚園に於ける手技製作の實習(六時間)

東京女子高等師範學校
保 姻 兼 教 論 及 川 ふみ君

一 幼児に聽かせるお話の實際(一時間)

早 厳 幼 稚 園 長 久 留 島 武 彦 君
第二部 (午後一時より四時まで四日間)

一 幼稚園に適切なる唱歌遊戯の實習(十二時間)

東京女子高等師範學校助教授 戸 倉 ハル君

時間表

	第一部			第二部		
	8	12	12	4	1	4
二十一日	記念講演					
二十二日	倉橋倉橋及川及川				戸倉	
二十三日	倉橋倉橋久留島久留島				戸倉	
二十四日	倉橋倉橋及川及川				戸倉	
二十五日	倉橋倉橋及川及川				戸倉	
二十六日	倉橋倉橋倉橋				戸倉	

から「善良ナル性情ノ涵養」云々についていろいろお話を伺つたことを思ひ出す。あのバラック建ての、それでもまだ新らしかつた頃の遊戯室が會場であつたと思ふ、會員は廊下にも椅子を並べてゐた。盛んなものだと思つたが、たかぐ二百人位でもあつたらうか。それ以來十分迄はゆかずとも、さうやら踏みあやまるこゝもなく幼児の心に觸れて來られたような氣もある。さて今年はさういふお話を演じたかったが、私達は倉橋講師幼稚園令公布その年の講習であつたと思ふ、私達は倉橋講師幼稚園令公布その年の講習であつたと思ふ、私達は倉橋講師

氣もつかず淡く耳に聞き流してゐて、わかつてゐたつもりの幼稚園令の第一條を今日こそ確りと胸に刻み得たのである。「習慣ノ養成」を對比されたことで一層明瞭となり、彼は是より、かくも生活上の差異あることをしみじみ教へられたのである。教へられるといふより、この講師の話は、語るものと聞くものとに濃淡の差はあつても、師と共に考へながら討究しながら聞かずには居られない深みを持つてゐる。この師の心に一たび觸れた何物も決しておろそかには扱つて居られない。常に慎重に慎重を重ねて解かれたものを以て私達を導いて居られるので、それは逆り出る泉水ではなく、渾々と地の底から湧き出る岩清水にも似ていよいよ清らかに且つ深く考へさせられるのであつた。あいにく二十四日の午後からごく軽い暑さ當りにからられて、それはすぐに快くなられたが、一同の懇望によつて休んで頂く事になつたのは、いふ迄もなくこの講師の本意ではなかつた、が幼兒教育の問題は多々として盡きない。この講師は健康で長く我々を導いて行かれる責めがあるようにも思はれる。休んでいただいたおかげで云へばちとおかしい

が、本校教授菅原教造氏からこゝもの繪についてお話を伺ふことが出來た。美學の權威者で、わが國服飾界流行の先驅をされてゐる先生は、私達には勿體ないような話を下さつた。安きになれてしばし安住の地に居た感もあり、この心もごなさに求めてゐたものにつては思ひがけない收穫であつたことを喜んだ。

今年は久留島先生からお話を伺ふことが出來た。先生は全國から招かれて、年の中大方は旅にお出でさきく、折よくこの講習には來ていたゞくことが出來たわけである。講演を聞いてゐる中に膝のまはりに集つて來る組の子供達の顔が浮ひ出て来て、何なく上手な話し手になれそうな自信が出て來たように思はれた。

實際保育家が最も渴望してゐる手技製作は、及川講師が自ら作られたもので導かれた。講師は自ら安んずることなく、次々と工夫されてゆく、悠々迫らず、而も新らし味豊かな新作品が出来上つて行くには常々勵まされてゐる。

遊戯は相變らず戸倉ハル師。この相變らずが意味深長で、講演内容や、手技遊戯の材料は次々と新らしく知り給へ。講演内容や、手技遊戯の材料は次々と新らしく

變つて行つても、講師は相變らずの人から講習を受けたい。といふのは我々ばかりでなく會員の等しく望むところである。同じ顔を並べては講師側は遠慮されたが、何のなんの、相變らずの名コンビは望むところであつた。

はからずも今年は、談話、繪、手技の實際方面の知識を豊富に收得したところの講習であつた。
二十六日正午めでたく閉會。

今年は記念講演と、保育講習とで、さうと話が決つてから隨

分忙しかつた。それにかねぐる計画はしてゐたが、本會發行の「系統的保育案の實際」も間に合せようといふ仕事も加はり鐵道の五割引も計畫を始めた。これが容易なことではなく、その煩雑な事務はとうていこゝに書きあらはし得ない。これを利用された會員へは大そうな奉仕になつたけれど、そうなる迄の折衝はなみくの苦勞ではなかつた。何しろその事を考へると及川さんが神經衰弱になつて寝られる夜があつたとか無かつたとかいふ位、そりや面白い、及川さんの神經衰弱は天下一品の振り出し物だと、倉橋主幹を始め一同が面白がつたけれどちきに解決がついてしまつたらしい。(新庄記)

お詫びお禮

倉 橋 惣 三

この夏の講習會中、暑さのため病氣いたし、突然講義を休み、まことに御迷惑をかけました。幸、菅原教授を煩はし、その缺を補つて頂くことが出来ましたが、私としても殘念のことであり、遠く御來會下さつた多數の會員諸君に對し、何ごも申譯ない次第でありました。

尙ほ、其の節、またその後、諸方から御懇意なお見舞ひを受け、一層恐縮の至りです。病氣も一時のことでありましたし、直に恢復いたし、平常の健康で居ります。どうぞ御安心を願ひます。
よき秋を、いよいよ斯の道のために精勵いたしませう。

講習出席の所感

大塚喜一

本誌の編輯御擔當の先生から、講習の感想を書く様に、會場で原稿用紙を手渡されたので、求めらるゝまゝに書くこにする。斯かる原稿の要求は會場にて何人かの方にせられてゐた様であり從て九月號の誌面には各人各様

の所感所見等が百花齊放の觀を呈する事と思ふので、小生はなるべく一般的な事よりも自分の特に感じた點及重要な所感所見等に就き、腹藏なく述べさせて頂く事にする。

時日の順序上、講習の第一日の事から述べやう。この第一日が幼稚園令公布十周年記念講演のために提供せられ、その午前の四時間が意義深く思ひ出多き先覺功勞者諸賢の御講話を拜聽する事により有益多趣味に善用せられた事は、會員の一人として主催者側へ厚く感謝の意を表する次第である。その内容に就ての御所感等は多年斯道に御精勵

の先輩諸賢より拜承し得る事と思ふので、小生は只自分の是非云ひたかつた事だけをこの機會に述べやう。

それは山樹氏から「男が保母をしてよいものだらうが云々」の話の出た事である。自分はそうした話の出る度毎に、我々の幼稚園創始の恩人フレーベル先生が男であつた事を、男女共に苟くも幼稚園に關係ある者はよく考へて見るべきだと思ふ。講習會期中に御目にかゝつた小生の舊知の或る保姆さんが小生に「あの時、僕がやりました」と云はれたのではないか、私はあそこで大塚さんが一言訂正されやうとしたのではないか、少くともさうしたかつたであらう云々」を眞面目に云はれたが、小生は決してそんな私事を云はむと欲する者ではない。只フレーベル先生が男であつた事は、たゞひ男であつてもその性情資質が幼

児童生活を俱にするに適してゐるならば幼稚園の實際に何等かの形態に於て參與し得る事を示してゐるのであるまいか。フレーベル先生やペスタロッチー先生の如き世にも稀なる天才是實にあんなに子供と俱に遊び、^{ヨーヨー}の出来た點に於ても測り知れざる深さを感じする譯であるが、現在及び將來の幼児教育界に於て斯かる偉人の精神を體現せむとする抱負と天分を有する者が、男性の中からも出でよい筈だし、幾分かでもそうした方向に伸び得る見込のある人を見出してその性情を涵養する事にお互に努力してこそ、先人の恩に報ゆる事にもならぬと思ふ。小生の今日までの幼児達との親交によつても明確に切實に感知された事は、幼児殊に男児は男の先生をその遊び相手に求めてゐる生活の實相であつて、成城幼稚園に於て幼児の一組十三名を受持たせて頂いた時特に切實にこの感を深うしたのであつた。これは「幼児の世界」の公事として「子供からの要求」をして、こゝに聲を大にして天下に發表するの要がある。

尙山樹氏がペスタロッチー自筆の貴重なる資料を手に

かる永遠の生命ある古典の生ける精神が斯道先覺諸賢により脈々として我等の内心に感應し來り、先人の教育精神が幾分にても我等に喚起育成せられむ事を切望する次第である。

×

さて、こゝに筆を新にして、今回の講習に於て最も小生の期待せし「幼児の性情の涵養」の御講話に就て述べやう。

倉橋先生が御病氣のため十一時間の豫定の御講義の中後半の五時間を拜聽出來なかつた事は會員の誰しもが殘念かつて居られた事と思ふが、自分はこゝで、六時間承り得たこゝによつても大いに啓發される所があり、それだけでも東京まで來た價値は充分あつた事を感謝すると共に、後を承り得なかつた事を、お話を内容から特に惜しまれる所以を述べて、聽講者全員の心を一にして是非この續講をお願せねばならぬのである。(申上げる迄もなく講師始め主催者側に於てそのおつもりに違ひないことを信ずる者ではあるが、尚念の爲め)

そのお話の内容とは云々を云ふのか、幸この稿は今回の入れられたる事實談は小生の特に感興を覚えし所、何卒斯

御講話の全文の速記が載せられた後に附加して頂ける筈で、承つたので、あの御話を聽かれた方々話してゐるつもりで直にその内容に立入つて書いて行くことにする。

七月二十四日の『涵養(こいふ)』のお話を進めて來られて「養ふといふ以上、元來子供が持つてゐる善良なる性情を養ひ育てるといふ事にさうしてもなる」いろいろ話して來られて複雑になつて來た話の筋をわかり易くする爲に「先に結論を申しませう」とて草花等を育てる比喩にて説明せられ

(1) 水をやる場合

(2) こやしをやる場合

三分けて、私は先づ幼稚園に於て(1)の態度の大切な事を説く。先づその方を大いに力説するが決してこれだけでない(2)の方もある事を含んでゐてほしい。云々

こ云はれたので、(2)の方を大いに期待してゐたのである。今迄先生の御話や書物等によつて我々が學び得たのは主に自由・自然・淡純といふ方面が鮮明に印象せられ幼兒教育の特色として先生も多年力説し來られたのであつた。

そこを、學ぶものゝ考への足りなさから或は先生の御説が(1)に偏してゐる様に誤解する人もあるのであらうか、先生は(2)の方も忘れてならない事を特に心をこめて我々に教へて下さる御心ちが、誘導保育案のお話や今回お話の終りの方にもうかゞるゝ思ふのである。(2)の大切なる事もさよりであるが、幼兒教育の特質上、教育者の過ぎたるむしろ見當違ひの熱心がこの特質を破る弊が多いありこの間の調和如何といふ最も苦心を要する所を甚だ軽視してやたらに子供に迷惑な誤親切をする人が多い一般の形勢に鑑みられ、先生も先づ(1)を強調する事を餘義なくせられたのであらう。多年、斯界の啓蒙に盡力し來られたる先生には、大切な(2)に入るまでに必要な基本教育の特質に合する保育態度が保姆その人に體得され、來るこゝの遅々たる事を實にもさかしく思つてゐられる事ゝ恐れながら拜察する者である。今回のお話の中にも「幼兒教育に關係する人は幼兒の自然を充分に尊重してゐられるに相違ない」と思ふから、その上で倫理主義的の善良なる性情の事をさう考へるかゞ問題となる」。二段のお話の結びに

ハッキリ云はれたのを聞いて、この尊重のまだく足りない自分を顧みて實に冷汗を流す思ひがしたのである。

數年前にやはり「幼児の性情の涵養」といふ題でいとも意味潤澤なるお話を承つた際に

「幼児が本來有する基本的性情としてのほがらかさ、すなほさ、したしみ、うれしみが自然に潤澤に涵養されて居ればこそ、人的物的環境による善美聖への指向が幼児のそのすなほな淡純な心情に浸潤して行くのである、云々」

ご、當時の前段ご後段ごのお話のつながりをつけられた大の主旨を記憶してゐるが、こゝが丁度今回のお話の(1)より(2)への關係に相應して來るのであると思はれる。

再び比喩的に云へば、水をやつて自然の健全なる生長力を充分に養ふておけばそこへやつた肥料がその生長力によつてその花の眞の美しさを輝かしむる様になつて來るのであらう。だから、(1)をよく理解してからでなければ(2)へ入れないのであつて、その(2)へ話が移らふとする境目の邊まで行つたところで今回の講話が中斷されたのである

から、まことに惜みても餘りある事と思ふのである。今回承り得た範圍内の終りの方で

「私達が如何なる善良なる環境により幼児を保育せんとするにせよ、その時の目標はそれによつて幼児の性情に浸み込ませる爲である。例へば善良性の織り込まれてゐるお話をする際にも、たゞ感服させるだけでなく、幼児の心に浸み込み得る様に話の材料及態度を工夫研究する必要がある。」

云はれた、その詳細な具體的な實相を聽きたかつたのである。善良性の含まれてゐる環境を以て涵養するといふ(2)の方が極めて大切な事でありながら、その方法態度に幼児に適合し難き弊に實際に於て知らず識らずの中につい陥り易きものがあり、甚しきに至つてはそうする事を自己の天職の尊嚴に於て墨守し益々之に努めてゐる人さへあるが爲に、幼稚園らしくない光景を現出してゐながらその不自然に心づかざるのみか、斯くては彼の目的をせる善良なる性情の涵養さへもその眞實の效果を顯はし得ざること、實に遺憾なる見當違ひの努力といふべきである。殊に宗教

教育を以てその第一義の使命をさせる各幼稚園に於てはこの點に深く思を致すべき微妙にして切實なる實際問題が伏在すると思ふのである。今はこの稿の性質上それに就ての卑見を述ぶる暇はないが、さにかく宗教道德藝術等の價値への指向に於て我等の態度を誤ながらしめ、單なる教育者本位の熱心以上に、幼兒の神性に忠なる僕として先づ己を卑うして幼兒と俱に學ばむとする態度に立歸り、此間の關係を新しく見直して行かねばならぬであらう。斯く考へ來つた時、今回の方のお話を熱心なる保母諸彦に是非聞いて欲しかつた思ひが愈々切ならざるを得ない。誰もあれで済んだことは(勿論内容に於て)思つてゐなかつたであらうが、あの後のお話の聽けなかつた事を、以上述べ來つた様な内容からの必然性に於て鮮明に認識し切實に惜み求めてゐる方が何人あつたであらうか。もとより今回の缺講は全く止むを得ざる支障によるものであるから主催者側の御心配と臨機應變の處置とに就ては充分の謝意を表するものであり、人的關係に於ては一言の不足を云ふ氣持も無いのである。

只お話の内容からあの續きを聽けなかつた事を惜まるのは、幼兒教育の眞理性より發する本意であり、その當然の要請は、小生一人の提言を超絶せる公道である事を諸賢と俱に明確に認識せねばならぬと惟ふのである。

受講印象新なる間にと思ひ、七月二十八日歸洛のツバメ號車中より案を練り、漸くこゝまで書きまごめた次第である。倉橋先生のお話の中には、尙他にも深き印象を残した點が澤山にあつた。殊に、「本當の生いぼりとは、こういふのを二十年倉の中に入れて置いたら一流の葡萄酒になるものだ」と云はれた點等は、如何に眞の教育には時が大切であるか、自然の生長に信頼して任せつゝ教育者としての著實なる心づかひを長き年月に亘つて不急不息に續けてゐることが必要であるか等々筆に表し難き感慨に思はず目頭が熱くなつた。又、習慣と性情とを比較して、性情の涵養は自分といふ事を離れては出來ぬと云はれた點、涵養は内からうるほふす、意を表す語であるから養成といふ語の表し難きしつゝりと浸み込んで行く意を含んでゐる點等は、保育の特色の微妙さを感じると共に、兼てより『保母養成』

なる語に飽き足りなく思つてゐた小生には、『保育精神涵養の真義』なる語を用ひて漸く落つき得た心地の中味を惠まれて實に愉悦の情湧然たるを覺えた。保母たり又たらむこする人の生活の中に今回のお話の斯かる中味が浸み込み融け合つて行くこによりてこそ幼児の性情の涵養も自然に行はれ多様になるこゝと思はれる。吾人は特に保母養成に

従事する諸賢ご與に此間の眞實相を三省深慮する要あるを惟ふ者である。

尙他に述べべき事も多くあるが、これで頂いた原稿用紙は一枚も無駄にせず全部書きつくしたので、一まづ筆を擋くこにする。

(昭和一〇、七、三一、堺の郷里宅にて)

感想

徳久孝

七月二十一日の朝いよいよ今日から講習会、何ごなく張りきつた様な心地で、女高師の門に入る、トランクを重そうに下された地方の方、顔見知りの東京の方等が、同じ様に希望にみちたお姿でぞろぞろといらつしやる。六〇〇人を越へた會員との事で、さすがの大講堂も後までぎつしり、何ごいふ盛會ぞと我事の様に嬉しくなりました。同じ務を持つ地方の方々、永い間汽車にゆられ、汽船にゆられてようこそ奮發して来て下さいました、こお一人一人に申上

第一日は幼稚園令發布十周年記念講演會が午前中行は

げたい様な心地がします。六月の幼兒教育で講習の記事を拜見した時に、文部省主催でなくて協會主催では、人數の制限や手續の面倒がないので、きつと大勢いらつしやるにちがひないこ見越をつけて、早速申込みをした甲斐あつて私はいの一番、窓きわの涼しいお席。此處で居眠りをしたり、遅刻をしては一番の番號に對しても申わけないこ、講習中は全てを犠牲にして早寝をしたといふわけです。

れて、澤山の來賓の方をお迎へし、森岡常藏、關屋龍吉、

山林儀重三名士のめつたに伺ふ事の出來ない様な貴重な御講演を嬉しく拜聽しました。あのブラック校舎の講堂で幼稚園令の發布の喜びを此の職につく者が互に分ち合つてから、早くもこゝに十周年、今更ながら月日のたつの、早い事を感じさせられました。來賓の中には御高齢な膳真規子女史もはるゝ、鎌倉から御上京なさつていらつしやいまし
た。さうぞ氏原張女史と共にいつまでも御健在で日に日に伸び行く此の幼兒教育界の爲に御力添をいたゞきたいと切望にたえません。

其の日の午後に始り四日間の午後は戸倉先生の御遊戯。

久留島先生は「記憶した事は一度口に出して言つて見よ」と言はれましたが、其様に覺えたい、自分の物にしたい遊戯は、どうしても、手足を動かして見なければ私には見えられません。それで○○さんの「もう先生等遊戯なさらなくともよいでせう」こもち上げて下さつたのか、顔のしわのふれたのを意味されたのか分らない言葉も聞捨にして、年も忘れ四日間一生懸命にはねました、躍りました。しかも今年

は大奮發で手製の洋服を着て。

六〇〇人を四班に分けて、次から次へとなさる先生の御苦勞、助手の方々の御疲れは如何ばかりかごつぐぐ感謝致しました。されもなく可受い、遊戯でしたが私の一番好きなのはあのぎつちらり。綺麗な床に長くつながつて腰を下して、ボートを漕いだり、ゆらり／＼ゆれる動作。していらつしやる皆さんも實に愉快相に子供になり切つた様でした。九月にあの子供達にさせたらみんなに喜ぶかしらと先づ考へました。

倉橋先生の性情の涵養についてのお話は、やゝもするご

外面にばかりこらはれて、幼兒の性情等ごいふこまやかな點を忘れ勝な私共にこつて、何ご有意義なお話で御座いましたでせう。いつもながらの先生の御上手な比喩に、或時は背に冷汗の流れるのを感じたり、或時は自分のせまい経験にてらしてうなづいて見たりしながら、一語でも五分でも多くお話を伺ひたいと思つて居りました。所が先生には、連日の非常な御心づかひの爲、遂々御病氣におなりになつて、終りの五時間、丁度お話の頂上を伺ひ得ませんでした

した事は何とも殘念で御座いました。然し此の會をお開き下さつた爲に此の様に先生を御疲れおさせた事を考へます。誠に誠に相濟まない心地が致します。倉橋先生のかはりに、思ひがけなくも菅原教造先生の幼児の繪についての御話を伺ひ得ましたるは、講習員にこつては又大きな収穫であつたと思ひます。先生の御子様の繪に対する行き届いた御指導ぶり。私達は、はたして此の何十分の一を子供達に與へて居るでせうか。いつも同じ畫用紙、同じクレオソンを與へるだけで唯書けよ／＼といふのではないでせうか。考へさせられます。

久留島先生は、短い時間にもかゝらず細い點まで實際的の事をお話下さつて、さすがは有名な先生の名調子に皆暑さも居ねむりも忘れて聞入りました。「あごをひけよ」の御言葉は本當に私達の大切な處世訓であると思ひました。及川先生の手技は講習員がお郷里に持つて歸る唯一の有形なお土産で皆ざれ程樂しみにして居る事で御座いません。材料を求めるこ今度は何を教へていたゞけるのかしら。こじふ様に皆さんのが袋の中を、先づのぞいていらつしやい

ます。丁度子供がクリスマスの袋をいたゞいた時の様に、可愛い＼＼お提灯に金魚、水鳥を一寸した工夫で立體的に御考案なさつてあるのをさせていただきながら私の幼稚園で此の一學期に御室中を動物園にして遊んだ時に、水鳥も畫用紙かボールで立體的に作らうとしてさんぐ＼＼考へながら、遂々＼＼に考へ及ばなかつた事を思ひ起して殘念に思ひました。この水鳥を應用して、おしげりも、白鳥も、あひるも作つて入れたら、あの水鳥の家も一きわ感じが出たのであります。特に今年は先生が御考案になりましたテープで色々の物をあむ事を教へていただきました。廢物を利用してこんなに見事な物を作る事が出来るかと、今更ながら先生の御炯眼に敬服してしまひました。私達は箱を作らせていたゞきましたが、やつて居ります中に段々夢中になつて口を一文字にしたまゝ肩をこらしてやつてしまひました。やつこ出來上つた時の嬉しかつた事。思はず「あゝ出来た」＼＼ホツ＼＼して箱から目を離しましたら、丁度廻つていらつしやつた先生がお笑ひになつていらつしやいまし

こうしていつの間にか楽しく六日間の講習を過し閉会式の時に代表の方の御禮の言葉を伺つて居ります時は何だかお名残惜しい心地で一ぱいで御座いました。

又附屬の先生方が此の講習中に間に合ふ様にご大変な御骨折りで「系統的保育案の實際」をお作り下さつた事は講習員にごつて、されだけ有りがたい事であつたかと存じます。

地方に依り、幼稚園によつて異りますから其のまゝ用ひられないとしても、丁度船の羅針盤の様に、一つの道を示していたゞいた事はされ程心強い事かと存じます。

終りにのぞみ講師の先生方及此の一週間此の大勢の人々を何かしら何までかゆい所に手の届く様に御親切に御世話いたゞき、又前々から此の會の爲に色々御準備下さいました協會員の先生方に、厚く御禮申上げます。ごうぞ來年も又私共の爲に此の様なよい會をお開き下さいます様に切に御願ひ致します。

講習員の皆様もどうぞ御元氣で又來年も御上京なさいまして御一緒に學ばうでは御座いませんか、思ひ出るまゝに感想をのべまして。

おみやげ話問答

S
•
K

A 講習のお話伺ふのを楽しみに待つてゐました。お暑かつたでせう。

B えゝ、去年よりもかなり、お遊戯の時など随分暑くて、なんせ六百人近くの人達でその人いきれだけでもね。でも愉快で暑さなどなんでもありませんでした。

A 第一日目は記念講演でしたのです。

A 幼児の性情の涵養に就いてのお話ね

B そう、でもあんな差し支へで出られなくてとても殘念でした。よいお話だつたさうですのに。その代り二日目は定刻二十分前から會場に馳せつけて朝の御飯急いで食べて來たところ後悔しながら鉛筆をこがらし、ノートをひろげて倉橋先生の御講義を待機しました。

B えへ、一日目は四時間、幼稚園の目的を云ふ簡條に示された言葉の内容に於て、この性情を云ふことがどんな風に取り扱はれ又考へられるかを云ふ様なこと。以前の幼稚園の規則の中には「善良なる習慣を養ふ」つてあるんでしたね。それが幼稚園令では「性情を涵養し」を變つてゐる。これが「心身を健全に發達せしめ」と云ふ自然主義的な方面

こ對立してある所に法令としても完全さがあると云つていゝと云ふ様なお話でした。心身の健全性を失つてゐるのであつたなら如何によき習慣を養つても幼稚園としての價值を失ふ……

A 本當にそうへ。外的的な形式的の習慣を與へて本質的な性情そのものゝ育ぐみを忘れてしまつては大變ですものね

B それから「第一性情」と云ふお話も深い意味の、よい御講義で私の口では上手にお話出来なくて残念

「幼兒の教育」誌上でお伺ひすることにして下さらない?

A まあ、うまくおにげになつて、もし何とかまごめて下さらなくては氣が済みませんわ。

B 人間一生の性格教育をする爲に今(幼兒時代)その情的要素、情的方面に重きを置いてする、とかう解釋してさうだらう。性格教育の爲の情的方面の教育、これは後になつて直實に養ひ難い。感情の教育は幼兒時代、自然の心身の發達と共にのみ育まれるこ仰言るのをお聞きして色々考へさせられました。

A 私なんか幼兒時代まつたくそんな周到な考への中に教育されるこなしに來てしまつて、今になつては駄目ですのね。

B 倉橋先生のお話は相變らず深くて、豊かで「空や」の最中が出るこ思へば文樂の人物淨瑠璃が出る、ゆうべ小唄の勝太郎さんの處へ盜君がまかり出たと云ふニュースまでピックアップしていらつしやる興味深さ、いくら睡眠不足の方でも……。

A 二日目は?

B 久留島先生と及川先生の手技、倉橋先生の御講義は三日目に四時間ありましたの。

幼稚園に於て幼兒に與へる美を云ふもの、それは幼兒を

意識、概念からかけ離れた性情の世界に戻してやる最もよ

き力だとも仰いました。私は自分の何を爲るにも離れぬ自己意識の強さを思つてつくづくいになりました。せめて子供等には、あのお話を聞く時の顔に浮ぶなまの性情、

そのまゝのよさを持ち續けさせ度いこ考へました。幼稚園の朝の打水も幼児の相互教育の原理も亦この問題に直接のつながりを持つてゐるのであります。

A 倉橋先生が御不快で後の御講義はお休みだつたのですつてね残念ね、もう御元氣で御活動のことさせうけれど。

B 本當に心配、御大事にして戴き度いこ思ひますわ。

A 久留島先生のお話は？

B そんな方面でもその道のオーソリティーになる位の方は立派なものを持つてゐらつしやるのね。お話を技巧的な方面のことをお話をすつてもそれが單なる技巧ではないのね。

A そうですね。——

B それからこれが今度の手技。

藝術的表現の所謂お話ばかりし様させずに何でも話せこ仰云いました。貴女がよくお庭の「玉ころ蟲」の話だのお魚の話だの上手に子供になさる、あれなんか本當にいゝお

話よ。

それから椅子の掛け方やら聲と言葉、ヂエスチア等に就いて具體的にお話して下さいました。

お話をすじも半忘れの様なのを子供にしたりした時の事を考へるご、その呼吸の充實してゐない話し方が子供を引き付けてるのは當り前だと思ひました。

A その前科は私にもありますわ。善いお話を豊富に、そして確かに覚えて置くご、そんな處にも勉強の餘地がたくさんあることをつくづく思はせられますご。

B 最後に、お話をする時「顎を引け」と云ふご、これは先生が何十年かの御経験で體得なすつたごなさうです。顎を引くごが自然に姿勢を善くし落ち付きを與へるごになるのですつて。

A そうですのね。——

B それからこれが今度の手技。
A まあ！きれいな箱、あら、これあの包紙の上にかけてくれる平つたい紐ですね、織紙の様なわけ？ でも少しむづかしそう。

B いゝえして見るこ簡単、子供はきつこ喜んで爲たがりますよ。女高師幼稚園では今年の御子さん達のアルバムの表紙にこれをお使ひになつたのですつて。それからこれは金魚ご藻。

A こんな簡単な方法なのにこでも立體的な味がでてるます。この手を動かす太郎さんこ鼻を動かす象さんも可愛らしい。子供がここでも喜びさう。早速利用させて戴きませう。

B この鶯鳴こ屋形船のお提灯もいゝでせう。いつもいつもの切り目を入れて一寸づぶして置くあればかり捨へてゐる私が恥かしいこだ。

及川先生が絶えず子供の遊び、手技に心を打ち込んでるらつしやるこがこんな色々な手技をお生みになるのですね。この紐だつて私なんかたくさん机の引出に溜つても古雑誌でも括る時に使ふこことかしませんでしたもの。本當にもつこ研究的に頭を使はなくては。

A 講習も只出てお話伺ふこだけでも勿論いゝですけれど、それをすつかり自分の中に消化してその後の

保育の總べてによい滋養分にしなくては、講習で戴いて來たものをそのまますつかり戸棚の中に仕舞ひ込んで置き、たまに食べ易い處だけ一寸味つて見る様なんでは駄目ね。B 又貴方の皮肉が始まりさうだけれど實際さう。數は力なりつて人數の多いのはうれしいこですけれども少し積極的な受講態度が欲しい。私は自分自身にさう思ひます、そしたら去年の質疑應答こ云ふあのよい機會にももうこよく働きかけるこが出来たと思ひます。

A 遊戯を早速教へて戴きますわよ、具合に涼しいし。B まあ仲々するいこだ、講習に出ないで出たと同じ效果を上げ様つてわけね、では二つ拍手する處は一つに一度廻る處は一度に割引して教へて上げ様かしらハ……

A 運動會にするのに何かいゝのあります。B あら、運動會だの何會だのに適するこ云ふのなら他の講習へ行らつしやい、こ云つてもどれも可愛らしいのですからみんなすつてもようござりますわ。そう、此處の子供に適するの——これなんかよささう、ワタシノオウチハウミノソバつて云ふのね。メロディーにも歌詞にもわざこら

しいセンチメントが無くてすき。兎追ひ、高いたかい。今年

のぼたんなどみな單純な遊びをリズム化したもの、この蝶
蝶の曲は古いけれど綺麗ね、テンボを色々に變へてスキッ
プにしたり早足にしたり静かなステップを使つたりするこ

面白くて樂器をきれいに彈けばそれ丈子供も氣分を出すで
せう。コイヌだの舌切雀は可愛いし「ピヨ／＼ヒヨコ」は静
かで美くしい、樂隊や兵隊さんは男の子が喜ぶでせう。小

人の踊りは面白い表現ですし、ひなげしの花はこゝてもよい
メロディーなんですけれど、こゝの子供には少し難しいで
せう。あゝそれからこのオフネハギッチャラコ、ボートレー
スにあきた子供にも喜ばれさう、勢込んで床をたゞく子供
の顔が見える様。

A 早く教へて戴き度い。

B 六日目倉橋先生の御講義の代りに女高師教授菅原教
造先生のお話がありました。先生のお子さんのお小さい時
からの繪をたくさんに見せて下さつてのお話座談的な氣易
いお話をした。手を替へ品を替へ色々の材料を與へて準備
し子供の畫心を引き出すことに努力なすつたと云ふ御言葉

を心に留めて來ました。

A 私の方の子供の繪も四月新入期の時こ夏休み前では
随分違ひましたけれどその違ひが本當によい發達に於てか
どうかと云ふことを気に掛つてゐますけれど。

B 子供の繪のこと丈でも随分難しい、勉強しなくては
ならないことばかり。

A ではこの遊戯の曲目お借りして参ります。

B さうぞ。その下のも御一緒にこのお風呂敷に包んで
いらつしやいませ。この風呂敷。幼稚園令公布十周年記念會
の爲にフレーベル館から講習會員一同に下さいましたの。

A この下の御本は女高師附屬幼稚園でお出しになつた
「系統的保育案の實際」ですのね。見たいと思つてました。

B 隨分立派に出来てますよ。少しお話伺つたり、一寸

半日のぞいて見るより却つてよく、あすこの幼稚園の保育
が、そのアウトラインではありながら系統的に理解出来る
様な氣持が致しますの。さうぞごゆっくり御覽になつて頂
戴。

A 「さようなら」 「さようなら」

幼兒性情の涵養

—講習筆記—

倉 橋 惣 三

一、幼稚園の目的について

本年の私の題目は「幼兒性情の涵養について」云ふ事になつて居りますが、このお話の導き出ししまして幼稚園の目的の事に就て一寸考へて置き度いと思ふのであります。幼兒性情の涵養、云ふ言葉は改めて申上げる迄もなく幼稚園令第一條にあります所の、幼稚園の目的の中の言葉で、即ち私の作りました言葉ではなくして幼稚園令第一條に使つて居る言葉であります。其所でその順序に基いて考へて置くことが先づ必要だと思ふのであります。昨日も幼稚園令の事に就て色々お話をありましたが、これも改めて申上ぐる迄もなく幼稚園令が改正せられまして……改正ではあります。制定せられまして公布せられましたのは、昨日その十年を記念しました大正十五年であります。その前から幼稚園に關する規則云ふものはもうよりあつたのであります。其所で新しき幼稚園令が、前の幼稚園規則云々何處が變つて居るか云ふ事は、幼稚園の本質を研究して行く上に於て少くも或参考になります事かと思ふ。色々法規的な問題で變つて居る處は多いのですが、幼稚園の目的云ふ事に關する限りに於きましては、今回私が問題に致します性情の涵養、云ふ言葉が幼稚園規則云々幼稚園令と違つて居る點であり唯一の點であります。幼稚園令第一條の言葉を此處に繰返す必要もありませ

ぬが、「幼稚園は幼兒を保育して心身を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養し家庭教育を補ふを以て目的」と書いてあります。前の幼稚園規則には、「幼稚園は幼兒を保育して心身を健全に發達せてめ」云ふ事も同じであります。「家庭教育を補ふを以て目的」と云ふ事も同じであります。規則には、「善良なる習慣を養成し」云ふ事も同じであります。即ちこの言葉だけが大正十五年の幼稚園令發布に當りまして、内容的に一番大事な目的の所に於きまして特に改められた點であります。法令に基いて物を考へて行きます以上は、特に改められた云ふ所に先づ重點を拂つて考へて見なければならぬ事は申す迄もないのであります。

さて、その幼稚園令の今の言葉をもう一度眺めて見ますと、幼兒を保育して、云ふ所はこれはまあ大體を示した所であります、家庭教育を補ふを以て目的とす、と書いてあります所は幼稚園が子供の教育に與り參與する所の意味を表はしました點であります。教育目的の内容方面を規定して居るのは、中の言葉として、心身を健全に發達せしめ善良なる性情を涵養し、云ふあの言葉であります。其處を問題に致します。これは讀下したり或はたゞ簡単に考へる人には於きましては別に問題も起らない様な分り切つた言葉に過ぎませぬが、假に……研究でありますから色々云ひねくつて見ます。お暑さの砌ひねくりまして誠に相濟みませぬが研究でありますからうるさくひねつて見ます。心身を健全に發達せしめ善良なる性情を涵養し、云ふ言葉は、心身を健全に發達せしめ、云ふ一つの句と、善良なる性情を涵養し、云ふ一つの句と、それが何う云ふ關係になつて来るだらうか、その問題が先づ第一の研究點であります。文法の講釋をする譯ではありませんが、終ひの一つの句に上の句がかつて來ます時に、その終ひの一つを規定する言葉として上の言葉が動いて來る事もあります。或は全く無關係なる二つの句の聯立となつて居る事もあります。其所で先づ考へます事は、あの、心身

を健全に發達せしめ、云ふ事、善良なる性情を涵養し、云ふ事があの二つの句の間に……法令は凡て點等を打ちませぬものですから、コンマがあるか何うか其事が問題なのであります、若しち離したものとすれば一つの事でありますし、續いて居るものとしますならば、心身を健全に發達せしめる事に依て善良なる性情を涵養し、云ふ意味になつて参ります。心身を健全に發達せしめる云ふ事は別であつて、善良なる性情を涵養し、云ふ事は又別である。心身を健全に發達せしめるのはお庭であつて、善良なる性情を涵養するのは佛壇の前であるとする、斯う云ふ風に全く別な事なんであらうか。或はあれが斯うする事に依て斯う云ふ風な繋りになつて行く言葉なんだらうか。其所の問題であります。

これを、あの文章をたゞ文法的につゝき廻しました所でその解決はつきますまいし、或は其の問題さへも起らずに済まし得るかも知れませぬ。言葉が何うだ云ふ様な文法上の意味でありますから、其所は何うでもいい様な事であります、實際問題としまして、性情を涵養する云ふ事、心身を健全に發達せしめる云ふ事はこれは近世の心理學に於て……等と申しませぬ迄も、非常な關係のある事は私共が法令以外の處で始終學んで居る事であります。心身を健全に發達せしめる事なくして善良なる性情云ふものがあり得るや。これは今日私共の信じない所であります。そこで法令以外の現代の吾々の知識としまして、さう云ふ結び付いて居るものがある云ふ事を基礎にして、あの法文を讀んで見ます、法文は、それはさうであるが一つの事を一個の重點に於いて示して居るのである。其所に問題が發生して来る譯であります。

次に當時の歴史的な事になりますが、幼稚園令が出來ます前後に於きまして、出來る前にも色々な討究があり、出來た後にも色々な討究がありましたが、その色々の意見の中に、これは一つ書かなくても一つでいいぢやないか云ふ論もあつたのであります。別に文部省内に於て何うとか云ふのではありませぬが、さう云ふ意見が當時はあります、教育に關

する會合等の場合に出たのであります。法令では餘計な事を申しませぬので、必要な事だけしか書いてないのですから、あの二つの文句は是非必要だ^ミと主張しなければならぬ。これに反しまして、一つでいゝじやないか^ミ云ふ論もあつたのであります。その論を立てます人は、心身を健全に發達せしめる^ミ云ふ事だけでいゝじやないか。さうすれば必ず善良なる性情が涵養されるのであるから、そんな事を新たに附加へなくともいゝじやないか^ミ云ふ様な論もあつた程であります。而も亦その論者の心持をもう一つ委しく分解致しますと、心身を健全に發達せしめ、^ミ云ふ事さへ出來れば後の事は結果に他ならぬから書がなくともいゝじやないか^ミ云ふ論は、若しも彼處に書いてあります言葉が、書いてあつてもなくとも餘り問題も起らぬ様な輕い意味の言葉ならば敢てそんな難しい事は申しませぬ。「本日は暑い」^ミ言へばいゝじやないか。『御座ります』なんかは要らぬじやないか^ミ云ふ様な事は、そんなに御座りますの有無に就てえらく論ずる必要もない事であります。所が前の句丈でいゝじやないか^ミ云ふ主張の正面の意味は、先程申しました、善良なる性情の基礎が自身の健全なる發達にある^ミ云ふ、謂はゞ學的基礎に於て言ふのであります。殊にそんな事を強く言ひ度くなつて來て、其の人の心の裏には、善良なる性情を涵養し、なん^ミ云ふ言葉を言ふ爲に或間違が起りやしないか^ミ云ふ懸念があるのであります。善良なる性情を涵養し^ミ云ふ言葉に間違が起るかも知れぬ^ミ云ふ事は、善良なる皆様の思ひがけない事だ^ミ思ふのであります。その主張する人は不良なる悪人である^ミお考へになるかも知れませぬが、幼稚園の色々な傾向を、すつ^ミ議論でなく實際に就て眺めて——心配するか批評するかそれは何方か知りませぬが——他人の事を兎に角色々眺めて居ります者達に取りましては、何うも幼稚園の教育がしつこくなり過ぎる。昨日も山樹氏が色々さう^ミ云ふ事を申されましたが、しつこくなり過ぎる。あつさりやつて置く方がいゝのであるのに、何うも色々行き過ぎる危険がある。過ぎたるは及ばざるが如しじやない。過ぎたるは反つて害あり^ミ云ふ様な事を言ひ度くなる様な事實がある^ミ斯う考へて來てもいゝ。

これが知識的方面技能的方面に於てもさう云ふ問題が皆様の耳に始終響く事でありませう。或は又性情の涵養と云ふ方面の事に就きましても、矢張り同様な事がある。そこで何うも幼稚園の教育がしつこくなつて困る。これを何うか幼稚園本來の淡白さに遷す必要があると云ふ事を痛感して居る場合に於ては、善良なる性情を涵養しなんて言葉を改めて幼稚園の目的の中へ擣き出す事が却つてその濃厚さを増しはすまいかと云ふ取越苦勞か何うか知りませぬが、さふ云ふ腹が裏にあるのであります。今申上げて居ります事は、私申上げて居るのではなくて、色々な考を分解して居りますので、倉橋が申して居りますけれども倉橋曰くと云ふ事ではありませぬ。何處か御馳走を食べに行つたと致します。——私の講習には數年來食物の出ます事が定例になつて居りますので今年も出しますが、何うも食物の例が私に極めてピンと来るし、皆様にもピンと来る様な氣持がする。——何處か御馳走を食べに行つた時に、「うん、うまい物を食はして呉れろよ」と註文した時に恐る可き結果を生じないとも限らぬ。で「今日はそんなに御馳走をしなくていいゝぞ」と言ひ度くなる。食物屋に行つてさう言ふのは矛盾でありますけれども、あの料理人が腕によりをかけて私の味覺を尊重して、胃腸を尊重しない料理人であつた場合には何を食はすか知れませぬ。これが恐ろしいから「今日はあつさりした物で……」と云ふ事があるじやありませんか。皆様の中で「私そんな事を言つた事はない。彼らでもうまい物を出して貰ひ度い」と仰言る方があれば話がピンと来ませぬが、それと同じ様な具合で餘計な事を言ふと餘計な結果が起つて來ます。言はざるに如かず。食物屋に行つた時には黙つて居たつて食はして呉れると云ふ事に相違ない。そこで、黙つて居れば向ふが適當な物を出すかも知れない。それを「うまい物を食はせろ」と言ふ事から濃厚な物が出る。それと同様、黙つて居れば淡白な涵養が出来るかも知れない。それが、善良なる性情を涵養せよと云ふと、貴女方が腕によりをかけて、何んな善良なる性情を涵養するかも知れません。これが幼兒の胃腸を損ぶかも知れませぬ。そう心配する人が、餘計な事は省かうじゃないかと言つた。大抵こんな事を言ふ

人は年寄であります。さう申しました。さう云ふ風な事も片方にある位の問題がこの二つの場所を讀下せば何でもない言葉の中に色々あります。

もう一つ申します。その幼稚園の教育が又しても濃厚になり過ぎる危険がある。云ふ事は、何故濃厚になるでありますか。云ふ事を研究して見ませう。その第一は、幼兒教育に當る方の教育的熱心に出發する事は勿論であります。餘りに熱心に御飯を炊いてお焦げを作る。云ふ様な具合で何うも熱心の極、切上げ所がつかぬ。即ち幼稚園が濃厚になる事を局外の人は何のまゝ非難致しますが、私は非常に感謝し、益々尊敬する。嬉し涙とは斯ふ云ふ事であります。有難涙と云ふ事も斯ふ云ふ事かも知れませぬ。この誤りの生ずる所以の事に就ては有難涙が出ますが結果に就ては悲しい涙が出る。そこで、悲しい涙の方を言ふ許りでなく、有難い涙がなければならないかと云ふ事が始終御苦心のある所以ではないかと思ふのであります。汗が出るのに涼しさうな顔をしよう。云ふ事が夏の化粧の御苦勞であらうと思ひますが、それ所ではない。斯うもしたいともしたいとお思ひになる熱心、さり乍ら幼兒教育はそこに何う調節を圖らうかと云ふ事が苦心で、この苦心が幼稚園の苦心の最も本質的なものであります。何うしたら私もつゝ熱心になれるだらうかと云ふ苦心は相撲を取る時と同じであります。幼兒教育の苦心を變りませぬ。何うしたら私の熱心が向ふに通じるだらうかと言つてやるのは、これは或手紙でも書いて居る時の苦心であります。(笑聲)別に教育の苦心ではありません。私なんかに時々ウインクをして下さる方がある。つひ通じないものですからじーつゝやつて、これでもかこれでもかとやられて、あの人の眼は何處へ附いて居るか正面に廻つて見度くなる事がある。斯う云ふ意味で熱心が向ふに通じない事が苦心、熱心は一ぱいに出る。何うも熱心がいかぬから半分にやるよ、三分の一にやるよ、一日置きにやるよ。云ふ様な方は至極簡単に解決し

て了ひます。然し一ぱいの熱心はこても幼児教育の本質を云ふ處で言へない。こても素人には分りませぬ。色の白い玄人でなければ分りませぬ。問題が其所に起つて来るを思ふのであります。

乍然、その前に幼稚園の目的を云ふものに就て……若しもその熱心を寧ろ激發する様な言葉があつたとしたならば、尙更、其所の問題は難しくなつて参ります。善良なる性情を涵養しきる言葉がそんな風な惡戯いたずらをしやしまいかる事が、さつき申しました色々の當時の討議の中心點であつたのであります。其の點を苦心しなければ何でもないのですが幼稚園教育の……殊に德育上に關するを申しますか……德育なんぞ云ふ言葉が實にしつこい言葉であるが、假に智育、體育云ふ言葉を區別した分りよい言葉で德育を云ふ言葉を使ふとする、その濃厚性を心配する者に取つては、この善良なる性情を涵養しきる言葉が實に苦になつたのであります。私は昨年の……本年に延びましたが、幼稚園關係者大會が大阪で開かれましたのに出席用意して居り乍ら萬止むを得ざる事情が起りまして、遺憾乍ら缺席しました。缺席した會の事に就て彼は申します事は言ふ可き事ではありませぬが、研究題材として此處で思ふまゝを言はして頂きます。文部省は其の會に向ひまして「幼兒情操の教育」を云ふ事に就きましての諮詢案を出しました。私はその諮詢案を見ました時に「又出したな」と云つた様な氣持が致しましたが、但し何んなものが出来ましたつて、何を扱ふかの方が問題ですから文部省はここに依りましたら「如何にして幼兒を惡黨にすべきや」と云ふ諮詢案を出しましたつて構はない譯です。其所での大會に於て其の事を議せられた色々のものを拜見しました。誠に周到綿密加ふる所なき様な答申案が出来て居りました。何處をついて見ましても誤りは御座いません。悪い事はありません。況んや足らざる點はありません。實に敬服に倣するのですけれども、さうも何處か……若し誰かこの通りにやつても程度を何う、云ふ事が……これは言葉じや却々言へない。如何

なる情操に就ては十八度に教育すべし。如何なる情操に就ては二十三度に教育すべし。如何なる情操に就ては沸騰點以上に教育すべし。云ふ事は却々書けませぬから、たゞその程度は言はないで書いて居る。其所へ實際家は熱心に來て居る。その熱心で行くと百度になつて了ぶ。さうなつた時に何うでせうか。一流の料理屋のあつさりした甘煮^{うまい}を、もう一度蜜を入れて煮かへした様になりはしないか。これは私、卒直に感じた點であります。情操教育の必要が誰にも分らぬ時代には、必要だ云ふ事が大事な注意がありました。如何なる種類の情操を教育すべきか云ふ事が研究されて居ない時代には斯う云ふ事を落さぬ様に云ふ事が大事でありました。今日はもうそこは進んで了つて、お互の懶みは何の位の濃さで何の位の淡さで何の位の度で教育すべきか——質に屬する問題を量の言葉で言ふより間違の起り易い事はないが、分り易い爲にこんな言葉を使ひますが——そこに苦心がある。何うも却々出來ませぬ。私、答申案を攻撃して居るのじやあります。そこが却々書き難いものだ云ふ事を、あの答申案を見て感じた。皆さんも多分さうじやないかと思ふ事を此處で引用して居る文であります。詰り何うも濃厚になり易い。情操云ふ言葉が……假に人が性情であるとしても、同じ様な答申案が出るのではないかと思ひますが、濃厚になり易い。今でさへ濃厚になり易い危険が非常に多い云ふ時に、もう一度考へ直して見ます。この二つの句の後の句は却々これは曲者である云ふ考へるのであります。これは何にも積極的の意味を具へて居る言ひ方ではありませぬが、研究ですからさう云ふ裏を眺めて見る云ふ様な意味で先づ申上げた事であります。

そこでこれをもう少し正面からもう一度眺めて見ます。まあ此所で一行あく云つた様なところです。

これからもう一度眺めます。別に變つた事じやありませぬ。次に云ふ事ではない。もう一度、云ふ事であります。

心身を健全に發達せしめ云ふ事、善良なる性情を涵養しき云ふ言葉。この二つはその關係が何うであるかは暫く措きして、この二つの言葉は、教育學上から申しますと心理主義の言葉と倫理主義の言葉と斯う云ふ關係になつて參ります。或は倫理主義と云ふものゝ持つて居る特質に對立する意味では、心理主義を自然主義と言つてもいゝ言葉であります。心身を健全に發達せしめ云ふ言葉の持つて居ります特質は、元來發達するものを發達させる丈であります。心身を健全に發達せしめ云ふ言葉の持つて居ります特質は、元來發達するものを發達させる丈であります。私常申します。發達するものを發達させるので、私なんかにはあのせしめが難しい。幼稚園に来る子供は自ら健全に發達するものなり。そぞ誠に宜しきことなり、云ふなら事は極めて簡単ですが、發達するに任せること云ふのではなく、せしめ云ふのが却々面倒なのであります。然しせしめを書いてあるのが、發達する云ふより少し人爲的な問題が這入つて居ります。されども工夫が加つて居ります。純自然的ではありませんけれども發達云ふ事自身が教育學上では自然派の主張する所であります。發達主義教育學は所謂自然主義教育學と云ふ中に這入つて居ります。こんな講釋を此處で言ふ必要はありますまいが、お互が尊敬するフレーベルと云ふ人は、その人の學說を教育史の中で何う云ふ種類の學說の中に置かうかと考へる時に、あゝ云ふ偉い人になると、金持が家を澤山持つて居る様な工合に彼方にも此方にも屬しますけれども、フレーベルのフレーベル教育說の價値は寧ろ倫理派の方に這入ります。宗教的の教育者であります。そこがフレーベルの深い價値のある所であります。所謂幼稚園と云ふ方法を、昨日山樹氏の言はれましたフレーベル式幼稚園形態と云ひます。そのフレーベルの發達と云ふ觀念に基いて居る事は申す迄もありません。その發達と云ふ觀念に基いて居りては非常に尊い、現代教育を網羅されたものが自然主義であります。或は自然派の教育學者であると言はれ得る原因になるのであります。發達と云ふ事に力點を置きます考へ方は自然主義であります。自然主義と云ふのは教育の上に於

て、善良^ミか悪^ミか云ふ言葉は少しも這入つて居りませぬ。私共、夏草生ひ茂る色々な花を見て、何所に善^ミか悪^ミか云ふ事を考へませう。善良なる蝶々不良なる蝶々、善良なる撫子不良なる薙^ミ云ふ事は申せませぬ。皆様はお仰嘸の大家ですから自然迄も倫理化して御覽になる癖があつて「あのね、おいたの蝶々があつて困つたのよ」と仰言る。自然界には善惡はない。たゞ、何^ミすくすく伸びて居る草よ、何^ミ不完全に萎びて居る草よ、云ふ事がある。何^ミ颯爽^ミとして居る蝶々よ、何^ミ萎れて居る羽の病みほうけたる老蝶よ、云ふ事がある。これは健全か不健全で、善惡じやない。そこで、發達の健全性^ミは恐らく發達の自然法則が一杯に出て居るのを健全^ミ云ふのでせう。私、昨日も久し振りの方にお目にかかりました。「何^ミも相變らず御健全で」と言つて下さる。私も、「相變らず……」と云ふ。私は學者ですから一々言葉をちやんと考へる。自然法則に隨て生活して居ます。私は稍々老境に入りましたし、もう幼稚園令が出ました時から見ますと大層年を取りました。年を取つたら年を取つただけの自然法則で生活して居るのが健全であります。「大層若返りましたね」等と云ふのは不健全であります。其所で、自然法則に基いて居るだけが健全ですから、健全から發達せしめる云ふのは、自然法則を一杯に發揮せしめる云ふ事であらうと考へます。自然派であります。現代教育學說の共通の特色が自然主義心理主義にあると云ふ事は改めて幼稚園のみならず一般にあると云ふ事は申す迄もありませぬ。教育學說じやない、自然の考へ方、世の中の考へ方が自然主義的心理主義的であります。それが善いか悪いか知りませぬ。善良なる性情を涵養しこと云ふ事は實に倫理主義で、涵養しこと發達せしめとは大變な違つた言葉です。これはお互に大事な點でありますから考へなければなりませんが、子供を夏お湯に入れます。暑い／＼と云つて居りますのを先づ裸にしてやるのは自然主義であります。母の懇ろに沸しました適當なる溫度のお湯の中で涵養する譯ではないが浸す。これは自然じやありませぬ。裸にしましたけれども自然じやありませぬ。涵養する……これは後で申しますが到底自然だけでは出來ない事であります。

涵養される事なんて聞いたつて……魚は始終水の中で泳いで居りますけれども人間は特に何うかしなければ……涵養云ふ事が、人間の努力に關する、工夫に關する所謂自然とは反対の性質を帶びて居る共に、善良なる、云ふ言葉は先程申しました健全云ふ言葉と對立する同時に實に倫理主義の言葉であります。健全とは何ぞや云ふ事は一通りの事で申せませぬが、さう難しい事じやないかも知れませぬが、善良とは何ぞや云ふ事は人類始つて今日でも落着かない面倒な問題であります。人間が考へた事が面倒なのであります。そこでその人間が考へた、人間の中に行はれて來ました法則に就ての善良としてそれを頭に被らして居ります善良なる性情……性情云ふものが何んなものだ云ふ事は後に殘して置きますが、それが何うであらうとも、上に附いて居る善良下に附いて居る涵養が之が倫理主義の性質を多分に持つて居る云ふ事は言ひ得ると思ふ。實に昨日山樹君の話して呉れました事は、今日の私の話の前置きをした様で非常に嬉しい。この所謂自然主義倫理主義の對立、こゝに非常な問題があるのであります。山樹君の言はれました如く、教育學説はその人の生活……實に離れられない。人の生活を離れては教育學説は意義がない。生活を離れない云ふ事は、生活の大好きな要素としてのその人の性質云ふ事が這入つて居りませう。倫理的性質の非自然的であります。これは吾々……皆様は多分倫理主義の方云思ひます。今澤山自然主義云ふ言葉を使つた時に其處に惡魔の顔が見える程倫理主義の方だ云思ひますが……。此の間上野小公園で、子供を裸にして水を浴せてやつて風俗がいかぬ云ふので止められた。私共、幼稚園の子供が裸になつて居る可愛らしくて仕方がない。だから云つて皆さん此處で裸になつたら何うか知りませぬが、幼稚園の子供は可愛らしい。私はお伽噺の中で「蝶々が、あの一つ々々薄物の色々なものを着て來たのよ。冠を被つてお顔にお化粧してね」なんて仰言の方があるが、私側に聞いて居て醜惡云ふます。あの蝶々があの上へ又ピーチコートか何か着て赤いリボンか何かつけて赤いものでも塗つて行つたら……吾々から見る白粉をつけて居る様であるけれども、

彼女の地肌なんです。此方が必ずしも穢い云ふ譯ではない。そこで其の人の性分から見まして、これは私もよく知りませぬけれども、所謂教育云つた様な事に關係をする人は大體に於て倫理主義的の性質の人であります。これは私が言ふのではない。ドイツのスプロンガーが言つて居る事であります。そこで餘りそれに重きを置き過ぎるこ教育學說がしつこく、色々な間違を生ずる。熱心はいゝが間違が起る云ふ事になる。それを現代の教育者が、もう一つ心理主義的に直さうと云ふて十年ばかり前に趨勢が強かつた。それで、あの幼稚園令の中にある二つの言葉は、何でもないと言へば何でもないが、教育上の心理主義的自然主義の方面を主にして居る言葉を主にして居ない言葉が並んで居ります。あの幼稚園令の二つの言葉がある事に就て結論を先に申上げて置かないといけないから言ひますが、私はあの幼稚園令のあの書き方が宜しいと思つて居ります。片方でいゝ等と云ふ事は思つて居りませぬ。善良なる性情を涵養し云ふ倫理主義的の價値の問題を、ちゃんと置き忘れては居りませぬ。善良なる性情を涵養し、云ふ事だけ主張して居る様な風が從來の修身の先生等にありますけれども、遺に幼稚園令は、併せて、心身を健全に發達せしめ云ふ心理主義的自然主義の方面も忘れて居ない。これは二つあるので實に宜いと思ふ。其の兩方が實によく出來て居る。これは私の考を申上げた丈で、此方に偏する方面の人はこれが邪魔になるでせう。其方に偏する方面の人はそれが邪魔になるでせう。けれども幼稚園云ふ事に苟くも關係のある……興味を持つ人は少くも幼兒期に於きまして此方の意味が大事だ云ふ事を實によく仰言る方々のみでありますから、此方に片寄つた此方の問題を何うするか云ふ其所の問題に歸着致す、斯う申して宜しいかと思ひます。

これで又一ぐぎりを切ります。詰りあの二つの言葉は何でもない事の様でありますけれども教育學說的には大變に違つた性質に於て違つた事が並んで居るこ申し度い。こゝから又一行あけて第三に這入ります。

價値の違つて居る自然主義的な言ひ方と倫理主義的な言葉遣ひであります。第一のところで申しました如く、實は健全なる心身の發達が基礎となつてこそ善良なる性情も涵養される云ふ主張は、心身を健全に發達させたならばいゝ言つて居るのでは決してありませぬ。心身を健全に發達せしめ云ふ言ひ方の方を取らうとは主張して居るかも知れませんが、それが即ち善良なる性質を涵養する云ふ事に必然になるんだと言ふならばその論理のもとに言つて居る。彼等自身を健全に發達せしめ云ふ丈でいゝ云ふ説は、善良なる性情を涵養せしめ、併せて居るものとして主張して居る事となる。第一に言ひました事と第二に言ひました事と關係をつけて置きます。斯う云ふ譯で、この幼稚園の目的の研究の時に、其處が色々何でもない様な事でなければ、問題をさらり引起して来る云ふ事を御承知を頂いて置きます。

さて第三の所で續けて申しますが、先程申しました如く、幼稚園規則では、善良なる習慣を養成し、と書いてあります。幼稚園では、善良なる性情を涵養し、と云ふ全く違つた言葉になつて居ります。それで、その性情と習慣が、何所が違ふか……まあそんなに言葉なんかにそんなに捉はれなくても確に分つて居ればいいじゃないかと云ふけれども、今はさう云ふ法令を基礎にした事を……少くも今朝はやつて居る。其所で、習慣を養成し云ふ事は其の習慣と云ふ事の意味が色々に取られませうが、性情と云ふ言葉と並べて考へて見ます——習慣と云ふ言葉がボツッキ一つ來た時には色々意味が取れます——性情と云ふ言葉と並べて兩方の特質を見ますと、一寸考へても斯う云ふ事が氣が付かないかと思ふ。習慣と云ふ言葉には何處もなき外面的な響きがあります。習慣とは、外から見る事の出来る或生活の外面的なものであります。性情となる云ふ事、習慣に對しては内面的性質を多分に持つて居る。私は實に粗野な風をして居り乍ら心は實にやさしい

三言つても必ずしも矛盾じやないかも知れませぬ。内面的なものは外面に現はれませうけれども、區別して見た時には斯う云ふ様な對立が考へられるかと思ふのであります。習慣三云ふ様な言葉は外面的な位ですから形式的であります。所謂いゝ習慣三云ふものは何三なくいゝ形三云つた様な事になります。外面ですから形式になるのは當然であります。これこ應じて、性情の方は實質的になります。こんな事を私は習慣三當嵌めて始終考へて居る。習慣は外面的形式的で性情は内面的で習慣は形式的で性情は實質的なものだ三斯う云ふ風に竝んで来るかと思ふ。或は又、習慣は外面的形式的なものであります、其所へ養成する三云ふ言葉がある限りは…さうして善良なる三云ふ言葉がある限りは或一つの規範的なものになつて来る。規範的に對して本質的三云ふ言葉を充てる。

習 慣 性 情

(1) 外 面 的

(2) 形 式 的

(3) 規 範 的

内 面 的

實 質 的

本 質 的

又食物の事を言ひますが、羊羹の切り方がよい三云ふ事は規範的であります。私、お客様に行きます三若い奥さんがちやんと切つた羊羹を出されるけれども、よく見ます三確に物尺あてがを充行つたな、三云ふ事が分る。食べて見る三物尺の竹の勾がする事があるのであります。或人は「御懇意ですから御免下さ」、「三言つて實に積木三は違つた色々減茶々な見るからにおいしさうじやありませぬけれどもこれは庖丁を入れないんですよ。況んや物尺なんかあてがはないのですよ。此の間下駄の寸法を度はがつた物尺なんか使はないのですよ。けれども、羊羹の寸法を度る事はしないが本質的にはおいしいのですよ」と言ふから食べて見る三、きちんとして居るのが水臭かつたり、周圍が化石したりする場合がある。此方は本質的であ

りますがあれは規範的であります。こゝらが規範的、本質的の違であります。あの子は行儀が悪いけれども薄い性質ですよ、云ふ時は此方であります。斯う云ふ風な事ですから、方法の價値から申します。習慣的云ふ言葉は多分に結果的な性質を持つて居ると思ふ。性情云ふのは何所迄も習慣が付いたとか付かないとか云ふ結果的に對する基本的なものじやないかと思ふ。段々暑くなつたりします。家で色々小豆を煮たりする事があります。私は實に悪い癖がありますして、ちゃんと出来てから立派にお盆に盛られて出される前に臺所に行つて一寸やるのが好きです。「まだ駄目なんですよ。何れ結果的にちゃんと出来てから差上げますよ」云ふのに對して「それは其の時又食ふよ。けれども今は煮えて行く云ふ事が、こゝがうまいね」と言ふ。片方で料理をちゃんとして居る。これは私等が臺所に行つて斯うやるのが目立つけれども、皆さんの様に自らやつていらつしやる方は、途中でお吸物などを吸つて見る。「私は料理をしましたから鼻について……」豈計らんや口に附いて居る。

私は、昨日皆さんのが外國の話をされましたから負けぬ氣で外國の話をします。ラインの河岸を船で秋、旅行しました。葡萄の採れる頃……私はさう酒を嗜む人間じやないけれども取立ての葡萄の新酒が飲みたくてたまらない。パリで飲んで居る葡萄酒は、倉から出して来て何年云々言つて古くこつとりとしてたまらなく美味い。少くとも金を澤山拂つて居るから美味しいと思はなくちや贋に障る。何年かの間あの倉の中に入れて置いて、これが本當の味だと言ふ。私、それも結構だけれども、私の様な人間は、斯うちちゃんと結果的に出來上つた葡萄酒が美味しい許りでなく、出來かけの葡萄酒は何んなであらうか云ふ事が一寸興味が出る。色々ライン上流に行きまして、まだ醸成しない、レッテルを貼らない生の葡萄酒を其處へ行くと飲まれる。それはパリのレストランで飲ませる饗詰の上等とは違ふ。生です。澁いです。甘味が出ませぬ。本當の葡萄酒の味ではないでせうけれどもそれで實にたまらなくいゝ所がある。葡萄酒か何うか知らぬが實に葡萄であり

ます。パンミ來ましてね……。その基本的結果的習慣ミ云ふミ「今日斯う云ふ習慣を養ひませうね」ミ約束して來る。私、見に行きますミ皆さんが、「もう一月経つて來て下さい。其の間には習慣をつけて置くから……」ミ言ふ。それは習慣がついて居るが結果的であります。私、幼児教育を實に生々しさに於て何時でも味つて居りますが、私共大人の世界に行けば生々しさがない。立派なものがあつて生々しさがない。幼稚園に行くミ實に生々しい。私は實に嬉しい。實に愉快、實に一分の隙もない、たまらない、實にいゝんです。いゝんですが私時々田舎の娘さんに會ひ度くなる。特定の人がある譯ぢやありませぬが(笑聲)……會ひ度い、その田舎の娘さんは、結果的にはなつちよらぬがいゝ所がある。私の様な贅澤者は……確に贅澤です。パリジャンがあんなんに自慢して居るのを嫌らないミ云ふのは東京から行つた贅澤者のする事ミ思つて居ります。キチンミ出來た習慣を喜ばないのじやない。喜びますけれども。粗野なんじやない……くれぐも申します。ライン上流へわざと私は出來損ひの新葡萄酒を飲みに行くのじやない。これは権り損ひです、権りが足りないで腐りましたミ云ふのを飲みに行くのじやない。實にくくくく。本當の生権りを飲む。本當の生権りミは、斯う云ふものを二十年倉の中に入れたならば本當の葡萄酒になる事をちゃんとミ約束されて居る生酒であります。私が田舎に行くミ、出て来るものが田舎じやあるが田舎的に習慣が附いて居るのを見る。田舎の料理屋で田舎のミスシンガーが私の側に來る時はがつきりする。これは都會のあの出來上つて居るのよりは少しくずれる。けれどもあのおばこ、本當のおばこ……田舎娘に會ひますミ、「なまじ東京に出さないで」とのまゝにして置きなさいよ」ミ言ふ。木曾の谷川で誰も居ない所でおうたさんが歌つて居るのを聞いて、あの木曾の流れで洗練された歌で歌はして置きなさいよ、十年先に會ひに來た時に立派な者になつて居るだらう、ミ言ふ時に安心した生々しさに屬する。「何うもあなたは硬いものがお嫌ひでざろくな處がお好きな様だ。これは少し腐つて居るが……」ミ云ふのではない。

其所でこの結果的・基本的……これだけで何なく習慣よりは性情・云ふ言葉の方が幼児教育に相應しい・云ふ事は分りませう。と思はれゝばこそあゝ云ふ風に變へるんですが、私の言はうとするのはそんなこつちやない。

又問題を元に返して、健全なる心身を發達せしめ、云ふ言葉、善良なる習慣を養成し、云ふ言葉はこれは何うしても繋がらない言葉です。心身を健全に發達せしめ、善良なる習慣を養成し、だから子供が二重生活をして居る。「お母さん、海水浴に來て居る間、善良なる習慣は少しも構はないで健全に發達すればいいの?」、「さうだよ。けれども家へ歸つて海邊の子供の様にして居てはいけないよ。」「今日は誰も居ないから健全なるのびのびでいいの、お客様のある時は……」これが苦しいです。勿論大いに深く行けば——餘り云つた方がいいですね——餘り深く行けば健全なる發達が本當にいい習慣になるかも知れませぬ。これは何うも餘り深い話であります、何うも健全なる發達・云ふ事、習慣・云ふ……外面向的な形式的な結果的なものとは繋りませぬ。これに對して、内面的であり實質的であり、規範的本質的性情の涵養は抑、健全なる發達とは内面的實質的本質的規範的なものでありますから、これは繋がる言葉じやないかと思ふ。繋つて居れば、折角繋つた方がいいぢやないか私は思ふのであります。

其所で私はこの一ぐきりのお話を終りますが、前から色々な餘計な様な問題をごちやごちやとして來ましたが、さて私は斯う今の所で落着いて居ります。健全に發達せしめる・云ふ事、性情を涵養する・云ふ事が必ずしも一方を言へばけれども、二つではあるけれどもその關係は、鹽も買つて來い砂糖も買つて來い・云ふ切離されたる二個の對立ではない。其所に實に關係がキツツあるのだ・云ふ事を言ひます。若し皆様が此の關係をキツツ認めて下さらなかつたなら

ば、善良なる性情の涵養は恐らく何處に行くか分らぬ様に行過ぎて丁ひます。健全なる發達云々事に何所迄も結び付け、結び付けたる意味に於てこの善良なる性情の涵養をお考へになつた時に、願くは幼稚園の性情教育から餘りに濃厚なる事を防ぎ得るのではないか私は思ふのであります。何んなに、立派な性情が涵養されて居るかの如く見えましても、心身の健全性を失つて居るので若し、萬一あつたならば、これは幼稚園の目的には合しない云ふ事は此所から結論し得るこ思ひます。

うるさいですがもう一度申します。發達は發達、性情は性情、斯うしたならば、皆さんの熱心は何所迄も健全にする如く。何所迄も善良にする如く行くかも知れない。これが附かず離れず云ふよりもつゝ密接な關係で繋つて居る、その機微なる點を失はないでお出でになつた時に誤りなく行くこ思ふのであります。私の處に「私の幼兒教育の目的は斯うですが聞いて下さい」こ仰言る方があつて滔々と論ずる。私は「何うも有難う御座いました。さう云ふ目的で、幼兒でなく私を教育して下さいませぬか」と言ひ度くなる。

「いやあなたじやない。これをあの幼兒に持つて来る」と仰言つた時に、「一寸待つて下さい」。私ならその濃厚なる教育を充行^{あひが}はれても其の中へ涵養の形でつけられても私の健全なる心身の發達は阻害されます。もう發達しやうがない。ですから此の上は仕方がない。私自身情なく思ひます。本當に發達するものが止んじやつた。上塗りより仕方がない。上塗りは餘り情ない。ですから、發達じやない、上塗りでもない。妙な造り直しをしようと思ふ。實に苦しい。吾々の様な年にはつて自己の精神に本當の教養を苦勞します時に、發達の自然法則による事も出來ず、上塗りの誤魔化しに落着けないで造り直さなければならぬ。もつと發達する時に、發達に到つて善良なる性情を養はれて來たならば、何も人を恨む譯ではないがさう思ふ。そこで、此の關係を斯う分けたのは、これじや何うしてもあれに結び附きませぬが性情なら結び附

く云ふ所から……言葉のあやじやなくて結び附くから結び附けていゝ私は申すのであります。もう、一つだけきもそれが一つのものじやない。精神を健全に發達すれば善良なる性情は自ら生ずる事である。斯う言つて居られない點をもう一つ考へる必要があります。

これは今日は一つも觸れて居りませぬが、殘されたる問題としてこのお話の中で後で申しますが、こゝの所を一つ考へる。實に、善良なる性情を涵養しき云ふ事は、机の上で善良なる性情とは何ぞや、云ふ事を考へるのはちつとも難しくない。倫理學の本を少し讀んで、必要なる人間の要素を少し證索しましたら大抵見當がつきます。それは落ちたり足りなかつたりするかも知れませぬが、大まかな所は見當がつきます。如何にして健全なる心身の發達に副つて發達して行く可きか。自然なる發達は離す事は出來ないが、それだけではない。善良なる性情の涵養は教育の仕事にある。それが何うだらうか云ふ事が問題ではないかと思ふのであります。

前段に申上げました事をもう一度要約致しますが、前段に於きましたは性情の涵養と云ふ言葉がありました。保育學の言葉としてよりも幼稚園令に使つてあります幼稚園の目的の中の言葉である云ふ事に即しまして、色々な事を考へたのであります。之を考へるに就きまして、身心の健全なる發達と云ふ事と善良なる性情の涵養と云ふ事の、その關係がどんな風であるか云ふ事を見まして、言葉の上から見ますと、之は一方は自然派の教育學的な言葉で、一方は倫理派の教育學の方の言葉である。其の意味に於ては之が二つの別の事の様に見えますが、併し性情と云ふ言葉に重きをおいて考へて、特に便宜上古い幼稚園規則で使つて居りました習慣と云ふ字と比較して考へて見ますと、習慣に對して性情と云ふ言葉がある云ふ色々の特色を持つて居りまして、その特色は倫理的ではありませんけれども——元來が倫理的ではありません

ぬけれども——あの特色に即して見ますと、内面的であるとか、實質的であるとか、本質的であるとか云ふ様な點に於て自然派の——自然主義的の考へ方と、聯絡し易い關係に居ります。其處でこの二つは二つの事であり乍ら關係が立派にして居り、つかなければならぬものではないか、と斯う結論を致したのであります。若しその結論が誤りなし、としまするならば、さう結論する事によつて保育の實際の上にどんな現はれが出て来るかと言へば、保育の濃厚性に對しまして、所謂自然派の方の淡きが加つて參りまして、その濃厚さの餘りに甚しくなる事を防ぎ得るんではないかと云う考へたのであります。更にもう一つさう申して參る、と云ふと如何にも善良なる性情を涵養し、と斯ふ事の濃厚さばかり氣にしまして——如何に淡くするかと云ふ事を考へるのみで、従つて健全なる發達と云ふ事以外に一步も出來ない事であるかの様に聞えますが、さうではない。此處に善良とか性情とか涵養とか云ふ言葉を特に使ふ如く、又大きな考へるべき問題があるのです。斯う申上げたのであります。

この事を更に一寸違つた言葉で言ひ現しますと違つた言葉で同じ事を申しまする、健全なる發達と云ふ事は、先程價值と云ふ言葉を私不用意に使ひまして、皆さんの頭を混亂さしたかと思ひますが、健全なる發達と云ふ事は自然であります、健全なる發達と云ふ事は矢張り價值の問題であります。でその値打、價值、或方は價值とお読みになる方もあるかも知れませぬが(笑聲)、その價值は價值ではありますが、自然價值と云ふ方に屬します。善良と云ふ方は文化價值、自然價值に對して文化價值と云ふ言葉が當嵌りませう。

其處でこの簡単な言葉を使つて先刻の事をもう一度言ひ直しますと、幼稚園の目的は自然價值を大いに發揮する併せて文化價值を忘れる事が出来ない。併し文化價值と云ふものは何處迄深まり、何處迄高まるものか解りませぬが、その濃厚さに對しては自然價值の方から考慮されて行かなければならぬ。さう申して宜しいのであります。

一、性情こころふ事に就て

第一の問題として幼稚園令第一條なんて事を離れまして、性情こころふ問題にぶつかつて行きます。

前の習慣を養成し、こころふ時代こども、性情を涵養し、こころふ事になりました頃ごろ比べまして、性情を涵養しきこころふ方が内面的實質的本質的でありますから、事がやさしい様に考へる人が若しあつたならば、それは大變な間違ひだと思ふのであります。習慣をつける事は難しいが、性情を涵養する方はさう難しくないこころ考へる人があつたら大誤解であります。寧ろ私は反対に斯う思ふ。若し幼稚園令の示して居ります幼稚園の目的が普通に善良なる習慣を養成しきこころふ言葉が使つてあるのでしたら、私共の仕事は極めて簡単です。恐らくこの夏皆様も私もこんな事で汗をかく必要はないこころ思ふ。善良なる習慣を養ふこころふ事でしたら、善良なる習慣はどんな事だらうこころふ事をアラッアラシ調べまして後はまあ何ごか習慣をつけさせへすればいい。家の子供が高尚であるが、習慣をつけるに何ごうするか。家の子供が亂雑であるからキチキチンこころさせます。まあ皆様が電氣アイロンでも御かけになります様な事で済んで了ふ。所謂膳方なんかこころふ事で済んで了ふ。それが性情の涵養こころふ言葉になつて居るので實に事が難しくなつて居るのであります。

もう一度先程の習慣こころふ性情について並んだ様な形で考へさせて頂きますが、習慣を養成しきこころふ意味の、今度は養成するこころが涵養するこころが保育の實際について問題を考へるこころ、習慣こころふこころ之は餘程機械的な事であります。機械的であります。何ごう云ふ習慣がついた、つかないこころふのですから機械的であります。方法も機械的になるかこころ思ふ。之に對して性情を涵養するこころふ方面は餘程機械じやなくて——勿論習慣こころふで人間の場合に本當の機械じや出來ないのであります。

すが——餘程機械的であります。性情の方は一層生命的であるかと考へられる。いゝ習慣をもつて居る云ふのはいゝ生活の機械的訓練の下に置かれた云ふても済むのであります。善き性情を持つて居る云ふ事は機械的訓練等では到底養はれませぬ。で其處に如何なる生命が涵養されるか、生命が主となつて動いて居るか云ふ事に歸着致すと思ひます。それから又習慣云ふならば、之は物理的と言つても宜しいかと思ふ。帽子にも習慣あり、手袋にも習慣あり、履き慣れた靴にも習慣あり。即ち物理云ふものは繰返す事によつて或一定の形をさるもので物理的のものである。之に對して性情云ふのは何うしたつて物理ではないので、何う云ふ言葉を使ひませうか、精神云言ひませうか、心の問題であります。又所謂キチーと行かぬ問題であります。又之をその機械的なるもの、物理的なるものを養成するに就ては、所謂方法的な行き方で行けると思ひます。習慣養成法云ふものは實に方法的であり、メソドロジカルな行き方で行くと思ひます。之に對しまして性情を涵養する云ふ處はどうも單純な方法では盡せませぬ。生命的にして精神的なものを造り出すのは方法じや出來ませぬ。之は甚だ曖昧な言葉でありますけれども、方法に對して假に生活的云ふ言葉を使はれます。習慣は生活を無視しても造られるかも知れませぬ。機械的なる物理的なるの習慣は生活云ふものを考慮せずして生活の中を離れて造り得るかも知れませぬが、性情の涵養に至つては生活を離れては絶対に出來ませぬ。若し皆様が習慣養成の方法として御研究になります場合ならば、一定の時間一定の方法によつて繰返して行きます時には或習慣がつかぬこも限りませぬが、性情に於てはそれで出來たものじや矢張習慣であつて性情じやない。實に難しくなつて來るのであると思ひます。即ち之を要するに習慣養成は簡単である。性情の涵養は極めて複雑にして機微なる細やかな複雑にして機微なる趣きを持つて居るものであるこ斯う致したいのであります。さう申し得るかと思ふのであります。

其處でさう云ふ事を考へました時に、この性情云ふ言葉を何う云ふ風に考へて行くか云ふ事が却々容易ならざる問

題になります。

一寸此處で又餘計な事を一つ挿まして頂きます。幼稚園に限らず教育の研究の場合に於きまして、體育智育德育云ふ字は妙な言葉ですけれども、まあさう分けて見まして、その體育智育の事を考へます時には比較的自分云ふものを退けを如何にして丈夫にするか云ふ様な智育體育の問題に關する限りに於ては比較的教育云ふ事だけを考へれば済むんであつて、自分云ふものを離れて考へられるかと思ふですから自分が教へるに足るだけの知識を今持つて居れば智育が出来るかも知れませぬ。體育に關する原理をさへよく知つて居ればドン～～出来るかも知れませぬ。それでもですね。さう云ふ智育體育の場合でも教育が本當に旨く行きますには自分云ふものが他に關係して来る様です。可笑しな話ですが數學なんか習つて居ります時に、餘り數學の天才的な先生に習つて居るゝ解りませぬ。何故ならば其人には一般の人の問題になる事が問題にならない。ですから考へて居て「斯う～～～～あゝ」こやつちまふ。之は習つてゐる方でそれを寫しておく事は出來ます。本はさう云ふ數學の高級な學術研究者の書いたのがいゝのですが、習ふゝなるゝ私なんかは數學教授者になりましたら最も適當なる數學教授者であるゝ思ふ。凡ゆる數學の問題が生徒よりも私の方が難しい。ですから此處が解るまい、之が解らない、斯う間違ふかも知れぬが、斯うなるんだよ、云ふ事が生徒よりも私によく解つて居りますから、實にいゝ教授が出来るゝ思ふ。唯殘念なる事に餘まり私が餘まりいゝ教授者である爲に「難しいよ。難しい。此處は解らなくて困るね。さうも矢ツ張解らぬね」云ふ事じや數學教授にはならない。實に困ります。偉い天才是「解らぬ事あらむや」こすうこやつて了ふ。解らぬゝ「何故解らぬのか」云ふ。「何故之が解らぬのだらう」云ふ。私なんかの場合は生徒よりも先に解らないから生徒より先に「さうかな。一層僕には解らない。困つたな」常に數學の時間は涙をもつて

終るのであります。之でも困るけれども、どうも作文を直します時に、文章の非常に旨い人、天才的に文章の旨い人は人の文章を見て、生徒の文章を見て「なつちよらん」直してやるより俺が書いてやる、其方が非常に早い。處が之は數學の場合に少うし違つて「成程書難いね〜」、「こ言つて、ぬつたり書いたり、書いたりぬつたりして居れば、大變な事になつてゐる。唯作文を直す先生が自分でも文章の苦勞した事のある人に就て、自分は斯う書いちまふが、之が自分の悪い癖だ。自分には斯う云ふ文體の癖がある。斯う云ふテニハの使ひ方がある。長くなつたり短かくなつたり、自分が書いたものを寝かしておいて明日見るこ解らなくなる時がある。さう云ふ苦勞した人は「あゝ俺も同様に間違ひをして居るな、斯うよくやるんだが此處は斯うしなければならぬ」その書方の相手に何う通ずるか云ふ事に就ては、其處の處、實に自分が苦勞して居りますから人の文が直せるこ云ふもんぢやないかと思ふ。智育であつてさへも、自分が忘れ易いこ思へばこそ、向ふの人も忘れるもんだと思つて二度のものは三度三繰返しく私なんか餘まり察しがよすぎて屢々皆さんに失禮をするこ思ふ。私が考へ乍ら話して居るものですから——決つて居る事をベラ〜言ふのならば何でもありませぬが——考へ乍ら話して居るものですから、お解りになるまいかと思つて……の中に何パーセントの頭のいゝ方は二度目から居眠りをしていらしつてもいいこ思ふ。又新しい事を言ひ出したらバッヂリなさればいい。甚だ失禮な事を言ひますが、知識的の教育もさうじやないかと思ふ。之は誤りか誤りでないかはつきり解つて居るんですからドン〜やつて行けばよい。

けれどもこの性情の教育なんて事になつたら自分自身が性情の問題に就て悩んで居る人でなければ到底出来ませぬ。スマラ～～～～ミ自然的の發達が、即ち聖人君子にひきりでになつた人には性情の教育を人にすることはさうも難しい様です。又自分自身が性情の教育なんて事に、人を教育する爲にこそ、善良なる性情ミは何ぞや、ミ云ふ事が問題になつて来る。自分の生活にミつては善良なる性情を生れてから考へた事も悩んだ事もないミ云ふ人にはこの問題は徹底的に取

扱はれませぬ。私は常に申します。幼稚園教育者に限りませぬが教育者にあつて、完成したる聖人君子、德高き人でなければならぬことは私言ひ度いんですが言ひ度くないんじやないんですが——言へない。「何故か」ご御聞きになれば、若しさう言つたら私はさう言つておいて直ぐに濠に身を投げなければならぬ。自分が死なゝくちやならない。それは言へない。聖人君子ならましかば、ご思ひますが、かば、もいゝがばかでも済む。唯自分が苦勞してりやいゝご思ふ。苦勞してない人間には、今迄苦勞をした事のない人には教育は全然出来ませぬ。斯う私は言ひ度いんです。幼兒教育に就て何故本當に幼兒の身心の健全な發達を計りつゝあの性情の、あの自分でも苦しくて悪い事をして居ります子供の其處の心根に觸れて行く事が出來ないで、本當の性情の教育が出來ないがご云ふのは、先生が多分のんきだからだご思ふ。辛うじて物理的に生活を訓練し機械的に生活を訓練し規範的に生活を訓練し方法的に自分を律して何時の間にか卒業して居る人だご其處が旨く行かぬのだご斯う私は考へる。其處でこの性情の教育ご云ふ今回の悩みは、私は誰方かに御目にかゝつて今度は兼ねて研究して居る事だからお前の話を聞きに行く」と一月ばかり前に誰方でしたか仰有いましたが、其時私は「今度は幼稚園の話だか何ですか解らないんで……何うかその御心算で」此間そんな事を申上げました。一昨年は保育法の眞諦を申しました。爾來私は「眞諦さん」と云ふ「布袋さん」の弟分?「眞諦さん」(笑聲)「眞諦さん」之は方法論なんですから樂なんです。けれども性情の問題になりますと、どうも其處ん處が實に——方法は教師が幼兒に、幼稚園ご云ふ場所で斯うして行くご云ふ條件内の問題ですが、性情ご云ふ事になるごその條件なんて事より、もう一つ奥に問題があります。其處でまあ何うかお聞き下さる場合には何うか、そのまあ、幼兒の事ご、自分の事ご、私は皆さんに道を説かうとして居るんじやありませぬが——そんな事をすれば罰が當ります。眼が潰れます——性情ご云ふ事自身がどうもさう云ふ風のものですから、自分を退けておいて理化學の實驗でもする様にやつて居たんじや解りませぬ。^{さつき}先刻淡くごか濃くごか言ひました。何ごも言

へないと言ひましたのは其處であります。理科の試験をして居る人は何度も言ひませう。淡く言へばさうも性情がしつこいね。私は親切な人間だがしつこい。濃厚さ云ふ言葉も出ました。私は人を妨げない人である。人の邪魔をしない人である。だけれども私に冷淡さがありやしないか考へた事のない人でない淡さの問題が解りませぬ。だから其處の處は兎に角私も自分の事しか言へないんです。言へないんです。

其處でさう云ふ事を一つお含み願つておきまして、一體性情云ふ言葉はこりやあ何だらうか。心理學には性情云ふ様な言葉は餘りないでせうと思ひます。あるかも知れませぬが。殊に私共この不可ない事ですけれども學問上の言葉を外國語のキチツとした言葉に當嵌めて之は違ふ、なんて事を當嵌めて之は何の外國語に當嵌まるか、なんて餘計な事ですけれども、自分の持つてない目安で、物差を持つて來てものを計り易いのですが、性情云ふのはどんな言葉に當るのか、其處の處が私よく解らない。唯私こんな風に考へて見たんです。性情云ふ字は「人情」も書いてないし「性格」も書いてないし、何だかかう兩方くづけた様な氣持がする。其處でですね。こりやあ決して結論じやありませぬ。色々御意見をも伺ひ度いと思ひますが、一應は斯う云ふ風にして考へて行つて見度いと思ひますのは「性格の情的要素」斯う考へた。「性格の情的要素」この性の字を活かして性格の情的要素、或は之を方面と言つてもいいかも知れませぬが。何方でも宜しい。性格の情的方面でもいゝ。この性の字と情の字を何うかそんなにするこじつけが旨く行きます。性情云ふものが教育の目的である事は之は一致して居ます。如何なる教育と雖も其人の性格を如何にするか云ふ事は、最後の目的とする者はありませぬ。それが赤坊の教育であらうとも幼兒の教育であらうとも少年の教育であらうとも青年の教育であらうとも、大人の自己修養であらうとも、死ぬ迄變りませぬ。人間の修養の目的は性格であ

ります。キャラクターであります。その他に教育云ふ言葉を使ふのが可笑しいんであります。幼稚園の目的は性格を教育するにあり、と言つて誰も非難しないです。勿論幼稚園だけじゃないんです。教育云ふものは何も幼兒の教育は幼稚園で済んで了るものじやない。教育は常に何處を、何の年齢を相手にしようとも其人の一生を考慮して居るのが教育的考慮であります。其處に皆さんは幼兒を預つていらつしやるから、此の子の一生の性格教育を日夜していらつしやる事は勿論で、「まあ性情だけ教育して出しちまへばいい。出しちまへば……。後は後で何うなるか知らぬ」云ふ事じやない。

此の子の一生の人間としての教育をする爲に只今の教育的方面、教育的要素に重きをおいて居る、斯う云ふ事であります、性格が感情ばかりでない事は勿論、色々な複雑なものから出来て居ります。其中で情的方面を重きをおいて居るんだ、斯う云ふ意味に解釋していくかこしませう。性格には意志も這入つて参りますし這入つて参るんじやない。意志が性格の中心であります。青年教育に於ける性格教育は恐らく意志を中心致すのであります。その意志の教育に對して少年期に於て既に徐々にこの方向に向つておさ／＼注意怠りなき教育が必要であります。幼兒期に於きましては意志の問題は私の一刻も忘れざる問題であります。幼兒期に於ける意志は感情要素が非常に密接にくつゝいて居る意志要素の様であります。——凡て分ける——分類して比較したくなる拙い癖になつて居るんだありますけれども——其處で意志を忘れて居るんじやありませんが、情的要素方面を、此處の處では先づねらつて居るこ申して宜しいと思ひます。知識の如きは性格の上に於て餘程重大なる問題である。「彼は偉大なる性格者にして併乍ら無智である」なんて事はさうも言へない譯であります。頭は悪いけれども性格がいゝなんて事は、性格がお尻か何かにがらさがつて居る様です。さうも其處に於て知識云ふものは大事です。大事ですけれども今は幼兒期に於てはもう少しゆづくりした態度で掛つていゝじやないか。斯う云ふ風な意味から性格の情的方面を、幼兒期に於て、性格教育の爲に重んずる。幼稚園では性格の情的方面をや

るだけだゝ頼まれて居るんじやありませぬ。性格教育の爲に、その性格教育の爲にその情的方面の教育をやるのであります。更に改めて申す迄もない事であります。その情的方面こそ後に至つて眞實に養ひ難いものであります。情的方面、あれは先程申しました身心の健全なる發達の自然の中に於てのみ本當に養はれるものであつて、自然の發達の止つた私なんかが今更感情教育をしようたつてさうも出來ませぬ。鉢巻をしたり、裸をしたり、歯を喰縛つたり、意志の教育をする事はあります。之は未だ却々頭がまるきり駄目になつたのではありますぬから、勉強して意志を鞆間に致しますが、情的方面は何うにも斯うにもなりませぬ。固つて了つて、溶かさうと思つて水を入れたりするこ水の感情を交る、かき廻しても本當にかき廻らない。美はしき感情の側に居て何ご私には感情が傳はらないんでせう。花について美しいと思ふ心は起りましたが昔より減つて……減りやあしないんですけど、殖えやしない。さうも感情は身心の發達の時期に於て養はなければ到底出來ないこ云ふ事は言へ様と思ひます。さう云ふ意味から言ひまして性格の情的要素こ云ふのが性情であるこ斯うして置きませう。

その情こ云ふのはまあ心理學的に言へば、感情であります。今申しました意志だの知識こ並べて言ふ感情であります。感情こ云ふものは心の中だけで、何だか知りませぬが、こつちの經驗であります。此方の經驗でありますけれども、感情の種類こでも云ふものをまあ分けて見ようこすればこつちの中だけで種類を分ける場合もあります。けれども大抵は他に就ての感情こ、斯う云ふ事でものに會へばそれにぶつゝかつて行く。それで把握して行く。感情は反應でありますから、感情反應は何もので反應して居るかこ云ふこ、種類分けをして行く事が便利の様であります。本能なんかを心理學で御承知の如く見ますこ云ふこ、實にその中に色んなものによつて反應する力が本能の中にあります。この運動本能が教練を經ました大人の人間の場合におきますこ、大きく分けて私は何こ申しますか、適當なひこりで

に言ひ現はす言葉がありませぬが、形式感情云ふの實質感情でも云ふ言葉を使ひませう。之は心理學者が使つて居る言葉であります。形式感情云ふのは何う云ふのかと言ひます。形式的のものに反應する。形式的な事に反應して行く場合、こんな事を抽象的に言つても理窟になりますから、不完全乍ら具體的實例で片付けますが、花を見ていゝ恰好であると言ひ、いゝ色であると言ふのは形式感情であります。つまり感覺的な方面等に結びついて來ます感情を感覺感情と言つたりしますが、餘り細かく分けますごちやくしますから、私、形式感情と言つて了ひます。所謂皆様がよく藝術的情操等云ふ事を仰有ります。藝術的情操云ふ事は明後日あたり大いにいぢくり廻したい言葉であります。藝術云ふものに對して感情の所謂美云ふ様なものに對して感情の淡い人、鋭い人あります。實にものを食べても旨いものを食べても平氣な人もありますし、美しい繪を見て、何うでもよい人もありますし、一寸この色が斯うなつても氣になる人ありますし、要するに色なら何でもいゝ人、食物なら何でもいゝ人あります。之は藝術なんかに對しては形式的感情の發達、私は斯う言ひ度いのであります。勿論間違へちや不可ませぬ。例へば高い藝術家は形式感情だけ發達して居る云ふのではありませぬ。藝術家として普通人より違つて居る點に於て美云ふものを感ずる形式感情が發達して居る云ふのではあります。まああの色んな事に關する通なんかを言ふ人、或は通人を以て任ずる人は形式感情の極端に至つて墮落した様なものであります。詰りまあ何ですね。美とか趣味とか云ふ事に大變優れて居る感情であります。この形式感情云々とんで實質感情とは何かと言ひます。人間に云つて最も實質的なものは自分似たるものであります。自分似たる實質が最も本當の實質であります。自分似たる實質が最も本當の實質であります。自分似たる實質が最も本當の實質であります。自己相似の實質であります。藝術は人間を離れるものか何うか知りませぬが、離れて居る。私この間私の子供の机の上に夏目漱石さんの「草枕」が置いてありましたのでひさしぶりで讀んで見ました。あの書出しの數頁は小説の形に書いてある

が、大なる美學論、夏目先生の美學論でありまして、一番初めは何でしたかな、知に働けば角が立つ、情に棹させば流される。意地を通せば窟窟だ。こかく人の世は住み難い、何處へ行かうか、何處にも行く處がない。つくづく行く處はありません。行く處がないんだ。人間の中に居乍ら人間の住み難さから超越して行かうとする處に美が生れ、詩が生れ、美の世界が展開して行く。その繪が生れ、詩が生れ、美術が出る、云ふ書出しうまうてひに行つて、あの草枕の主人公「お何さん」でしたか。「お何さん」の最も極致なる現れは、非人情であります。あの草枕の中を歩いて居ります。畫師ゑがきは人情から離れる、無人情じやない。不人情ではない。不人情とは實に人情の極致ですからね。不人情は人情の非常なる極致であります。私の様な餘まり普道の人情に浴くし過ぎて居る者は不人情なんて、扱ひに病的人情感を味はされて居る。それじやない。非人情、人情に非ず、非ざるその非人情で、畫師ゑがきが雲雀を見ても、其處らの花を見ても、氣狂ひの女を見ても非人情かなと思ふから人情になる。で、その中に美を見るんです。畫師は非人情で通さうと思ふんですねけれども、矢張り人情になる。斯う云ふのである草枕が出来て居ります。まあ若しお読みになつて居ない方がありますたら、よく讀んで非人情論を研究して御らんなさい。皆さんその草枕を御存じだらうと思つて例に引いたのです。美學の本を見れば澤山書いてあります。美云ふのは非人情だ云ふ事で説明出来るか何うか、美學の論は此處こゝで申しませぬが、妙なくもさうふ風な論は多い。さう云ふ方面もあります。其處でその非人情云ふのは何でせう。向ふに對して情がないと見るんでせう。此方の情を自分と同じ情を向ふに入れないのでせうか。此方も入れないんです。此方の情を入れたならば、人情になります。人情になります。皆さん御綺麗な方ですから色んな人が寄つてたかつて愛を囁くでせう。よく御注意になりますが宜しうござります。老人は御注意申上げます。皆様の御器量を見て美的感情で皆様を禮讃して居る人があるかも知れないと。殊に皆さんは人の美的感情を喚起すべく種々に御苦心になつて居る方もある。私の様な美的感情の餘ツ程發達して

居ない人でも、あゝ迄やられてはつひ繪でも見る様な感じが致します。その美的感情の外に人的感情云ふものがあります。人的感情、人間感情。そこで此處の論を長くして居たら限りありませぬから、この性格の中に情的要素云言つて之は美的形式感情であらうか、人情だらうか、云ふ事だけを考へる。私は此方を人間感情の方だとしたいのであります。私がしたいんじやない。當然皆さんもさう考へていらつしやると思ふ。ですから性情云ふ言葉は性格と比べて見ればその感情要素だ云ふ意味にこつて宜しいかと思ふ。感情の色々な種類云ふ中からこの位置をつきつめれば人情的要素だ、斯う云ふ事にして宜しいかと斯う思ふ。之は改めて申す迄もない事であります。皆様が教育していらつしやる時に皆んな之だと思ふけれども後に私が觸れ様と思ふ藝術教育とか、藝術情操とか、藝術方法とか云ふ問題が幼稚園の中に大いに行はれます時に、この處餘程はつきりした聯絡をこつて置かなければ不可ないと思ふのであります。之で性格に就てのお話の第一段を終ります。

まあ便宜上性情云ふのはこれから考へて行く上に何とか決めて置かないぐらへしますから、皆さんの御意見は今度何處かで講習會をやつて下されば拜聽に行きます。今日からこの一週間ばかりの處ではさう云ふ風にこつておきませう。

其處で第二段の次の問題はその性格の情的方面です。その性情云ふのは性格の中に於ては何う云ふ役廻りをするものであるか。何う云ふ要素であるか、云ふ事は済みましたが、その性格的生活——生活しない性格はありませんから——生活する性格は何う云ふ役廻りをするもんだらうか、云ふ事を考へ度いと思ふ。この役廻り云ふ言葉が適當であるか何うか知りませぬが、まあさうしておいて考へますが、その役廻りと思はれます幾つかの中の第一は何と申しませうか、

この普遍性の役廻りをする。それから普遍云ふのは横に擴がつたのであります、普遍を縦におき換へますれば永久的、永久的云ふのは甚だ可笑しな言葉であります、當時的、常云ふのであります。永久に何時迄も長い事横にも縱にもその性格である云ふ事が不變性を與へて行く大きな役廻りをするんだ、斯う思ひます。私の性格は生活云ふものゝ價值に就て見ます、意志的知的の方面によつて色々な事で隨分變る様であります。十年會はざる人に會ひました時に「あの人も性格が變つたね」云ふ事は屢々あります。ありますが、その變り易いものは變る事もいゝ。之は意志云か知識云か云ふ方面であります、其人の性情云ふものはさう變りませぬ、性情に基く限りに於ては「一寸會つたら大變變つた」と思つたけれども、君云半日一緒に居て見たら矢張り、昔の君だね」云ふのは大層學問して大層世の中を廣く渡つて、苦勞して意志も強くなつた。「こんなに偉くなつたか」と思つたが、なあに矢張り、昔の君だね」云ふのは、その性情的の處じやないかと思ふ、その反対に「あんな悪い事をして今じゃ手もつけられない悪者になつて了つたけれども、しつくり會つて居る時に『矢張り、相變らずのあの人だね』云ふのは意志じやない。知じやない。情的要素だと思ふ。性格的情的要素である。その性情云ふものは性格教育云ふ大なる仕事の中で言つても大なる役廻りをして居るものであります。大なる役廻りをして居るもので、不變のものであります。不變のものである云ふ事は、唯變らない云ふだけで、端から見たんです。變らないものである云ふ事は他處からひきりでに變らないものだ云ふのみならず、自分で變へようと思つたつて却々變らぬものだ云ふ意味も這入つてゐる。先程から申します如く自分で自分の頭を一ぱいの知識を出さうと思へば出せる事もあり、意志の力を働かさうと思へば働かせる。自分の性情を何う變へよう云ふ——今の性情ですよ——今の自分の持つて居る各自の性情を變へよう云ふ事は却々難しい。勿論所謂、率直云ふか、馬鹿云ふか、自分の性情が粗末なのも氣が付かず暴露して居るあさはかな人もありますし、それを大變に氣を付けて抑へて、大い

に隠して繕つて居る人もありますから、一寸した現れは色々違つて居りますけれども、私が此處で言ふのは、自分が氣が付いて自分の性情を斯うだらけたならば、本當の意味に於て其人の性格の情的要素ではなくなるかも知れないと言ひ度い點であります。自分の性情が解る、解らぬ云ふんぢやない。解らない處に自分の性情があるのぢやないかと思ふ。皆様は悉く意志によつて自己を操つていらつしやる處の方かも知れませぬ。自己操りの大家でいらつしやるかも知れない。自分の心の中に無限のスヰッチを持つていらつしやる。さうしてちよつゝこなさる事の出来る方であるかも知れない。
さう云ふ方から考へますと、自分で何うする事も出来ない自分はないと言ひじなるかも知れませぬが、自分で何うする事も出来ない自分があります。自分で何うする事も出来ない様な自分と云まものはそれを遺傳でござるの本能でござるのと學問で説明して片づけて了ふ人もありますけれども、さう云ふ事も要素になつて居るかも知れないが、之を要するに其人の性格の情的要素であります。之が實に根本的であります。性情を涵養するとは其處迄の深さのものを云ふ意味であります。従つてそれに對する方法の問題も別の事かと思ふ。それ實に深刻であります。が、實に一番その自分の性格の不變の要素になつて居ります自分でも何うする事も出来ず、自分でも恐らく氣がつかぬかも知れぬ。自分の中にそんな自分が居るかと云ふ事を考へて見る云々凄いものですね。この外には居りませぬ。居たつて斯うやつちやふでせう。自分の中にそんな自分が居るかと云ふ事を氣をつけずに來て居る。實に樂天的ですね。併乍ら「やあ」と言つてまあ自分の中にこんなものがあると云ふ處を氣にして押潰して居る人も之も詰らないですね。その所謂性格の情的要素であるその深いものを幼児教育に於ても涵養しよう。善良なる性情を涵養しよう云ふ事をもつて深く考へます處、其處にあるのであります。其處でさう云ふものであります、之が其人の自分でも氣が付かないし、人にも氣が付かぬかも知れない根本、その一番根は本あの西洋の小説にはさう云ふのが澤山あります。ロシアの小説には澤山ありますが、殊に「カラマゾフ兄弟」を御讀

みになりましてもそれあります。トルストイ、ドストエフスキイの小説を本當にお読みになれば自分でも何うする事も出来ない自己^こ云ふものにじよつちう脅かされて居ります。皆さん御承知でせう。「レ・ミゼラブル」も其處を書いたものであります。さう云ふものが何處か^{そこ}にある。あの人人が何をしたの、何をしないのなんて事じやない。行ひなんて事じやありません。行ひなんて事じやないんです。「私は今日も、今日も法律に觸れず^{あらず}に盡しました」。「今日も道徳上の惡を致しませぬでした」、「今日も心でさう別に不都合な事も考へた事もない」ですから私の心^こ云ふものはそれで凡てが済んで居るか^こ云ふ^こ何うだか解りませぬな。實に何うだか解りませぬな。その處を私一昨年でしたか、一昨々々年あたり彼方^{あの方}の講堂で矢張り性情の問題を題目^こしました時に「こゝろざまのありやう」^こ云ふ言葉を使ひました。あの時は萬葉を主にして考へたものですからいやにあんな言葉が多くなりました。「心様の有やう」、「ありやう」何うにも出來ない「ありやう」で、變へたら「ありやう」でなくなります。變へたら「ありやう」じやなくなります。その心持の「ありやう」、「心様のありやう」之が詰りその人の最も不變な眞實性であります。その眞實性^こ云ふ事をもう少し外の言葉で説明し直します^こ意識の加つて居ないものだ^こ言ひ度いんです。性情^こ云ふものは意識の加つて居ないものである。性情^こ云ふものを正面から言ふふ^こ難しいですから一寸ほど斯う云ふものでない^こ云ふ事を申しておきます。意識の加つて居るものは性情でない^こ思ふんです。

意識の加つて居ない、^こ云ふのは何う云ふ事でせうか。此處で言つて居ります意識^こ云ふ事が單なる心理學的な意識^こンシヤスあの意味でない事は明らかであります。その意味で意識の加つて居ないものが性情である^こ云ふのは「寝て居る時より性情はない。何うもあの人は性情の豊かな人で何時會つても寝て居る。渾々^こして寝て居る」^{さう}云ふ事がありませう

か。酒なんか飲んで意識が渾沌として其人の心様のありやうが出て来る。本能だけ出て来てあられもない事をやる時に意識の消えた時にその人の本當の姿が幽靈の様に出て来る。「あゝ」と見る事がある。コンシャスと云ふ事も矢張其處に一つの性情の出方、現はれ方に關係して来ますが、私はセルフコンシャス、自分と云ふ意識、自分と云ふ意識の加つてないものだといふ事が言へるゝ思ひます。自分と云ふ意識の加はります生活は自分と云ふものゝ意識、自己意識が加つて参ります。その生活は即ち自省、自ら己を顧みる。自省とも内省とも反省とも云ふ言葉で當嵌めて居ります。其處で自己を反省して自己を反省して、自分で自分を批判して「斯うあらねばならぬ」と自分で自分を律してその結果其處に造り上げて居りますものは本當の性情じやないのです。嘘と云ふ譯じやありませんよ。人前で飾つて居るゝ云ふ譯じやないですけれども、自己反省で出来る大事な事です。私はまあ何とか自己反省で自分を繕つて居る人様に御迷惑を掛けないのは其爲でありますが、それは道德的生活の大切さであつて性情なんかと云ふしつこりとしたものじやない。性情と云ふのはもつこしつこりとした、しつこりなんだか知りませぬが。私は朝寝坊なんです。八時に來るのにまあ一ぱいで寝坊であります。寝坊の癖に私は偶には朝早く起きた経験もあり、殊に夏の朝の日の出の前の空氣に觸れ度いのが私の趣味なんです。之は夏と云ふものの、一番樂しいのは日の出る前の——冬の日の出る前もありますが——夏の日の出る前は特別の味がある。其時に起きますと、何と云ふか、しみぐゑと云ふか、しつこりと云ふか、赤い日が出るゝ變つて来ます。風が吹くゝ變つて来ます。扇風機をかけるゝ尚變ります。水柱を置くゝ尚變ります。何にもない。あの朝の太陽さへもない。出て居るんですけどがない。その影響は激しくない。あの時、露が喜んで居ります。私が偶に起きて見ますと露が矢張、ほんの一時、乾いて了ぶ。私も乾いたらまぶ。私の自己意識と云ふものが夏の朝のあのしつこりさを損つて仕舞ふ太陽の熾烈な光の様な氣がする。太陽が出なければ大變です。出ればこそ夏の朝の色彩の面白さがあります。あれ、すぐでは色彩の美しさはありません。唯しつこり……こんな顔したつ

て駄目です。日中は暑くて閉口ですが夏位ものゝ色の美しく見える時はあります。春なんて云ふのはあれは誤魔化しです。安繪具をつて居る畫師です。本當の色彩の綺麗さはない。「春こそ好けれ」なんて誤魔化しです。本當の紫、本當のカーネーション、カリホルニヤの色彩、南洋の色彩を知らない人が何だか、あのぼううした言ひ方しか出來ない人が春は美しいと言ひますが、實際、色を色として形式的美的感情の極致に美を見よとする。つひ自己を反省すればこそ、私の行はねばならぬ事は、夏の日の如く、夏の自然界の如くつきりして居ります。私は透間なくつきりして居る。其處で睡魔が襲つて来てぼやける。疲勞が加はつて来てぼやける……。處が性情と云ふものはそのくつきりさはないんです。自己意識が加はりませぬからくつきりさはない。だから何だか斯うしつきりして居る。私は又後で幾度言ふかも知れませぬ。自己意識だけで生きてる先生にあの幼児の性情が何う取扱はれるか。私はぞつこする。中には自分の性情が全く空っぽで唯僅かに理論的に道徳を論じて大層自分が偉い様な考へをもつて、幼児の道徳教育をなさるならば、宣しうございますかね、幼児にあのしつきりした性情涵養をなさらうとする時、私は端で見て丸太ン棒で琴を搔廻しての様な感じがする。實に恐ろしいと云ふのは勿論、自己反省も何にもない幼児の前で、何時でも心様のありやう「あ」となんて顔をして居る人出来るとは言へやしない。そんなのは問題外です。そんなのは問題外です。可からず。べからざるなり」と言つちまつて道徳的完成——出來上り——そのしんみりした性情と其處の處は隨分道徳教育の中に於て間違ひが起り易いと思ふ。幼児の生活を見て性情のしつきりさに觸れないで「この間言つた事と違ひますな。可からず。べからざるなり」と言つちまつては、實に「なきざる可からず」……。あら困つちやふなんて事で済んで了ふ。其時に其人の實に自己意識だけが出て居る。道徳生活の大まかさ、荒つぱさ、ぞんざいさ粗雑さ、實にしつきりとは餘りに違つて居る事が其處に出て来る感じられるのであります。私自ら悩んだ経験、道徳的と云ひますか。性情的に苦勞した事のない——他の事に就て苦勞をした

のでなく——自己に關する限り苦勞をした人でなければ、性情の教育は出來ないこ申しましたが、自己反省の惱みを持出して「あゝ貴方を叱らう」と思ふけれども、己の罪を感じて叱る事は出來ない」心ではさうですが打明けたらいゝこ云ふのではない。さうじやない。確かに性情が出來て居る。その性情こ云ふもので自分の自己反省の間に生ずる色々なものを持つちう感じて居る。其處だけなんです。處が此處にまだもう一つ問題がある様であります。自己反省の餘まり鋭い人は始終悩んで居ります。青い顔して……。青白き夫子……。惱んで居る。その他の事で惱んで居るんぢやないんです。人に對するコンモンセансの、不合理の惱み、勉強しないで惱む、そんな事こ交せちや不可ませぬが、そんな事の惱みは事極めて簡単。處がさう云ふ惱みこか、斯う云ふ人があるんです。人があるんぢやなくて斯う云ふ事があり得る。この惱みこ云ふんぢやないんですが、それは人間、動物として色々關係が出来る事なんですが、自己——その何こ言ひませうか——自ら自分を象つて居る人があります。妙な言葉で、そんな言葉は何處にもありませぬが、自省こ云ふ言葉がある様ですから之を便宜上、自型こ云ふ言葉を使つて見ます。型こ云ふものが自分以外にある。自分外にあつてそれに自分が入れられるのでありますが、それは外の型に入れられる。私も本當の私、何だか解りませぬ。何だか解りませぬな。大變型に嵌つて居りませう。色々な鑄型の中に身を置くもんですから、平たくなり時には丸くなり、時には色々の場所、その場その場で感じを出して色々型を變へて行きます。處がその他處の型は其處に行きやあ、型が決つて來ますから變らなきやあ不可ぬですから、自型こ云ふ自分で自分を自分の型に入れちやふ。臆劫です。こんな事手數ですが、其處で自分こ云ふものだけ、自分の型の中に入れて了ふ。自分の性情が型になるんぢやないんです。自分で自分を象つちやふ。自分を修正して居る人は動搖しますが、自型に這入つて居る人は落付いて居る。「私はもう斯う云ふ人間なんです」こ落ついて居るんです。銳く言ひますこ自己欺瞞です。ロシアの小説の人間の見方は人間が人間を欺いて居る。欺くなんて云ふのは人が言つ

た事ですが、型に這入つて了ふ。私はあの鑄形に泥なら泥を入れまして泥が丸くなります。其時に恐る／＼泥に言ふんです。『之は型に這入つたから丸くなつて居るんだよ。君が丸いんぢやないんだよ』泥によつては「えゝさうです」と云ふ。何うしてもある時期自分で——自分で——泥なんかには出られないんですから、處が自分で自分の型に這入つて自分はさう云ふものだ。決める人がある。「ちうも私の性格は悪くつて、悪くつて」云ふ人があります。「あゝさうですか。さうですか、よく御承知でいらっしゃいますね」云ふ話が大抵済んで了ふ。御承知なんぢやないんです。型を見たんです。自分を型で見たんです。その自分を型で見た自分を云ふものを型に入れる。この頃は澤山そんな人が居ります。「吾こそ道徳者であり、吾こそ日本人であり、吾こそ教育家であり」自ら型に這入つてこんなになつて居る人が澤山あります。斯う云ふ人は動搖して居る人よりはいいんです。教育者には澤山ある。あの何とか云ふ型に這入つたアイスクリームがあります。アイスクリームまんじゅうか何とか溶けなければいゝんです。アイスクリームまんじゅうか何とか何とか溶けなければいゝんです。教育者には澤山ある。斯う云ふ人は其人の事を論ずるんぢやありませぬが、さう云ふ人は幼児の性情は解りませぬ。あのなま／＼しさ、しつこりさが解りませぬ。夜が明けるとすぐ十一時の人なんです。寝坊なんだか、日が遅く廻つてゐるんだか知りませぬが、起きたら十一時の人です。あの曉のあのしつこりさ、日が光つて來る頃のその移り變りを知らないんです。自意識の加はざるもの、性情的な生命をもつて、ミスう言へると思ふのであります。まだとても充分言ひ現せませぬが斯う云ふものじやないかといふ處で一つ切れります。

さう云ふもの三考へまして、その所謂性格の感情要素としての人間感情、之だつても實に濃厚度が色々あります。又濃厚度の問題に歸りますが實に色々あります。その所謂性情の濃厚度をその位にして置かうか云ふ事は、遺憾乍ら私には

何うしても言ひ現せませぬ。保育室の温度は何度にすべしと言へる様だ。非常に便利なんですけれども、之は言へませぬ。何度も云ふ事は私の何度も貴方の何度も違ひますから、斯う云ふ事に就ては全く一々の客観的に出す寒暖計の様な譯に行きませぬ。個人的な主觀的なものですから、どうしても言へないでせう。そのものゝ濃度の事は此處できつぱりした言ひ方は出來ませぬが、性格の要素としての人情、人間感情等、斯う云ふそれを基礎にして、それ以上のものであつても不可ないし、それ以下のものであつても不可ない。云ふ事は申し得るかと思ひます。幼稚園令が善良なるいゝ感情の養成をせよとも言つて居りませぬし、善良なる情操の教育をせよとも言つて居りませぬので、その中をさつて性情と言つて居ります。以上、之以上では誤り、之以下でも誤り、何處迄も今申しました様な自己意識の加はらざる、自己意識の加はらざる心様のありやうとしてのその性情の涵養でなくてはならぬ。さう申すべきだと思ひます。私は實にこの情操教育と云ふ言葉があまい、按配に皆さん情操と云ふ言葉を使ひ乍ら極めてあつさりと使つていらつしやいますから之がいゝですけれども、私なんか情操と云ふ言葉を伺ひますと大變びつくりするんです。「何うです。一つ情操を御馳走しませうか」なんて言はれるることは一口飲んだら酔つた。一口一口と云ふ様に食物の様に考へる。その情操と云ふものじやないんです。私が骨折つて考へてる性情と云ふものはさう云ふ情操なんと云ふものでない。その情操の場合に出来る分類、今、藝術情操、道徳情操、宗教情操、之は情操の分類です。こんな事は性情に當嵌りませぬ。私はこの事に就て長い間幾つかに色々な事を言葉を換へて申しますが、——言ひ方を換へて申しますが——徹底しない。性情は情操になるものです。情操になつた時には漠然情操なんてものはないんです。宗教情操、藝術情操、道徳情操、社會情操、所謂さう云ふ色々なものが出で來るのであります。けれども情操に非ざる性情と云つて居る間はそんなものはないんです。そんなものはないんです。そんなものはない。云ふ「あゝさうかい。性情と云ふものはそれぢや何でもないのかい」と言はれるかも知れませぬ。

が、それにでもなるものです。それにでもなるもの、詰りこの性情がこの儘すうと發達して行きますならば、當然、道徳情操になります。恐らく矢張宗教情操になります。けれども性情の處で道徳的情操、宗教的情操か云ふ形容詞をもつて来るには餘りに形容詞の方が大きくて、その、この時、性情の方が實にふんわりしたもの、幼稚園の子供に大きな帽子をかぶせたり、大きな軍服を着せたり、大きな鎧兜を着せたり、色々さう云ふ事をするのも同様でありますて、潰れつちやいます。私は實に屢々幼兒の性情が喘いで居るのを感じます。實に偉い道徳情操をもつて来られる。それは何處にも間違ひありませんよ。何處にも悪い事はありませんよ。なさつていらつしやる方に罪も何もありませぬよ。唯私、受ける方で大變です。偉い宗教情操をもつて来られるんです。偉い宗教情操の傍らにおくのは構ひませぬ。道徳情操を真向からもつて来られたり、詰込まれたりする時には性情が喘いで居ります。性情が實に實に氣息奄々として居ります。氣息奄々として居りますけれども中には生きんとして居ります。氣息奄々として居ります。天地を造る子供も居りませう。さう云ふのは先生から叱られて居る。叱られる子供であります。さう云ふのも居りませう。私視察に行き度くないんですが、ぐるぐる廻つて來たいんです。私、幼稚園を廻つたら保育を調べに行くと御思ひになるかも知れませんが、そつと小さな眼に見えない様なものになります。或は斯う全く通り掛りの人の様な風になつて幼稚園の傍に行つて見度い。其處で保育から離れて別れて居る子供を一寸慰さめてやり度い様な氣がする。此間私は文樂の忠臣蔵の茶屋場を見まして私大好きです。津太夫のいゝ聲で語りました。「おかるさんが彼處に腰かけて居る。おかるさん何して居る」と言ふ。「向ふで色々響應を受けて美味しいお酒の御馳走になつて、私しや酒にもりつぶされて風に吹かれて居るわいな」「風に吹かれて居るわいな」何とか斯うやつて居る。私なんか風に吹かれるなんて詰らないからあいつたけ馳走になりたい様な氣がしますけれども、逃れて來るんですね。人生屢々逃れて來る。私がぶらりと幼稚園に行

くご欄干に幼稚園の子供が「餘り保育にもりつぶされて風に吹かれて居るわいな」私はその子供を慰さめる。その逃れて來るのは何から逃れるのでせう。先生に惡意はありませぬ。お酌する人に惡意はありませぬ。唯向ふのは性情のあのしつこりこしたありやうを意識でない、心様のありやうをそれを損なひやしないかと云ふ考慮が缺けていらつしやる方。餘まり考慮しちやあ不可ませぬが……「本年は性情のしつこやかさを本體として當分休園……」(笑聲)けれどもその所謂「風に吹かれて居るわいな」と云ふ人に風を送る事が出來ませぬか。もり潰さないで風を送る事も教育じやりませぬか。性情に對して特にそれが大事なるじやないでせうか。性情教育は、性情以上のものであつては不可ない。以下のものであつては不可ない。云ふ意味じやないかと私思ひます。「どうも貴方のは性情教育が過ぎて情操教育になつて、道徳的にしつこいね。あれじや子供がやりきれない。性情的であつても本當の性情でない」、「さうですね。それじや寝かしておいて何にもしないのが一番、いゝでせう……」なんて……

詰り性情を涵養する其處の處を上にも行かず下にも行かず、斯う云ふものが性情。その性情と云ふ事を正面から私一口も何も言つて居りませぬで甚だ相済みませぬが、その性情と云ふものを斯う云ふものだと私が若し、不完全な言ひ現はしで言ひましたならば、事によつたらさう云ふものだとちやんと決めてお了ひになる懸念がありはしないか。何だかぼうとしたものもないんではありますぬが、敢て申上げませぬ。唯私が性情を見詰^{つめ}る事は出來なくともいゝが性情を見損ふ事のない様に、見つめたら性情の方でファーコなつて了ふかも知れない。その見損はない様にと云ふ意味からは、只今申上げた様な事で、或點は示し得るんじやないか。事實上さう云ふ行き道が今日の保育界に多くはないと云ふ事は言ひ得るのであります。での氣持は涵養と云ふ追で言葉に就て同じ事を——今は性情を——涵養すると云ふ處でもう一度申すから、もう少し御解りになるかも知れない。皆様は性情の事は何うでもいゝが如何にして涵養せんか、と云ふ事に就て苦心

して居る方が、皆様の日頃のお癖の様です。教育はなんて、眞をお考へになりませぬで、如何に教育しようかをお考へになる。「性情は何うでもいい。面倒くさい」と加減にしておいて「涵養するに何うすればいいか」を仰有る。それでは私心許ないと思ひます。併しこの性情の方を餘まり見詰めて居てはきりがありませぬから、涵養の方でこの問題を考へ様と思ひます。

二、涵養ごんよう

性情じきょう云ふ事を正面から申す事に於ては未だ足りなかつたのであります、まあ斯う云ふものではないかと云ふ様な意味から大體あゝ考へるに致しまして、其次に善良なる性情を涵養ごんようし云ふ言葉がありますので、その言葉に於て又色々考へて見度いと思ふのであります。

性情じきょう云ふ言葉を前の幼稚園規則に於ける善良なる習慣じょうじやく云ふ言葉ごんよう比べる處から考へ始めました。處がこの涵養ごんよう云ふ言葉の場所が前の規則に於きましては、善良なる習慣を養成ようせいしなつて居りますので、その養成ようせい云ふ事こと比べて考へを出發さして了つたら何うかと思ふのであります。

其處で涵養ごんようも養成ようせいも要するに同じ事じやないかと大雜把に言つて了へばそれ迄までありますけれども、それを何とか細かにいぢくり廻して見るに、事實兩方共養つて行くと云ふ意味がある事は養成ようせいの方でも、涵養ごんようの方でも同じ事であります。唯涵養の場合に就きましてはその養つて行く行き方が此處に示されて居るに、斯う申して宜しいかと思ふ。養成の場合に於きましては善良なる習慣を成立させる云ふだけでありまして、養ひ方に於ては何等言葉ごんようが示して居るとは考へられませぬ。涵養ごんようの方は今日は浸ひたすこか潤うるほすこか云ふ字であります、さう云ふ事を通してさう云ふ行き方で養ふ云ふ、斯う

云ふ意味であらうと思ひます。さて潤し浸しさうして養つて行く、或は型に入れて拵へたり押しつけて拵へたり、外から偶然、性情を涵養するんなくして、浸す事によつて養つて行く、この涵養ミ云ふ言葉は斯う云ふ言葉ミしては大層難しげな言葉であります、皆さんが夏の朝、朝顔に水をかけておやりになる。或はその朝顔の種子を蒔いた時に適當なる潤ひを始終與へておやりになる。そのやり方は即ち濕り氣をもつて種子を浸して種子を養つて行く。或は肥料を與へるにしてもその肥料は或は粉をかけてやる事もありませうじ、かたま固りを側そばに置いておく事もありませうが、あれに向つては水分に溶解した肥料に浸して養つて行くのでありますから、涵養ミ云ふ處が現れます、凡てあゝ云ふ種子の様なものが養はれて行きます道は斯う云ふ様に同じである。それが涵養であるミ斯う考へても宜しいかと思ふのであります。要するにものを造るミ云ふ場合に外から大層無理な力で不自然な力、殊にわざとらしい力、さう云ふものによつて造つて行くのではなく、何處ミなくしつこりミ浸み込んで行く、その働きによつて養つて行かうミ云ふ事に他ならぬのであります。

さて其處で又一つ問題を切りまして、次の問題に移りますが、浸すミ云ふのは養ふ方法を示した言葉だしまして、目的は要するに養ふにあるのであります。處で善良なる性情を養ふミ云ふのは一體何う云ふ意味であらうか、この間考へました様な意味に於て實に性格の感情的要素であり然も人間的な感情、さう云ふ風なもの、其中でも善良なるものを養成ミ造成つて行かうとするのでありますから、養ふミ云ふ言葉には何うしても之は元來持つて居るものを育てるミ云ふ意味は見逃す事は出來ないのであります。單に造り上げて行くんなくして、外からものを持つて来てくつづけるのなくして、或はそればかりではなくして、元來持つて居るものを持つて来る事は養ふミ云ふ言葉に當然含まれて居る事がミ思ふ。さうしまするミ、あの善良なる性情を涵養ミ云ふ言葉は元來空っぽである處の、何も未ださう云ふ善良なる性情ミ云ふ

ものが少しもない子供に向つて保育の力でそれを新たに造つて行くものゝ考へるものであらうか。もう一度申します。子供の中には元來善良なる性情の様なものは一つもない。それを保育の力によりまして、外から所謂拵へ上げて行くのであらうか。更に又強く申して見ますれば、子供の中には善良なる性情がないのみならず寧ろ不良なる性情がある。さう考へまして。それを保育の力で善良なる性情に變へて行くゝ考へるべきであらうか。子供は幼稚園に來なければ性情に就て空つぼである——甚しきは空つぼである。それを善良なる性情に拵へ上げて行く。之が幼稚園の目的である。斯う云ふ風に解釋すべきであらうか。先づさう疑問を立てゝ見ます。先程申しました涵養、養ふゝ云ふ意味からは何うしてもさう取れないのであります。即ち養ふゝ云ふ言葉は既にある處のものを育てる。斯う云ふ意味でありますから、幼兒の中に善良好なる性情の素の様なものはある。不良なる性情もあるかも知れませぬが、善良なる性情も確かに元來持つて居る。斯う云ふ事をこの養ふゝ云ふ意味に於て考へて來なければならぬ順序かと思ふのであります。

其處で元來持つて居ります處の善良なる性情を育てるゝ云ふ時に所謂健全なる發達を遂げしめれば自らそれ等も發達して来るゝ云ふ事にもなりませう。若しも子供が元來持つて居ないものを外から養ひ造るゝとするならば、善良なる性情は健全なる發達を遂げても善良なる性情にはならないのであります。健全なる發達、愈々以て不良なる發達にならぬこも限らぬのであります。元來持つて居るものをして育てゝ行くゝ云ふ意味にするならば、充分健全なる發達を遂げしめれば性情も善良に發達して行くゝ云ふ事は考へていゝ事になります。然も此處に健全なる發達に任せずして涵養するゝ云ふのはその點に關しては何う云ふ意味であるか。斯う云ふ事なのであります。私のお話は大變にグル／＼こじれて居りませう。何處かで一寸トロツとなさるゝ後で解らなくなります。おねむいでもあります。がね。

先に結論の様な事を申して置けば、其處を片付けて行くのかごお解りになるかも知れませぬが、性情涵養の程度に就て二つの大きな注意があると言ひ度いのであります。その二つの注意云ふのは、善良なる性情を外から涵養して行く行き方と、別に外から善良なる性情を持掛けてはいかないが、善良なる性情を内から、内にあるものを涵養しく行く云ふ行き方です。例を云れば肥料をやる場合と水をやる場合と朝顔の種子の育て方にも二つあるじやありませぬか。肥料ばかりやつても育つものでない。云つて自然に伸びて行くのであるから咽喉の乾かぬ様に水だけやつて置けばいいと云ふのではない。兩方やらなければならぬ。兩方、肥料と水で育つのですが、幼児の善良なる性情にもその水をやる場合と肥料をやる場合。肥料と云ふのは既に善良なる性情と云ふものを含蓄して居るもので子供を浸して行く場合、それと一方には善良なる性情と云ふものは善良性なんかと云ふものを未だ含蓄せざる單なる水で浸して行く場合と、斯う二つあり得るじやないか。その事を今考へて居るのであります。

其處で子供自身の中で善良なる性情の種子の様なものもないならば、水をかけてたつて仕様がありませぬ。皆様御承知か何うか知りませぬが、この頃西瓜を美味く食べさせます爲に西瓜が段々熟して来る前に注射をするやり方があるさうです。私もよく知りませぬが、その西瓜の中にあの青い皮の處へ注射をする。甘い液を注射する。さうして出来るなら赤い色も注射するが知りませぬが、専くも甘い液を注射する。それが出来上つてからは駄目ですが段々適當な味付いて行く時にするに甘くなる適當な方法があるさうです。この甘いものを注射すれば甘くなると云ふのは、善良を注射する子供が善良になる云ふ事と同じ事である。けれども甘いものを注射しなくとも西瓜は自ら甘くなつて行く。私なんか舌が非常に發達して居りますから、「あゝ之は注射西瓜だな」本當に熟して甘くなつたのが美味しいと思ひますが、その例をまあもつて來ませう。善良なる性情を涵養しこと云ふ言葉が多くの場合大變善良でもつて攻めつけられる様な風がありますが、何

もそればかりではない。幼児の中には既に善良なる性情になるものがあるから水で浸しても養へばいいんじやないか、斯う云ふ事になる。もう一度皆さんが御解りになる様に、前後するかも知れないが申しますが、善良なる性情を涵養するに如何なるお伽噺を選ぶべきか、修身講和の飴で煮た様なものを頻りに話される。之は詰り甘いものを注射する、善良攻めと言つてもいい。「あの先生の話はいいね。實に出て来るもの皆善良で結論は皆んな倫理的で道徳的で實に善良だよ。惡い話じやないが少うし善良で、つてりするね」子供は朝フラツキ幼稚園に來まして朗らかな氣分で善良に非ざる朝の景色、善良に非ざる朝の綠、朝のあの露、善良に非ざるあの環境の中にうつこりて居ります時に、先生が口を開けばすぐ善良をもつて攻めつけて来る云ふ子供はすぐうんざりするかも知れませぬ。斯う云ふ時に、何故そんなに善良攻めをなさるだらうか、善良にせねばならぬ云ふ事ばかりしていらつしやるか云ふ、善良なる性情を涵養しやう云ふ幼稚園の目的に大變に忠實にお考へになつて何でもかんでも涵養をやらう、斯うお考へになる爲ではないかと解釋出来るのであります。

其處でその事も後で大事な事ですから考へますが、實はその方が大事なんですが、先づその前に元來幼児の持つて居る善良なる性情を唯々涵養する云ふ事は何う云ふ事だらうか、さう云ふ事も幼稚園の一つの仕事じやながらうか、今その問題に居るのであります。

妙なものでこの若し子供が元來、善良性の何ものを持つてないとするならば、之は別になるかも知れませぬが、善良性の淡いなりに幽かなりに何ものかを持つて居るすれば、その幼児の生活は性情的生活へ、性情的な姿へ歸して貰ふ事によつてそれは育つて来るんじやないかと思ふのであります。性情的な生活へ云ふ意味は一昨日、性情的生活云ふものは意識の加はらないものであり、それを私一昨日、概念化せられざるものである云ふ事を私は考へました。性情は

正面から云ふものであるか云ふ事は言ひ難いが意識の加はつて居ないものである。従つて況んや概念云ふ様な形になつて居ないものである云ふ事は一昨日考へたつもりであります。

其處で人間を、まあ子供でなく人間として了ひませう。人間を意識の加はらない生活へ、言ひ換へれば性情的な状態へ歸して來ます。その性情が元來持つて居りまする善良なるものが其處で育つて來る云ふ事は當然じやないか、斯う思ふのであります。意識は性情を大變に濃厚にする事は一昨日申し通りであります。意識が加はります、自己反省なん云ふ事を行なつた後に於ては性情が性情の姿に於て現はれて來ない。大變ベシノンしたものになつちまふ。概念的意識を固めて了ふ時はベシノンじやないこちくなものになつて了ふ。性情はその堅いものでなく、堅いものでなく實になまくしい、軟らかい、いきくしいものだ云ふ事は一昨日考へたのであります。

其處で子供を本當にその性情的な善良がなんとか云ふ事は大人に於ても實になまくしい、軟らかみのある、その意識や概念の働きの取去られたるしつこりした、うつこりした性情的生活に於てやれば、さうすればその性情の中に元來持たれて居る善良なるものが成長して來る云ふ事は考へられるのであります。私は實は昨日神奈川縣廳の用で箱根に参りまして、こちらを一日皆さんに御目にかかりませんでした。人を打遣つておいて箱根に行つて生意氣だ仰有るかも知れませぬが決して遊山湯治を行つた譯ではなく、矢張り用で行つたのでありましたけれども流石に小石川篠町には違つて居りまして、仙石原のあの全體の綺麗さも、彼處に車で段々上つて行くに連れまして、所謂箱根の翠嵐の中、自然の中に私挟まれて——環翠樓に宿つた譯じやありませぬが——箱根に挿まれて、その日から少うし霧が——夕霧——がしつこり、愈々私はしつこりした。此處じや乾ききつて居ります。しつこりしたその上に湯に這入つて——私は特別温泉が好き

だものですから、まあ何なく這入つて其中で私は斯う何にも忘れてさうして、うつこりしました。彼處で私の顔を見て「自ら反省せよ」なんて言つた人は一人もなし、「お前、惡を思つちや不可ぬ」と言つた人もなし。「善良なれよ」と言つた人もない。唯、山黙して私を圍み、霧静かに私を包み、温泉滑らかにして私を浸して居つた。流石に乾いて居るこんな意識型の人間、こんな概念型の人間、善を考へればすぐ理窟にして了ふ半ば出來損ひの人間も流石にしつこりして居りました。うつこりして居た時に、だからすぐ聖人君子になつて、聖人になつた、君子になつたと云ふ譯じやない。餘まり聖人君子になつたら下界に下りて來ないかも知れない。併乍ら此處に居る時よりも善良と云ふ言葉は常らないでせう。善良と云ふ言葉位、程度がありまして私が善良だと思つて居たつて孔子様が見て善良と思ひますか。自分には却々以て善良なる言葉は使へませぬが、此處に居る時より少し綺麗な氣持になつて居たと思ふ。之は何う云ふ意味なんですか。私をあの山と自然と温泉とが意識的かつて、うるさきその生活から、なまくしい性情の姿へ、性情うつこりの姿へ私を暫く歸して呉れた。宿屋でありまして道場じやありませぬ。何も道徳家の宿つて居る所じやない。唯私を性情生活へ歸して呉れた。性情生活に歸して見るところの私みたいなものだつて性情に歸るところ捨てたものじやない。だから私の前に來た人は静かな人だと思つたでせう。ものを言つても返事しないでうつこりして居る人だと思つたでせう。斯う云ふ所に居ては恰も機械の如きガチャ／＼した——その代り間違ひはないでせう。さう無暗に人を突飛ばす事もないでせう。私なんか講習中なんか皆様の世話で誤ちの無からん事を氣にして戦々兢々意識して居るのであります。處があの山に上るところして寝轉んで居ればいいのでありますから伸びやかさ——伸びちやつたんじやない——伸びやかになつて居る時に私、善良だか何うだか知りませぬ。善良だか何うだか、さう云ふ事さへ考へない。あの時善良かしら、と考へたら、あの仙石原の自然環境と云ふものは私から消え去つて居ると思ひますが、性情のなまくしさ、なまくしいたつて私のなまくしいの

は干物を茹でた様なものでありますけれども、干物がうつさりして居た、その其處の處、此處ん處がかなり大事なものじやないかと思ふ。幼稚園云々世界は善良なる性情を涵養するを以て目的です。云々事を私の言はうとする二つの後の方の意味だけに考へる問題の處で、子供を三つ摑へて、善良なる性情をもつて涵養せんとする。善良なる性情の型か何か……私昨日その當り前のお湯に這入つてよかつたと思ひます。丁子湯云々か香水湯云々か、香水湯ではあの山氣燐爛、山の嵐の匂ひはしてなかつたと思ふ。幼稚園では善良性に餘まり満みて居つて却つて子供の性情のそれ自身のなまくしさ・生きくしさを、現はれて来る事を妨げる。涵養が満ちてならぬ云々事を申し得るかと思ふのであります。それだけが善良なる性情の涵養云々事で申して居るんぢやありません。若し御都合で後の處を御聞き頂かないで「あれだけか」なんて云ふ。私半分しか言はない事になりますが、その半分を言つて居るんです。暑いですから下らぬ話をしませう。此間その偶然私は色んな最中を手に入れました。餘りにも小さい話ですが、偶然宅の者も或る所から最中を持つて来まして人様も下さいまして、相當の最中が三つ集つてそれを食べて居りまして「最中研究會をしよう」と云ふので家中寄つて食べました。實に安い材料ですが、その色々の最中を食べ乍ら私の子供が實にどうも、一寸食べて一寸食べて食ひ合して言ふ事に「恐ろしいものですね。お父さん菓子屋も此處迄來る三個性を持つて居るね」。實に個性がある。榮太樓の最中の餡は榮太樓の最中の味がある。森八の最中は森八の最中くうやの最中はくうやの最中の味がある。その數日前に……最中ばかり食つて居る様ですが。藤村の最中は藤村の最中の味があり菓屋も違つて居るでせう。東京中の有名な菓子屋の最中云々言へば子供の所謂個性がある。その個性を論じて居る中に皆、餡ばかり食べる。私は最中の菓子としての價値はあの皮にあると言つたら、皆さん餡はやめて皮ばかり持つて行かうと仰有るかも知れませぬが、餡をぬいたら最中じやない。餡の這入つて居ない最皮なんてない。最中でなくちや不可ぬ。その最中の餡に個性がある如く、皮に個性がある。餡の研究が済んもかな

で皮の研究になる。勿論最中は餡と皮との關係に於て、子供が食べる様に餡は餡、餡ばかり食べて見るのでは不可ないんですが、この皮にはどうも味がない。餡の方には個性があると云ふ程甘さが明らかであります。同じ砂糖でも何處が違ふんでせうか。小豆の産地が違ふんでせうか。甘さが違ふ。煉方が違ふので味が違ふのか。味の違ふ事は素人でも解るが、皮が違ふ。皮が何處か不可ぬのであります。此處に結果を申しますと、菓子屋の宣傳をする様になりますけれども、或所のは實に皮がいゝ。その皮のいゝのは、何處にあるかと云ふと、最中と云ふものは中の餡で組立てゝ活かして、あのこつてりした濃厚な餡で食べさせて活かして、味のない皮で食べさせ。坊ちゃんは餡ばかり食べて皮は金魚にやりなさい、なんて事はないので、あの皮が人間がわざ／＼買つて來て食べる價値がある。性情を涵養するのに、餡の様な味を主にした方面も大事でありますけれども、皮の様な味のない處も必要なので、何とも言へない味、何とも言へない味、何とも言へない味、味のない味と云ふものがあると思ひます。其處でまあ一段落を切りませう。餘りこんな事をごたゞた言つて居るところなどは例が飛出しが解りませぬ。

其處でその所謂善良なると云ふ内容をもつて行き度い。唯攻めて行くんではなく、善良を、奈良漬、味噌漬、柏漬でつけて行くんではなく、唯彼等の意識的概念を取去つて、うつとりとした性情のまま／＼しさにあの子供達を歸すと云ふ事は何うしたら出来るだらう。この頃お客様に行くと云ふと、何處の家でも「お暑うござります。さあ／＼お脱ぎなさい。御脱ぎなさい」脱がして樂にしてシャツを着て居ても「脱げ」と斯う云ふ。幼稚園へ子供が來たつて「さあ御脱ぎなさい」。意識を脱つせよ。概念を去れよ」と斯う言つたつて出来る譯じやない。それなら唯意識を取り概念を取つて、何ものをもつて浸して居る譯じやない。例へば幼稚園に這入つて來るごと、庭には打水がしてあると云ふのはその一つであります。善良なる性情を涵養しと云ふ事と、幼稚園の庭先に水が撒いてあると云ふ事は全く無關係の事の様でありますけれども之は大切で

あります。私いゝお寺に伺ひます。禪宗のいゝお寺に伺ひます。私の氣持は先達で頂いたあの課題を説かうと思つて頻りに考へて行く。段を上つてお玄關に行くと、すうつゝ水が撒いてあつて、あゝ、こじれて考へて居た事を忘れて性情の氣分のうつさりと歸る。其處へ禪師が出て来て「それじや」（肩を叩いて）と仰有るこひよつと解る事もないではない。何も幼稚園へ子供が來る度びに「それだ」なんてそんな事を言はなくつても宜しいですが（笑聲）この所謂すがくしい。打水なんか云ふものは善良性じやないでせう。溝水を撒いておいて、其處へ行くとパンと云ふのは困るが、香水を入れて撒がなくとも清らかな水道、井戸水でいい。廊下が綺麗に拭かれて居るのは清潔性はあつても善良性はない。皆さんは事によつたらお考へになるかも知れない。廊下は綺麗なのは衛生の問題であるとお考へになるかも知れませぬが、うつさりした性情のなま／＼しさに人間を歸す上の道であります。言ひ換へればいゝ氣持になつちまふんです。吾を忘れてファツミしたいゝ氣持になる。斯う云ふ意味からしまして、一昨日も一寸言ひ掛けまして後で問題にすると言ひましたが、所謂藝術教育と言ひます。皆様は藝術が御好きでもあ何と云ひませうか。デモ藝術家の様な方が多い。その藝術家が多くお揃ひの處で斯う云ふ事を言つては何うかと思ひますが皆様が藝術をお取扱になります時には、之は相當しつこいものであるかも知れませぬ。殊に現代の皆様はさうでないかも知れませぬが私の様な少うし時代の古いものは藝術と言つても矢張すぐにこの何か斯う、何かこの善良性なんと云ふものに其處へ結びつけて行く。禪のすうつさした禪の面白味なんか云ふものは私には解らなくて、何か斯う二十四孝の繪でも書いてあると「エー」なんて言つて床の間に掛けて置く。墨付きの筆の面白さじやないんで書いてある言葉が「勉強せよ」と書いてあると床の間に掛け置く。さうも私は藝術と云ふものに道德性、善良性を加へます。藝術は本來何う云ふものか喧しい議論をするのでなく、幼兒に及ぼして來る藝術の効果と云ふものは實に意識と概念からその子供をなま／＼しい性情の世界へ歸す、と云ふ

働きである。其處が藝術の力であります。幼稚園は何故あんなに澤山藝術の力を借りるのであります。其處に繪がある。其處に音樂があり、其處に美しい裝飾がある。花壇があり自然美を始めとして、美云ふものの力を大變に借りるのであります。其處で使つて居りますものゝ藝術的なる處だけを見て、それが幼兒に及ぼして行く所以のもの及び美を通して幼兒を何うして行くか云ふ事を本當の保育の意味を考へない人は「幼稚園が藝術教育をして居る」此事もなげに言つて居るのであります。幼稚園が藝術教育をして居る。藝術教育をして居るんでせうか。幼稚園は勿論あのよき音樂を聞かして居りますならば、何時の間にか子供の中によき藝術性が涵養せられるでもあります。耳がよくなることカリズムの標準が高くなつて来る事が、いゝ繪を見せて置けば繪の鑑識が高まつて来る事か云ふ様な事があります。その意味に於て結果として藝術が子供に藝術的效果を與へて行く事も恐らく幼稚園にこんなに美の力を借りて居りますのは、美そのものを幼兒に與へよう、美的性情を造らう云ふ場合に大事なねらつて居る處があるのであります。それは何か。美こそ世の中に、美云ふものこそ、意識的概念から掛離れたあのうつさりした美云ふものの力を借りて幼兒を意識概念から掛離れた性情のまま新しい世界に一時でも歸してやう。云ふのが、私が美的力を借ります、藝術なるものゝ力を借ります所以であります。朝來ます、打水が一つしてあつても性情の世界に歸すのであります。廊下が一つ拭き清めてあつても性情のまましさに歸すのであります。事實其處に美はしき額が掛つて居ります。その額の繪は所謂道德畫じやない。額を見て「あゝ私も斯う云ふ風にならなければならぬんだ」と意識へ歸らせる様な畫じやなくて美そのものに於て理想的な額が掛つて居る。「何云その形が、色が、線が、その一體のエフェクトが美」さう云ふものを見た時に子供乍らにうつさりした美の中に這入つて行く。蓄音機がかゝつて居ります。其の蓄音機がかゝつて居る音に「皆さん今日もよくやつていらつしやる。いゝ子にならうじ

やありませぬか。本當にいゝ子になりませう」なんて事を言つてやつたら、素直な子は「蓄音機の申される如くいゝ子になりました」少しひねくれた子ならば「何をうるさい事言つてやがる。機械の野郎何を言つてやがる。」わざと悪戯の一つもして見たかも知れませぬ。處があの蓄音機から流れて来るものは單なるメロディーである。その蓄音機の音にフーコ引込まれて、しつこり斯うやつて聞いて歸へされて居る。その聽いて居る時にその子供は善良なん云ふ世界じやないんです。性情そのものゝ純なるなまゝしさに歸へされて居る。色々其處へ先生がいらつしやる。先生が出ていらつしやる。その先生の御言葉に何ぞ善良を涵養せんとするものがあるか、ないか。まさかに皆様は幼稚園の子供に朝會つた度びに疑ひの眼を以て彼等の悪戯^{いたずら}を防がうるなさるんじやありますまい。探偵の如く、國境線上に立つて居る歩哨兵の如く御覽になる。所謂幼稚園に於てはネガテープ、ネガテーフの約束を果さうと、斯う云ふ事をしない様に、云ふ事は成可く言ふまい。云ふ事は幼稚園に於きましてコンモンセンスであります。「斯う云ふ事はしはしまいね」云ふのはネガティープ、惡意に満ちたる先生の態度である。この子があゝ云ふ事をするかも知れぬと承知し乍ら教育者が子供の顔を見乍ら忘れて居る先生でなければならぬ。云ふ事は保育のコンモンセンスでありますから、皆さんは其處迄行つていらつしやるでせう。朝子供が来る。「泥棒しやしまい。嘘を言つては不可ない。何か悪戯^{いたずら}しないで……まあいゝ兎に角善良でなきやあ不可ぬのよ」斯う云ふ人はないでせう。それこそ反対な事を言ふ人はないでせうからその意味でネガティープはいかぬがボシティープはいゝ云ふ事がコンモンセンスの中にありますて、「いゝ子ね」私小さい時に「いゝ子ね」と言はれる程いゝ子だつたのですが、今思ひ出せませぬが、時々私もやつたり、人がやつたりするのを見て思つたりする。本當にいゝ子を「いゝ子ね」と言はれた時にさうも妙な氣がしやしないか。「さう仰有^{おほせ}られてはいゝ子にならずには居られませぬ」云ふものであります。教育者がボシティープ、ベテンゼーション……私他處へ行きます。私は暑い時

に何か冷たい一寸した飲物が欲しい。處が向ふの人が「先生は冷たいものはお嫌ひでいらっしゃいました。衛生家でいらつしやいましたね」と言はれる。私……(此の時丁度冷たい飲物を給仕が先生の處へ持つて来る)(笑聲)私自身もでせう……(笑聲)。それと同じに子供を擱まへていゝ子だね。いゝ子だね。悪い事をしない様に〜〜」と攻めては……。「いい子だね。悪い事をしない様に」。言はれた方は隨分暑苦しいでせう。まあ義理でもつて先生の顔を見て居る間は、先生の御後姿が見えて居る間は、子供は義理でも悪戯を控へて居るのであります。さう云ふ事の外に「いゝ子だね」と言はれた時に善惡と云ふ事を思はずにやつて來た子供が矢張道徳の世界に「幼稚園には善良の世界があるのか」と打水はうつみりした性情の世界に歸らして居つた時に善良の意識に歸らせられる。口では仰有らない先生が慢性的に面と言つちやあ何ですが顔になつて居る先生がある。「どうもあの先生の顔を見る事道德的電氣がかゝつて來る様な氣がする」斯う云ふのが所謂いゝ顔なんでせうね。先生として。「あの先生の顔を見る事なる性情に立返つて來る」と云ふのは讐向の顔かも知れませぬね。けれども幼稚園では私その始め、あの額がかゝつてうつさり見て、廊下を歩くと何處となくメロディアスの流れの中に、性情の中に漂はして、其處へ來た先生がその顔が難しいです。その顔が難しいが何う云ふ顔したらいいのか解りませぬが。兎に角その顔が難しい。保育の難しいのはこんな處——昨日も申上げましたあの淡い子供を私の標準の型で取扱はないで、淡さの中で取扱つて行くのが私の様なものには實に難しい。年のせいですね。年のせいです。要するに何にもしない方がいいでせうね。まあどうせ繪が子供をいい氣持にして居るんで、あれもメロディーがいい氣持にして居るんですけれども、先生が出て來たらお邪魔しない様に。性情があの中で性情がジエリーの如くファーとしない様に、すうと子供の傍を抜足して通る先生、洒落れていますね。子供が先生を擱まへて「お話して下さいな」と言ふ。

昨日久留島先生のお話は大變いゝ御講演で皆さんも御満足になつたこ云ふ事を早速報告を受けまして、私も拜聽出來なかつた事を殘念に思つて居りますが、先生何う云ふお話をなさいましたか知りませぬがまさか先生はあるの童話に依て内容的效果を與へる方ばかりを主張なさらなかつたこ思ふ。若し其方の方面だけ仰言つたら、久留島さんが其方ばかり仰言つたのではなく、二時間こ云ふ足りない時間がさうさせたこ思ひます。一々話が善良性をもつて子供に或物を押付けて行く事ばかりがお話ではない。私は先に、通り掛りに何んな顔をしたならばいゝだらうかこ申しました。まさか横を見て通る譯ではありますまい。けれども真向きになるこつひ折角のメロディーこ折角の藝術美の世界から與へて居る印象を、倫理世界に持つて來る危険があるこ云ふのでしのび足で通るこ云ふのですが何うでせう。お話を始めたら……お話こは色々な話がありますが、幼児こ先生このお話こ云ふ場合には大體に於きまして、殊に大人同志でもあつさりしたお話は二人の間に第三の問題を置く事であります。支那の言葉に「相對して語らず唯桑麻長ずこ云ふ」こいふ言葉があります。偉い聖人が會ひまして、實に當節困るのであるこ云ふ事を言ひさうな人が言はないで「今年は桑がよく成長しましたね」こ話す。二人の中に一人の世間を動かすのではなく第三の話が出た。カーライルこエマーソンが會つて、何を論ずるかこ思つたら、互にいい煙草を交換して火を點けて吸つた。斯うなるこ言ふ事もない程ボーッこして居る。小人に限つて、會ひさへすれば自分の話をする。第三の問題が出て來ない。自分の問題が迫つて居る人が「いゝ處でお目にかかりました。先日の借金は何うしませう……」と言ふ。幼児こ會つて居る時に第三の問題を用意せずに話すこ「あなた……」こつひ出る。「氣をつけなさい不良なる性情を出さぬ様に」こ云ふ事を言ひ度くなる、「手に白墨を持つて居るな、落書きをしちやいかぬ。窓の側を歩いて居るな、窓に上づちやいかぬ。何だかお手々が動いて居るな、鼻の穴へやつちやいかぬ」こ云ふこ其子を先生が見て「坊やが色々憎みを持つて居る」こ云ふ様な事にならぬこも限らぬ。それを第三の問題をもつて來りやあいゝじやないですか。

何處へいらつしたの」、「鎌倉へ」、「お魚が泳いで居た?」「泳いで居たのが問題の主ではない。鎌倉へ行つて「建長寺に行かないのは精神修養上惜しい事である」と云ふのではない。鎌倉の水話と云ふものが第三話題である。私でもない。其の子でもない。第三の話題を出すと自己意識と善良の道徳習慣の方へ這入つて来る事から離れる。善も忘れ惡も忘れて第三の話が出来る。況んやその第三の話が鎌倉の海の話でも宜しいが、昔々或處に……と第三も第三も實に大昔の第三の話、うつこりして丁ぶ。お伽噺とは、これは何も精神教育に於て、師弟相對すれば必ず道を語るといふ様な事があるつきり性質が違ふ。第三の話をしてもうつこりする。これはあなた方だつてさうでせう。軽き懶を持つて居る時には人の處に行つてつゝいて貰ひ度いでせう。私は煩悶して居る。分るでせう、分るでせう、一昨日は三、も、んだつたが今日は半、もん……。所が本當に懶がある人はその事に觸れて貰ふのは嫌でせう。私なんか懶ばかりだから色々の話をされるのが嫌で仕様がない。借金の話をするなど一つもする。だから香氣な話だけがして居たい。そこで友達の處に行く。向ふが「如何ですか、其の後御病氣は」、病氣を氣にして呉れる。「それを言つて呉れるなら看護婦のところに行くよ。君のところに來たのはあれを忘れ様と思つたからだ」それで、夏は何うもいへね、と關係のない話をしようと思つて来る。そこに性情にかへる。吾を忘れる。忘我の境、忘我と云ふと大げさですが意識と概念を離れてなまくしい性情にかへらせれば、豫て幼児の性情の中には微かながら存在するとい見ましたあの善良性がたゞ味のない水、栄養量のない水に浸される事によつて育つのであります。私は幼児をさうして涵養したい。さう云ふ行き方がもつとも私達に出來たらと思ふのであります。あの昨日のお話から繋ぎをつけて申しますと、久留島さんのお話は何う云ふお話をなさいましたか……皆さんが可愛いお子さんであつたならば、久留島さんはあのバスの太い聲で面白いお話をなさつたでせう。そのお話を幼児が聞いて居るのを横から見て居る時に幼児の顔は實にうつこりとして、なんてあの意地悪の子供がその時はうつこりして居るでせう。なんてあ

の強情な子供が素直な眼付をして居るでせう。なんて普段ならば、「ねー先生あゝん」と首を斯う向ける習慣の子供が、メロディアスにお話が進んで来るこ、さうだね、さうである可きだね、いゝ事をしたね……お話の言ふそのまゝ素直さに於てずつと受取る顔になる。そのお話を聞いて居る間丈でもボーッとなつて居る。一時天國一時聖人一時君子結構であります。私は世の中の悪人が朝の寺のお勤めに出でじ一つとして居るのを見る。其の時に世間の人は「何があんな野郎がこんな事をして偽善極まる奴なんだ」と仰言るが、私は一時でもシーンとなるいじらしい氣持は充分了解する事が出来る。私は刑務所の色々の話を聞いた事があります。刑務所で蓄音機をかけて居ります。刑務所ですよ。極めて呑氣な様な話ですが、此の頃の刑務所は——餘り御親類もいらつしやらぬでせうから申上げますが——部屋があつて休憩時間休んで居るこ部屋中へずつと聞える。その蓄音機が、何んなレコードが選ばれるか、何處かのお説教とか何か修身訓話であるとかならばまあそれに依てあの人達を感化しよう云ふので成程御了解になるか知りませぬが、實にナンセンスなものか、或は非常にメロディアスなもので、勿論第九シンフォニーでは分りませぬが、此の間泥棒の這入つたお勝ちやんでも宜しう御座います。するこ聞いて居る者が、あゝ悪い事をして居るこ後悔して居るなんて云ふのは、これは實に善惡に捉はれて居るこ思ふ。况んや、出たら又人をやつつけてやらう云ふ氣持があつてもメロディーが来るこ、一時天國一時善人一時うつこりに歸る。監獄刑務所に於て尙ほ且然り私が幼稚園に於て藝術的な手段を用ひ美的材料を用ひるのは、世間往々言ふ如く、小さい時から藝術教育を仕込まう云ふのじや御座いませぬ。意識と概念から人間を開放して、生々しい性情にかへらせる偉大なる藝術の力を借りよう云ふのであります。これは充分一つお考を願ひ度いと思ひます。皆様も時によりますこ、お歌なごを聞いて居りますこ隨分あやしげなものがある。私にも調子の外れて居る事が分るから、耳のいゝ人は何う聞えるか知れない。先生自ら慰めて曰く「彈き方は下手い、譜もよくないかも知れないが考へて御覽なさい、いゝ

文句だ……」なんて云ふ事を言つていらつしやる。これは藝術を借りて居るのじやないのですから言葉なんかないのがいいのであります。言葉云ふものは意識云概念に行き易いから、言葉なんかないのがいい。その所謂メロディー、ハーモニーの中で行くのが出来たらいゝ。私の知つて居る幼稚園でカトリックの——西洋の幼稚園では澤山ありますが——鐘を鳴らす。あのチン／＼チン／＼……この幼稚園もお茶の水の時分はニコライ堂の鐘を聞いて居りましたが、カラ～＼＼＼＼＼……意味はないそのメロディー、前さ後の音の繋りがカトリックの音樂として特有ですが、其の中に子供をやつて溶かす。あんなものは實に面白いものだと思ふ。斯う云ふ考で、如何にして色々か光々か音響云か、こゝによりましたらば幼稚園の中にいゝ匂のある事もいゝでせう。何故幼稚園に花をお植ゑになるか。その花には何故百合の匂のいゝのが選ばれて居るか。たゞさう云ふうつこりした氣持にしようとする丈であります。或は先生が仰言るお言葉の中に、音樂にはならぬが詩の様な言葉が出る。先生のお使ひになる言葉の中で……詩云ふ難しいが、詩の言葉……まあ例へば「今朝はいゝ天氣でしたね、朝早く草の葉に露がありましたね」云々仰言る所を「何いゝ天氣よ、今朝は露があつたでせう、草の葉に！」云々仰言れば、一寸した言葉で子供は一寸メロディアスを受ける。斯う云ふ意味から、幼稚園の先生が藝術を借りて来る、一寸した藝術的表現の仕方、さう云ふものが非常に大事ではないかと思ふのであります。

これでこの問題を一くぎりしますが、この事に就て、特に大事な問題を一くぎりしたのである云ふ事を附加へて申します。

幼稚園は先生が教育をなさるのみならず、同じ年の様なる子供に依て造られた世界としての教育效果を重んじて居る事は申す迄もない。而もそれは果して如何なる意味に於てあらうか云ふ解釋に就ては實際色々ある様であります。色々

な關係が其の中から見出されるのであります。がその一つとして多く言はれます所は、同じ年の様な年齢の者は同じ様な興味をもつて交る事が出来る。これが一つ。その前に斯う云ふ事を言ふ人があります。同じ年の様な者を集めて置かぬと云ふ此方の言ふ事が、程度を揃へて置かなければならぬと教授法で幼稚園を論する人があるが、それは小學校と幼稚園と取違つて居る。それは大した問題ではない。たゞ子供達の間には同一年である爲に興味が一致する。第二には、同じ様な年齢でありますから力のぶつかり合が對等で、所謂相互的關係を充分營ませる事が出来る。これは私の常に力説する點で、幼稚園に於ける相互的影響が、同年齢の子供に於てよく行はれる事云ふ事であります。然しこの他に今日もう一つ言はなければならぬ。同じ年の様な子供同志は、互の間に意識を引起したり概念を造り出す事が少ない。私でも、私より先輩の人、教を乞はなければならぬ人、年長者に會ひますと自分自身は警戒する。……と云ふと卑怯ですが、意識します。氣を付けます。それが悪いのじやありません。さう云ふ事も實に私共に必要な點であります。が、今のうつむいた性情の生々しさに自分を置かうとする爲に、さうでない樂な感じで會ひ、得る對等の友達が一番いゝ。相等の友達の間にあつてさへも理窟許り言つて居る人もあるが、對等の友達に會つた時は、吾を忘れ彼を忘れ……吾を思へばこそ彼が氣が付くであります。それが、對等の氣持で相手が居るのに、さつきから居たのが居ても居ないでも同じ様なもので、實にうつこりして居る。あの子供が砂場で遊んで居る時にうつこりした姿であります。あれの中に、あの友達同志たゞ樂しく遊んで居ります中に彼等の持つて居ります善良なる性情の小さきものが育つのであると云ふ事を疑ふ事は出來ないと思ふのであります。育ちつゝあるのであります。斯う云ふ意味からしまして、幼稚園と云ふ世界を先生が用意する環境から申しまして、子供達相互の關係から申しまして所謂善良なる性情の外から養はれるに非ずしてそれが内から養はれて來る事云ふ風に考へられる方面が相當大事ではないかと解釋して居ります。

こゝで大きな線を引いて一くぎりきります。

こゝ迄申しました事で、これが若しも充分に理想通りに行はれゝばそれこそ實にいゝ保育が出来るゝと思ひますが、然しこれ丈でも私の方が申し足りませぬ。幼児に取つてはここによつたらそれだけの方がいゝのかも知れまぬせ。何うも幼稚園こ云ふ處もいゝが——家の幼稚園も相當分つて來ていや、にいじくらないが——彼處に行くと、家では吾子を立派な者に造らうとして居る神經衰弱のおつかさんの側で……。「この頃先生何も言はなくなつていゝ。君の組は何うだい?」「僕の組の先生は自己修養で成上つた先生で、それがぬけちまへばいゝが今でも小細工がくつゝいて居る。人の顔を見ればどちらやゝ言ふ。彼女に教育致され、實に感謝するが、やり方はどうも吾乍らあれじやいかぬと思つて居た。所が此の間誘導保育案こか何ごか云ふ事で、先生が先立つて何がやり出して僕がいつても、さうへゝ何でも手傳つて呉れるので事がよくなつた。僕も一生懸命仕事をする、先生が顔を合せる、「よく出來たね」と言つて居る時に僕は隨分いゝ氣持で半日暮すんだよ」。かう考へるかも知れませぬ。所が先生の方になつて見ますとそれだけじや何うも足りませぬ。私は布袋主義こ云ふ事をよく申しますが、布袋さんなんかはそれで徹底していらつしやるのじやないか。大なるお腹(お腹)をもつて確信してお出でになつて……。私はそこ迄却々行きませぬ。布袋さんではなく眞諦さんですからそこ迄行けませぬから、何ごかやらうへゝとする。そこにもう一つの涵養の問題が残つて居るかと申していゝかと思ふのであります。

もう一つ残つて居りますのは、私共が所謂環境を善良なる環境にして、その善良なる環境に依て子供達の善良なる潤ひを……善良なるものを浸み込まして行くこ云ふ問題であるゝ思ふのであります。この方は然し、もう私が改めて申す迄も

なく皆さんの心掛け過ぎる程心掛けていらっしゃる問題かと思ふ。たゞ此の時に起つて来ます問題は、もうさつきの處へはうんこ力を入れて言ひたかつたが、後の方は何でしたらお疲れの方はお立ちになつてもいゝ。たゞまあ善良云ふ様な問題がこゝの所難しくなつて来る云ふ事を考へて置けば足りるかと思ふのであります。さつきのは、善良なんて云ふ事を離れて美的感情に依て行くのですが、美云ふものには程度はありませぬ。子供用の美、大人用の美、そんな事はありますぬ。皆さん立派な額を掛けて置けば宜しい。さうすれば子供は子供なりに取るだけの話です。さうも皆さん幼稚園で子供の爲に音樂を弾かうと思ふ隨分苦勞する。「私のは幼兒向きてはなし」。幼兒向きの時には少し調律を悪くして置いて、「これが幼稚園用の音樂だ、何うも私はタタタタミ弾いて了ふものだからいかぬ……」と仰言る。そんな事はない。尤もあなたが餘り上手な音樂を突如としておやりになる。今迄は鳩ボツボで踊らして置いたのを急におやりになれば鳩はボロッとして了ふかも知れませぬ。それを、拍子を取る様な積りでやつて來た人が本當に或メロディーをすうつし出したら、子供はうつしりして了ふ。^{しようつちう}いゝ氣持で、踊らないでうつしりして了ふ。性情の生々しさにかへる云ふ事になるかも知れませぬけれども、それを始終中して居れば何でもない。決して御遠慮要りませぬ。春の櫻が、詩人が來たからバツミ開き俗人が來たからぐにやつくなるなんて事はしない。太陽が、見る人に依て光は變へない。此方が何の位取るか云ふ事は取り方次第であるが、向ふは承知の上です、所が何うでせう。善良になります云ふ、元來が道德批判の上に築かれて居るものでありますから……絶對本質のものではなくて所謂道德批判の上に築かれて居るものでありますから、その善良さ云ふ事が却々これが、程度よりももつて微妙なる色々な種類變化がある譯であります。即ち大人の美術云子供の美術云々そんなに違ひませぬが、大人の道徳云子供の道徳は違つて居る。大人の倫理意識云少年の倫理意識は違つて居る。そこで何う云ふ善良さをもつて行くか云ふ事は却々難しい。そこで、何れを標準にもつて行くか云ふ、一昨日申し

ました、これを度で現はす事が出来ないご同じ様に、何う云ふ性質の善良さをもつて行くかご云ふ事は却々分らぬのであります、私はこゝで一言申しまして此の暑い朝のお話を終りませう。

私が、何なん程度の何んな種類の善良性を持つて子供の環境を取囲むに致しましても、この環境として子供を受圍むのは、何う云ふ結果を生ぜむが爲にその環境を造りつゝあるか云ふ事であります。こゝは考へられる問題だと思ふ。これは子供達をしてたゞ眺めさせる爲の環境じやありませぬ。子供達を感心・感服させる爲の環境ではありませぬ。況んや子供達を嚇かしつける爲の環境でもあります。何う云ふ様に、浸込ませる爲の環境であります。何なん善良であらうか、何の位の善良を用ひるか云ふ事は却々難しいが、あの善良の濃さ云ふ事も、或濃度に於て浸込み易い云ふ事が定る事は當然子供の方がやつて行くから問題はない。善良云ふものを押出して浸込ませうとする時に今の問題は起つて来る。もつと問題を實際に就て申します。幼稚園で、善良なる環境を與へる云ふ事の手段として、分りいゝのはお話であります。其のお話の中に道徳性を持つたお話をすると事は宜しい。何も、ナンセンスなお話、美のお話、文學的なお話、メロディーの、イマジネーションのお話、これは先刻の意味であります。それ許りでいゝ譯じやない。矢張り其の話、中に道徳性の、善良性の纖込まれたお話を聞かせる事は必要であります。それを聞いて居る度に子供の性情が其のお話に依て溶けて、其の中に先生の選ばれた善良性が浸込む事になるであります。そこでそのお話云ふ場合で申して見ますと、何んな善良性がいゝか云ふ丈で、子供がたゞ感服する丈のお話云ふものはよくないと思ふ。よくないのでないが浸込ます云ふ事に於て乏しいと思ふ。而も斯う云ふ事を申しますのは、小學校にしても或は普通の家庭の場合

に於きましても、道徳的善良なるものを子供に語らうとする時に、實に實に飛離れた道徳的善良……人類の中で何人がそれが出来るであらうか云ふ高級な話を子供に持つて行く事があります。これは勿論平凡な話許りして居てはいけますまい。ぐつゝ高い話をして、人間はそこまで偉い云ふ風な感じを持つ事も必要であります。小學校の三年遅りから私はそろへ、人間の道徳生活の高さを示して驚きの感じを持たせる事が必要だと思つて居ります。三年生から四年生位迄は、日本に富士山を云ふものがある。こんな高い山がある云ふ事に興味を持ち得る……持たせ得る事も必要と思ふ。幼稚園で富士山が高いと言つたつて、あの高さが何萬何千尺あると言つたつて「そんなに高いんだよ」と言ふと「あの砂場の山は何方が高いの?」と言ふ丈です。で、その程度の子供に人類生活の高さを語る事は賢い方法であるか何うか云ふ事を私は申したのであります。そこで無暗に高い話をもつて子供に感心させたら何うである。賢人君子になつて来ましたら、涵養されるんじやなくて鑿らむとする事が道徳修養の上に出て来る。そんな幼児じやないから、要するに涵養する。激成激發すべきではなく涵養する。それならばそんな、仰いで及び難しこ思はせるよりはもう少し樂な氣持で、其の中に溶込み得る様な卑近な……申しますが、さう云ふ趣きを以て善良さをお話するのがいいぢやありませぬか。餘り高級な、世にも珍しい様なえらい話、親孝行の話を子供にして、「家が貧乏でおつかさんの爲に斯う云ふ孝行な子供があつた」と言つたならば「家のお母さんは貧乏でも病氣じもなし困るな」と言つた云ふ笑話がありますが、その笑ひ方にも色々ありますがその笑……おかしい云ふのは單におかしいだけではなく、其の聞いた子供の中に浸込まなかつた云ふ事を立證して居ると思ふ。そんな話を幼稚園で幾らしたつて話らぬ。そこで私はその善良さ云ふ道徳の高さを、何の位の高さ云ふ事は却々言へないが、浸込み得る様な高さ、浸込み得る様な環境の與へ方、斯う云ふ所に意を用ひるのが必要じやないかと思ふ。涵養云ふ言葉に即して斯う云ふ事を考へたのであります。

もう一度約めて申します。善良なる性情を涵養し、云々言葉である以上は、善良なる性情が子供の中に、既に外から造られる前にある事を考へなくちやならぬ。或事を考へた以上は、それを更に善良なるものにすべく、善良なる環境を以て浸込ませて行く事も、皆様の疾にやつて居られる如く實に必要な事である。然しそれで足らず、その持つて居るものを作長させる浸し方としては、所謂彼等を彼等の實に本然のうつこりした、意識と概念に煩はされない世界に放つて置く事、そこに又一つの大きな意味があるのであるまいかと斯う考へて居ります。今日のお話はこゝで終ります。

(文責在編輯部)

七、意見發表

- 1 協議題 研究題 談話題 等御發表ノ通知ハ八
月二十日限リスト

雜 錄

臺北市保育會主催
臺灣教育會後援

保育大會要項

一、期 日 昭和十年十一月二日(金曜日)一日間

二、場 所 臺北市

會場(追テ確定次第出席ノ方ニハ改メテ通知ス)

三、參 加 者 全島幼稚園關係者

内地幼稚園關係者

四、會 費 島内ヨリノ參加者ニ限り一人ニ付金貳圓也

(第一日ニ御提出乞フ 其際會員章ヲ交付シ
テ領收證ニ代フ)

九、日程(豫定)

第一日

(午前九時)

- 一、開 會
一、國歌合唱

- 一、勅語奉讀
一、祝 辞

- 一、主催者挨拶

- 一、議長推薦

- 一、議 事

五、參 加 申込 昭和十年九月五日迄ニ臺北市表町私立臺北

幼稚園內臺北市保育會事務所宛申込用紙ヲ

用ヒ申込マレタシ

六、講 演 幼稚園保育ニ關スル諸問題ニ就キテ(講演
者目下交渉中)

者目下交渉中)

2 協議

の見込

一、講演

第二日 (午前九時開會)

一、研究發表

- 1 地方的保育資料ニ關スル研究
- 2 本島ニ於ケル特殊事情ニ關スル研究
- 3 幼兒ノ心身ノ發育ニ關スル調査研究
- 4 其他

一、議事 諸問事項答申案ノ議決

其他

一、閉會之辭

(正午)

備考

一、十月三十日三十一日の兩日に亘り帝國教育會主催の下
に臺北市に於て全國初等教育者大會開催に付右大會に御
參加の序を以て本大會に御來會下さるれば汽車五割汽船

三割引ある筈

二、本會に御出席の方々に對しては宿舍の斡旋及市内觀光

の案内等本會に於て行ふ

三、臺北滯在及島内視察中の宿泊料は一泊二食付參圓内外

四、旅費概算

イ、東京臺北間旅費 (二等連絡切符) 金五拾八圓四拾錢
三等 同 金貳拾六圓七拾錢

同割引券使用者 (二等) 金參拾八圓貳拾錢
三等 同 約金八拾圓

ロ、島内觀光旅費 (二週間豫定) 三等旅行 約金五拾圓

三等 同 約金五拾圓

送放園稚幼の月十

十五日 音樂鑑賞

一日 童話 お母さんの心 村岡 花子
八日 唱歌 カケツコ ダン・道子

二十一日 お詫人 つよい日本軍 安倍 季雄

二十九日 唱歌 ウサギ 未定

評好

七版

東京女高師教授
附屬幼稚園主事

倉橋物三先生著

四六判美本三百五十頁
口繪寫真實際實景多數入

價二圓五十錢
送料十六錢

幼稚園保育法之具論

一保育法の眞諦即ちコツを悉く披瀝
二現代に於ける完備せる保育法原論
三保育界蓄宿の力作・幼稚園必須書

東京女高師教授
倉橋惣三先生共著

日本幼稚園史

菊判四八〇頁
定價三・八〇
送料二〇

大好評

東京女高。前附屬幼稚園主事
師教授・現附屬小學校主事
森川正雄先生著

堀七藏先生著

四六判美本 價一圓八十錢
口繪寫真多數
送料十六錢

幼稚園保育の諸問題

二二保育上重要問題實際的解説指針
理學校連絡問題に立ち就て特に詳述

同附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園の理論及實際

菊三五〇頁
定價三圓
送料十八錢

社會資合式株書圖洋東

京阪大

番七三〇一京東替振・目丁一町保神區田神市京東
番六五五九三阪大替振・目丁一町寺堂安内・區南市阪大

兌發

爽かなこの秋に

お子達の爲の屋外保育用品

弊社工場の特に入念に吟味製作せる
堅牢にして體裁よき安全の品々——

携帶黒板——幼兒自身が適宜の所へ持ち運び自由な折
疊式黒板。

一組 金十五圓

折疊椅子——鋼鐵骨に丈夫な布を張つた折たゞみ自在
の椅子。
折疊卓子——堅牢な蝶番で折疊み自由、長さ四尺中二
尺高さ一尺五寸、二脚一組 金一圓二十錢

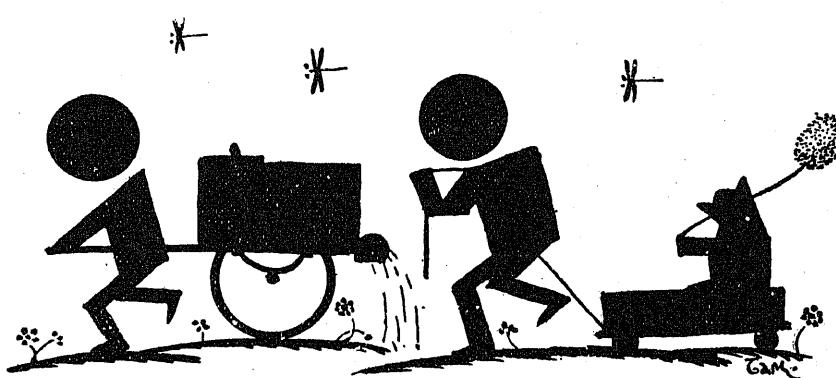
一組 金七圓

トロツコ——車、心棒とも鐵製堅牢、子供に應用の途
廣し。
一臺 金三圓

お伽車——折疊式構造の輕便な車、面白い動物の形
をした愉快な車、お辨當や保育の品々を積んで園外
に子供が自由に引き出すもの、應用多端。

一臺 金二十五圓

押 車——幼兒が自由に押し歩く運搬車、これも様
様に應用されます。一臺 金三圓五十錢
其他幼稚園、幼兒用各種運動具、最新の製作に係る新
案新様式の運動具多種。



株式会社 ベーレフ館

番七二八三(33)段九話電・路小川今・田神・京東店本

番八三九一町本話電・五町後備・區東・阪大所張出